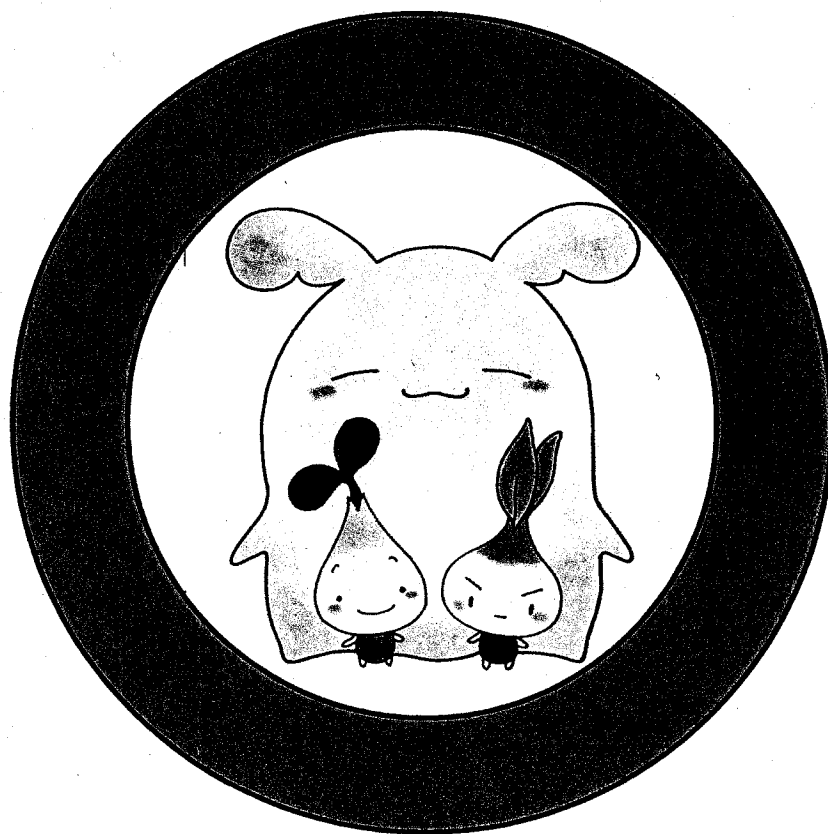
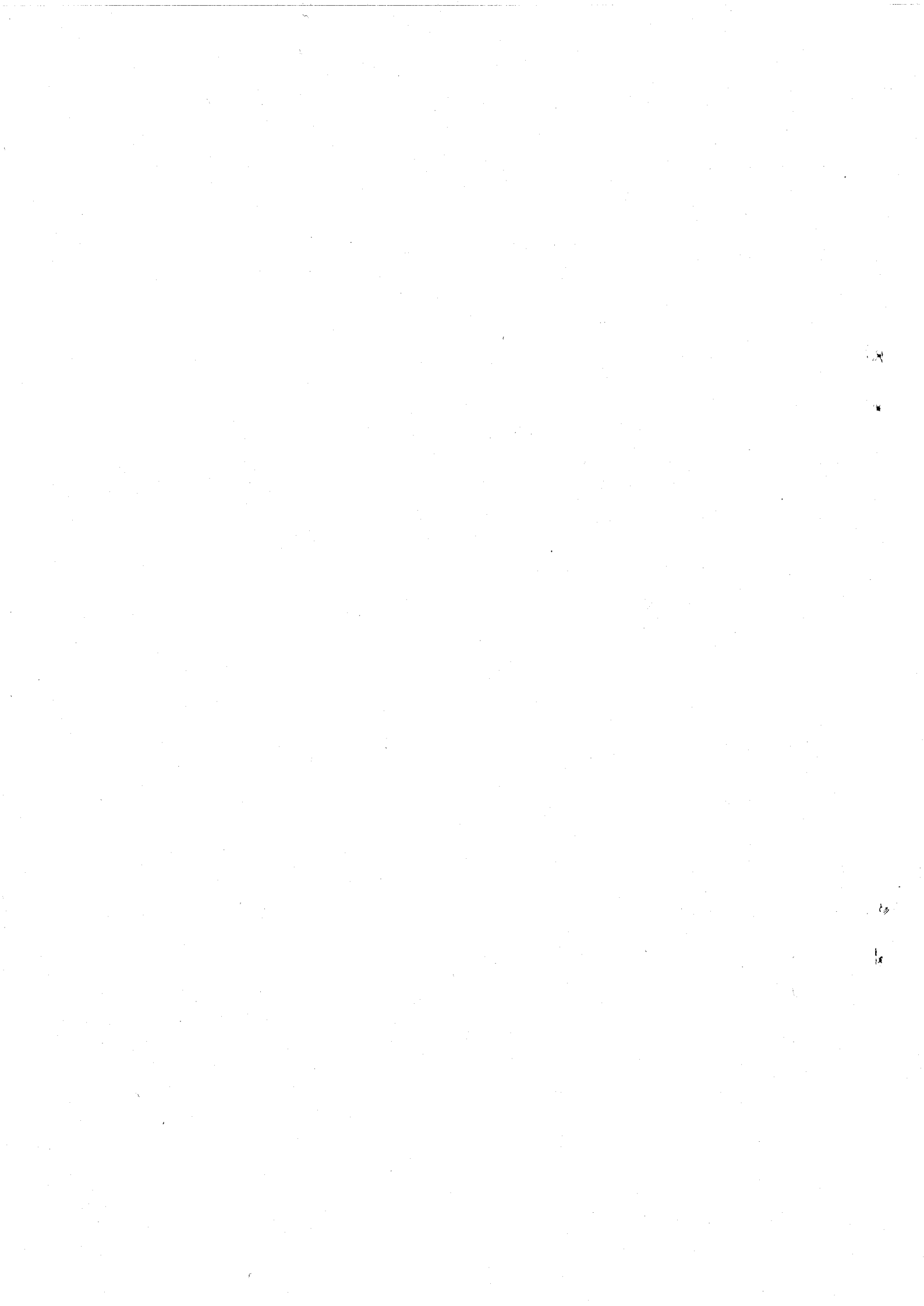


**令和5年度新宿区協働推進基金助成金  
一般事業助成  
公開プレゼンテーション**



令和5年5月30日(火)  
プレゼンテーション会場：新宿区役所本庁舎6階 第2委員会室



## ☆助成金の目的☆

新宿区では、地域課題を解決し区民の生活をよりよくするために、社会貢献活動への協働推進基金を活用した助成を通じて、NPO等(特定非営利活動法人・ボランティア団体等)団体が安定した事業活動を行うための支援を行います。

### 協働推進基金とは？

区民及び事業者等からの寄附金を積み立て、助成を行うことで、協働による地域社会づくりの推進するために、平成16年度に設置した基金です。

## ☆助成対象活動☆

区民の福祉の向上を目的とした社会貢献活動で、NPO等の特性を活かして、新宿区の地域課題や社会的課題の解決を目的とし、区民の社会貢献活動の啓発に寄与する事業に助成を行います。

## ☆助成対象団体☆

特定非営利活動法人(NPO法人)やボランティア活動団体等の営利を目的としない団体を対象としています。

## ☆助成金の額☆

助成額は1事業あたり上限50万円で助成対象経費の2/3までを助成します。

同一または継続性のある事業については3回まで助成が可能で、2回目以降の助成率は、助成対象経費の1/2までです。

新型コロナウイルス感染症対策経費は上限2万円まで、助成率10/10で助成します。

(※助成金に上乗せするものではなく、50万円に含みます。)

令和5年度予算総額は200万円です。

# 1 プログラム

- 13時45分 開会
- 13時50分 新宿区協働支援会議座長挨拶・委員紹介
- 14時00分 プレゼンテーション実施要領説明
- 14時05分 プレゼンテーション開始

## \* プレゼンテーション進行予定時間

(団体名)	(開始時刻)
1 四谷アートフェスティバル実行委員会	13:50
2 First Step	14:25
3 あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場	15:00
4 シャンティ国際ボランティア会	15:35
5 防災コミュニティネットワーク	16:10
6 シャプラニール=市民による海外協力の会	16:45
7 チーム・フランポネ	17:20
8 えがおさんさん	17:55

18時30分 終了予定（※進行予定時間は前後する場合があります。）

## 2 プレゼンテーション実施団体及び事業概要

### プレゼンテーション実施順

No.	団体名	事業名	助成申請事業概要	ページ
1	四谷アートフェスティバル実行委員会	第4回四谷アートフェスティバル	<p>① 主な対象 大人から子どもまで</p> <p>② 目的 アート作品展を開催することで、地域住民をも動員する文化活動を行い、イベントの実施によって人々の交流が生じ、町中が賑わうことを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 (1)公募展(2)高齢者を中心とした地域住民による造形作品の展示(3)地域の学校や画塾の児童生徒の作品の展示</p>	<p>申請書類 P7~P13</p> <p>プレゼンテーション資料 P14~P19</p>
2	NPO法人 First Step	区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会及び、ひきこもり個別無料相談会	<p>① 主な対象 民生委員・児童委員、町会役員、引きこもり当事者及び家族、支援をしようとしている一般区民</p> <p>② 目的 引きこもり(不登校を含む)への「地域住民の理解促進」と対策の周知及び家族会の存在の周知を目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 講演会「引きこもり(不登校を含む)への理解と対策」を開催し、講演会の翌日に「ひきこもり個別無料相談会」を実施する。</p>	<p>申請書類 P21~P36</p> <p>プレゼンテーション資料 P37~P44</p>
3	NPO法人 あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場	子どもの文化体験格差解消プロジェクト	<p>① 主な対象 小学生、小学校や学童クラブなどで関わる先生や指導者、子どもを支える団体の関係者</p> <p>② 目的 7~10才の子ども達に対し、保護者の選択なしに文化体験の機会を届けること・子どもに携わる大人も一緒に体験することで、日常のなかの遊びが広がること・子どもに関わる人々と体験格差について学び、まとめ資料を作成することを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 (1)小学校でアーティストによる体験授業を実施する「アーティスト派遣事業」・(2)学童クラブ等で実施する「あそびの出前事業」・(3)10才後の子どもや保護者の実状を共有学習する「講演会事業」・(4)体験格差の現状を明らかにする資料の作成など子どもの文化体験里親寄付制度への準備事業を実施する。</p>	<p>申請書類 P45~P55</p> <p>プレゼンテーション資料 P56~P62</p>

No.	団体名	事業名	助成申請事業概要	ページ
4	公益社団法人 シャンティ国際ボ ランティア会	四谷四丁目におけ る親子防災減災推 進事業	<p>① 主な対象 子ども食堂利用者・スタッフ、防災区民組織、 地域住民、NPO</p> <p>② 目的 四谷四丁目地域において、市民活動を行う施 設や団体がつながり、災害時の協力関係・体 制を強化するきっかけを作ること、また新宿 区の他の地域にも防災減災を波及させてい く足がかりとすることを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 (1)子ども食堂で学ぶ防災：地域の防災設備や 危険箇所確認する防災まち歩きを行う。歩い たコースを地図におこし、防災設備や危険箇 所を可視化し気づきを共有する災害図上訓 練を実施する。(2)まち歩き振り返り会：(1)の 活動報告と意見や課題の共有を行う。</p>	<p>申請書類 P63～P70</p> <p>プレゼンテ ーション資料 P71～P79</p>
5	NPO法人 防災コミュニティ ネットワーク	レッツボウサイブ ロジェクト～ボウ サイおそうじ大作 戦！～	<p>① 主な対象 地域住民、子どもから大人までのボランティ ア、地域外のボランティア</p> <p>② 目的 防災視点を取り入れた地域清掃を行うこと で地域の安心安全の確保と、活動を通じて地 域住民同士のコミュニティの形成やネット ワークを構築することを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 防災視点を取り入れた清掃活動を実施する。参 加者は、清掃活動中に見つけた危険箇所の写 真などを落とし込んだ地図の完成を目指す。 地域の危険箇所の発見と把握、防災士等から 隠れた危険の説明、行政発信情報の見つけ方 など、災害時に役立つ情報の提供等を行う。</p>	<p>申請書類 P81～P86</p> <p>プレゼンテ ーション資料 P87～P93</p>
6	NPO法人 シャプラニール＝ 市民による海外協 力の会	「わたしの隣の外 国人」を知る・つ ながる連続講座	<p>① 主な対象 地域課題に関心がある人、多文化共生に興味 のある人、同じ地域に住む外国人の状況につ いて知りたい区民</p> <p>② 目的 連続講座を通じて、日本や地域コミュニティ における在住外国人の状況について理解を 深め、在住外国人と共に暮らすことを我が事 として捉えるような意識の変容や主体的に 関わるといった実践に繋げることを目的し た事業。</p> <p>③ 活動内容 外国人受入れの変遷の振り返りや現状、区内の 多文化共生の状況、地域活動を行う人の活動紹 介、在住在勤外国人による母国文化の紹介な ど多文化共生の学びを深める講座を開催す る。</p>	<p>申請書類 P95～ P104</p> <p>プレゼンテ ーション資料 P105～ P112</p>

No.	団体名	事業名	助成申請事業概要	ページ
7	チーム・フランポ ネ	新宿国際交流漫才 大会 S-1 グラン プリ	<p>① 主な対象 外国人留学生、日本人</p> <p>② 目的 芸人の視点で「お笑い×新しい多文化共生」を提案するというテーマで、外国人留学生と区民がお笑いを通じた交流を促進させ、外国人に対する差別意識の軽減を目的としている事業。</p> <p>③ 活動内容 新宿区の日本語学校などで、2分間の漫才の完成を目指す講座「漫才作成講座」の実施と、外国人留学生による漫才大会「新宿国際交流漫才大会 S-1 グランプリ」を開催する。</p>	<p>申請書類 P113～ P120</p> <p>プレゼンテーション資料 P121～ P132</p>
8	NPO法人 えがおさんさん	秋まつり	<p>① 主な対象 障害のある児者とご家族、地域の方</p> <p>② 目的 重い障害の子を育てる家族は、様々な課題から外出へのハードルが高く、安心して楽しめるイベントへの参加は難しいため孤立しがちである。こうした背景を踏まえ、子どもの体調管理や身体介護も安心して実施しながら参加できるイベントを開催することを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 難病・障害のある本人と家族向けに有志ボランティアが、区内の養護学校等で秋まつりを開催する。室内でのお祭りの開催・外部依頼出演者や学生ボランティアによる出し物・縁日(ゲーム体験)・おもちゃ等機器の体験ブースを展開する。</p>	<p>申請書類 P133～ P139</p> <p>プレゼンテーション資料 P140～ P143</p>

☆ご協力をお願い☆

アンケートを配布しています。今後の事業実施にあたって参考とさせていただきますので、是非ご協力をお願いします。

ご協力いただいた方にはもれなく、表紙にもなっている基金キャラクターのボールペンを贈呈!! お帰りの際にアンケート回収ボックスへ入れてください。

## 令和5年度一般事業助成二次評価(公開プレゼンテーション)概要

- 1 日 時 令和5年5月30日(火)午後1時30分から午後6時30分まで
- 2 場 所 プレゼンテーション会場 新宿区役所本庁舎 6階 第2委員会室  
(新宿区歌舞伎町1-4-1)

### 3 プレゼンテーションの実施内容

- (1) プレゼンテーションは公開しております。
- (2) プレゼンテーションの登壇可能人数は、1団体3名以内とします。
- (3) プレゼンテーションの方法は自由とします。  
会場には、パソコン、プロジェクター等の機器を設置しています。事前にパワーポイント等の利用を申し出た団体のみ、パワーポイント等を利用できます。
- (4) プレゼンテーション実施順番に不在の団体は、二次評価を棄権したものとみなし、評価対象から除外させていただきます。
- (5) 1団体の発表時間は15分とします。※一次評価での疑問点の回答を含みます。
- (6) 委員からの質問時間は15分程度とします。
- (7) 評価方法は、申請書類、プレゼンテーション、質疑応答の内容に基づき評価を行います。

なお、評価委員の質問内容及び評価項目には、申請時にご提出いただいた全ての書類(団体活動資料等の参考資料部分は、事務局で内容を精査して適量を添付しています。)の内容を含みます。

### 4 助成の決定

助成団体の交付申請結果通知書は6月上旬に送付します。  
助成決定団体は、区のホームページ上でも公表します。



事業計画書

<p>団体名</p>	<p>四谷アートフェスティバル実行委員会</p>
<p>事業名</p>	<p>第4回四谷アートフェスティバル</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p><b>ア 事業目的</b>                  アート作品展は、アーティストだけでなく、鑑賞者（地域住民）をも動員する、優れた創造的な文化活動です。アート作品を展覧することで、多くの参観者が訪れることを期待します。フェスティバルの名のごとく、新たな人々の交流によって町中が賑わい、地域が文化の花を咲かせ、文化の薫る新たな町が創造されることを期待します。</p>
	<p><b>イ 事業概要</b>                  ホームページなどの告知媒体による告知によって、新宿はもとより全国からの応募者による作品を収集し、全作品を展示します。                  また、高齢者を中心とした地域住民による造形作品（地域企業である造花メーカーの材料提供あり）を展示します。                  四谷地区の小中学校に呼びかけ、図工美術作品を収集し、展示します。</p>
<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p>四谷地区では、毎年四谷大好き祭り（三栄町公園などで開催）や、納涼踊り（四谷第四小跡地の四谷ひろば校庭）が、商店連合会等の主催で開催され、多くの参会者が集う一大イベントになっています。しかし、コロナ禍によって両イベントは休止となっています。納涼踊りは4年ぶりに再開の予定と聞きます。                  両イベントは集客力はあるものの、参会者が集う目的が、飲食や踊りに興じることに限られています。                  四谷地区は寺社仏閣など旧跡が多い地区であるが、地域住民の地域文化への関心は低い現状があります。そこで、地域住民の文化振興への機運を高める方策の一環として、アート作品の展覧会（アートフェスティバル）を開催し、芸術文化振興の発信拠点としたいと考えました。そして、                  2018年4月、第1回四谷アートフェスティバルを四谷ひろば（ランプ坂ギャラリー）で開催し、地域の四谷小・四谷中児童生徒の作品や公募作品約200点の展覧会を開催しました。                  2020年11月～12月に第2回四谷アートフェスティバルを開催しました。公募展の他に、地域住民に造花（東京堂から材料提供あり）を1000本制作してもらい校地やギャラリーに展示しました。四谷小・四六小の児童作品の展示も行いました。                  2022年9月～10月に第3回四谷アートフェスティバルを開催しました。公募展の他に住民制作のリボンフラワー（東京リボンから材料提供あり）1000個を展示しました。四谷小児童作品の展示もおこないました。また、東日本震災復興支援チャリティー展を行い60万円を震災関連団体へ寄贈しました。また、宮城・福島県物産即売会を開催しました。</p>



<p>④ 安全対策等 (箇条書きで ご記入ください)</p>	<p>ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両での作品の搬出入をできるだけ控え、各自持参をお願いする。</li> <li>・展示作業時に、作品の落下などを防止するため、複数名による作業を徹底する。</li> </ul>
	<p>イ 新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策のために、参観者への検温・手指の消毒を入室の必須とする。</li> </ul>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p>ア 区民や地域社会への成果・効果</p> <p>アート作品の展覧会を開催することにより、区民や地域住民の芸術鑑賞の機会となる。</p> <p>商店街連合会や町会連合会を通じて、地域住民（特に高齢者）に呼びかけ、造花の制作をしていただくことで、地域住民の交流の場となる。また造形活動への関心を高める機会となる。</p>
	<p>イ 現状や課題に対する成果・効果</p> <p>四谷地区には歴博があり、新宿区の歴史や史跡など展示があるが、美術館は佐藤美術館と画廊が1つあるだけである。そこで四谷ひろば（CCAA アートプラザランプ坂ギャラリー）を文化発信の拠点の一つとして位置づけ、継続的な展覧会などを開催し、芸術文化に触れる機会が増大している。</p>
<p>⑥ 先駆性・専門性</p>	<p>新宿区内でもアートを中心としたフェスティバルは神楽坂における参加型集団絵画制作以外に本フェスティバルがあるくらいで、希有に近い。まして、地域住民による造形活動の参加や地域学校の児童生徒の作品出品は本活動が唯一である。</p> <p>なお、作品の公募を全国に呼びかけ、150～200名の応募を期待している。</p>
<p>⑦ 今後の展望</p>	<p>アートフェスティバルはビエンナーレ方式（隔年開催）で継続して取り組んできたが、今回から毎年実施の方向へ転換することとした。なにより本フェスティバルの全国周知のためには、毎年開催が望ましいと判断し、幸い今回は美大学生のボランティア等の参加が見込め、この点でも取り組みの展望が開けている。四谷の地名が本事業を通して都内はもとより、全国にも知れ渡るような規模の大きな展覧会へと発展することを展望する。</p>



収支予算書

		費 目	予算額	内 訳
支 出 区 分	事 業 費	①使用料及び賃借料	82,755 円	会場使用料 一日 1,839 円×3 部屋×15 日
		②消耗品費及び印刷費	350,000 円	ポスター印刷 500 枚 50,000 円 チラシ印刷 1,000 枚 60,000 円 作品集印刷 A418 ページ 500 部 60,000 円 筆記具・梱包用品 80,000 円 造花材料 100,000 円
		③委託費	130,000 円	ポスター制作費 40,000 円 チラシ制作費 40,000 円 カタログ制作費 50,000 円
		④講師謝礼	110,000 円	審査員謝礼 110,000 円(交通費含む)
		⑤その他謝礼	円	
		⑥交通費	円	
		⑦保険料	円	
		⑧その他諸経費	100,000 円	郵券 84 円×300 枚 210 円×100 枚 宅配 30,000 円(作品返却分) 事務諸費 23,800 円
		⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	4,380 円	手指消毒用アルコールジェル(500ml 入)5 本 1,400 円 非接触型デジタル温度計 2,980 円
		⑩人件費	75,000 円	スタッフ人件費 1 日 5,000 円×5 人×3 日
		事業費(①から⑩の合計)	852,135 円	
		⑪ファンドレイジングに関する経費	円	
		⑫助成対象経費(事業費+⑪)	852,135 円	
		⑬助成対象外経費	円	
		事業総額	852,135 円	
収 入 区 分	内 容		予算額	積算根拠(内訳)
	①	事業収入(参加費、資料代等)	210,000 円	一般出品費 2,000 円×100 名 学生出品費 1,000 円×10 名
	②	寄附金等	300,000 円	協賛金 10,000 円×30 社
	③	補助金収入	円	
	④	協働推進基金助成金	300,000 円	
	⑤	団体負担金	42,135 円	
		収入総額	852,135 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) よつやあーとふえすていばるじっこういいんかい 四谷アートフェスティバル実行委員会	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) すずいし ひろゆき 鈴石 弘之	
	連絡者氏名 [Redacted]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 年 月 その他の場合 2018年4月活動開始 活動歴 5年 か月 (令和5年3月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 13名 団体: 1	入会条件 四谷地区の文化発展に寄与しようとする者
主 な 活 動 地 域	東京都新宿区 その他(全国展開)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / 無 ----- (ホームページ) 有 (URL yotsuyaartfes2020.wixsite.com) / 無	

<p>団体の目的 (定款の目的)</p>	<p>四谷ひろばの主催事業のひとつ「サロン・ドゥ・よつや」と「NPO 法人市民の芸術活動推進委員会」が共同で、四谷地区の文化振興の一翼を担うべく、公募展「四谷アートフェスティバル」を展開することとした。出品作品は全作品展示します。公募展の他に、地域の小中学校へ呼びかけ、児童生徒の作品も同時に展示します。また、住民による造形作品を会期中に展示し、住民参加の展覧会にします。</p> <p>アートは創造する主体であるアーティストだけでなく、鑑賞者（地域住民）をも動員する、優れた創造的な文化活動です。アートが街中にあふれ、多くの参観者が訪れることを期待します。フェスティバルの名のごとく、新たな人々の交流によって町中が賑わい、地域が文化の花を咲かせ、文化の薫る風情が新たな町を創造することを期待して設立しました。</p>
<p>主な活動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四谷地区児童生徒の作品展示</li> <li>・地域住民による造形作品（造花）の制作活動およびその展示</li> </ul> <p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国へ告知し、作品を公募し、寄せられた全作品を展示する展覧会の開催</li> </ul>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名 文化観光課</li> <li>・連携事例 後援名義の取得</li> <li>・連携した内容の詳細 四谷出張所を窓口として四谷地区の町会連合会や商店会連合会へアートフェスティバルの告知を行い、後援の名簿を獲得した。</li> </ul>

## 第4回四谷アートフェスティバル



四谷アートフェスティバル実行委員会

## 2014年「サロン・ドゥ・よつや」の発足



私たちは、2014年、旧四谷第四小学校の廃校後に当施設を利用した「四谷ひろば」の主催事業の一つとして、「サロン・ドゥ・よつや」を立ち上げました。

そして、月一回のペースで四谷地区の歴史の勉強会を行うことになりました。

また、10月には、四谷大好き祭りにも参加し、子ども達を対象とした、アート活動を行いました。

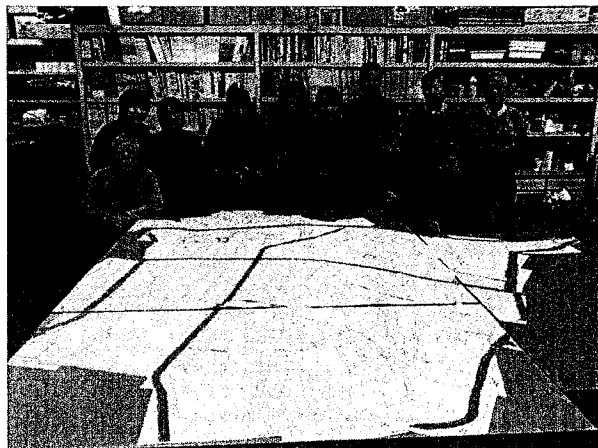




## 2017年「サロン・ドゥ・よつや」の活動

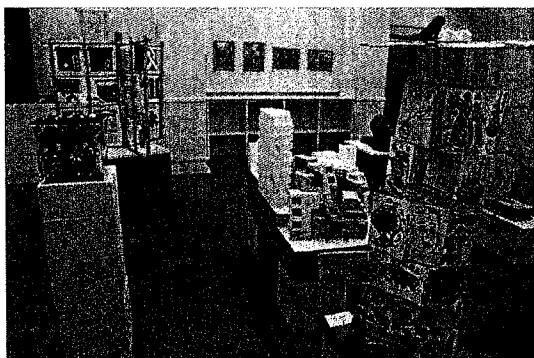
2017年、「サロン・ドゥ・よつや」は、四谷ひろばで開催されるフェスティバルに参加するために、四谷地区の古地図を復元しました。

古地図は会場の床に広げ、子ども達に自分の住む場所を特定してもらった活動を展開しました。



## 2018年「四谷アートフェスティバル実行委員会」発足

「サロン・ドゥ・よつや」は、活動を更に発展させるため、四谷地区の文化振興の一翼を担うことを目的として、新たに「四谷アートフェスティバル実行委員会」を立ち上げました。そして「第1回四谷アートフェスティバル」を4月に開催しました。



第1回四谷アートフェスティバル開催

## 四谷アートフェスティバルの主旨



アート作品展は、アーティストだけでなく、鑑賞者(地域住民)をも動員する優れた創造的な文化活動です。アート作品を展覧することで、多くの参観者が訪れることを期待します。

フェスティバルの名のごとく、新たな人々の交流によって、町中が賑わい、地域が文化の花を咲かせ、文化の薫る新たな町が創造されることを期待します。

第1回アートフェスティバル チラシ

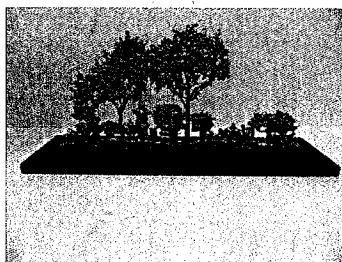
## 第2回四谷アートフェスティバル

2020年11月～12月 第2回四谷アートフェスティバルを開催しました。全国から100点余の作品が出品されました。活動の目的の一つに住民参加を加え、地域企業の「東京堂」より造花材料の提供を受け、地域住民に1000本の造花を制作していただきました。この活動では、区地域協働事業の助成を受けました。また、四谷小学校、四谷第六小学校、成女学園からおおよそ80点の絵画が出品されました。



## 第2回四谷アートフェスティバル

第2回では、初めて外部より審査員を3名招聘し、部門賞各5万円を授与しました。



第2回受賞作品

## 第3回四谷アートフェスティバル

2022年11月～12月、第3回四谷アートフェスティバルを開催しました。

第3回では以下の内容を据えて開催されました。

①公募展②地域住民の造形活動と展示③チャリティー展④物産即売会  
チャリティー展と物産即売会に対して、パチンコ・パチスロ社会貢献機構より  
助成金をいただきました。

公募展 外部より審査員を1名招聘し、大賞を1点選出しました。



大賞には3歳児の作品が選出されました。

## 第3回四谷アートフェスティバル

住民参加の造形活動と展示

東京リボンより材料の提供を受け、リボンフラワーを住民の制作していただき展示しました。



## 第3回四谷アートフェスティバル

東日本震災復興支援チャリティー展では、有志60名によるアート作品の提供を受け、売り上げを被災地福島県の震災関連団体「ハッピーあいらんどネットワーク」「環境エネルギー政策研究所」に計36万円の寄贈を行いました。



## 第3回四谷アートフェスティバル

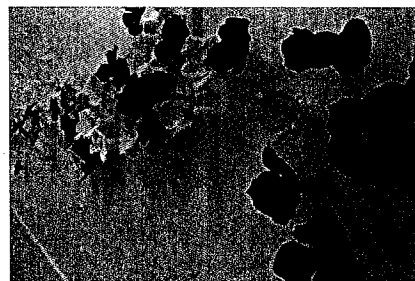
物産即売会は、宮城県石巻市・福島県浪江町・福島県いわき市の3地区より海産物をおよそ40万円仕入れ、販売しました。石巻からは観光課の方にお越しいただき、販売のお手伝いをお願いしました。売り上げの全てを現地へ還元しました。



## 第4回四谷アートフェスティバル

2023年2月23日～3月3日まで開催予定の第4回アートフェスティバルでは

- ①公募展の開催
- ②地域住民(高齢者を中心に)による東京堂の造花を使った造形活動と展示
- ③地域の学校や画塾の児童生徒の作品の展示



4回目のビッグニュースは審査委員長に東京芸大の学長の日比野克彦氏を招聘していることです。ビッグネームによって応募者が増加することを期待しています。



事業計画書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 First Step</p>
<p>事業名</p>	<p>区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会 及び、ひきこもり個別無料相談会</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p><b>ア 事業目的</b></p> <p>ひきこもり（不登校を含む）に悩み地域と隔絶してしまった区民が行政や民間事業者、家族会から安心してきめ細かなサポートを受けるためには、まず、まわりの地域住民のひきこもりへの理解と協力が必要である。</p> <p>区民一人一人がひきこもりへの偏見をなくすことで、苦しんでいる「ひきこもり家族」が、まずは安心して地元住民と接触できるようにすることが大事である。</p> <p>また、合わせて、安易な解決策を求めるがあまり、引き出し屋などの悪質業者に引っかけられないよう多くの失敗を含めた経験をもち、家族に寄り添い、当事者のみならず家族をまるごと支援する家族会の存在を区民に知っていただくことも大事である。</p> <p>本事業では「民生委員、児童委員、町会役員、ひきこもり家族のまわりにいる一般区民」を対象に「ひきこもり（不登校を含む）への地域住民の理解促進と、ひきこもり支援の最先端であるオープンダイアログをわかりやすく説明すること、そして、困っている引きこもり家族の存在を知った時の対応手段の一つとしての家族会の存在周知」を目的としている。</p> <p>(First Step が主体となり、新宿区の行政の皆様と協力し、新宿区内で発生した問題は、新宿区内で解決し、地域住民の皆様を笑顔にし、明るく、楽しく、元気よく、幸せな人生となるよう寄与したい。)</p>
	<p><b>イ 事業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会は12月9日（土）に行う予定である。</li> <li>・講演会名を「令和5年度新宿区協働推進基金一般事業助成事業、第一回新宿区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会」と称する。</li> <li>・それまでに、できるだけ早い時期から、チラシの区や自治会への掲示板貼り出し、学校、保健センター、図書館、地域センターなどの区施設への配布、ホームページ、SNS などへの掲載、その他によって講演会の周知を行うことで、できるだけ多くの区民に参加してもらうようにする。</li> </ul> <p>(参加者募集について、新宿区民の先行募集ののち、一般募集を行う。)</p>

同時に、それまでに家族会のリーフレットも作成し同時に配布する。

特に、区民と多く接する機会のある民生委員、児童委員、町会役員には新宿区の関連する部署、社会福祉協議会、等を通じて、時間をかけ重点的に講演会の周知活動を行う。

・区民への周知が十分伝わったうえで、ひきこもりに関する第一人者である東京都ひきこもりに係る支援協議会委員、筑波大学医学医療系社会精神保健学教授の齋藤環（さいとうたまき）氏を講師としてお招きし、

①講演会第一部（理解）として、「ひきこもり（不登校を含む）はなぜ増え続けるのか？」について講演をしてもらう。

②第二部（対策）として「ひきこもり家族会でのオープンダイアログ的対話に可能性はあるのか？」について講演してもらう。

なお、東京都のひきこもり等のサポートガイドライン（R5年3月版、資料添付）でも支援団体に対し、オープンダイアログの視点を取り入れることが推奨されている。

・講演会に参加した方々を通じて、ひきこもりへの関心と理解を深めてもらうため、また、周囲に該当する家族がいたら紹介できるよう家族会のリーフレットを参加者に配布する。

・数か月ののち、当日参加できない区民のため、新宿区のひきこもり対策の一環として、新宿NPOネットワーク協議会の力を借り、今回の講演のインターネット無料動画配信をする。

・講演会終了後、次年度第二回講演会のための講演会満足度アンケート調査をおこなう。



## &lt;社会的課題と新宿区&gt;

ひきこもりには「ひきこもりは家族への寄生、甘え、怠け、単なる親の育て方の問題」といった根強い偏見や差別的な対応から、家族は地域との繋がりを避けてしまい、本人のみならず家族そのものが困っていてもSOSがだせず、周囲から孤立無縁化してしまう恐れがある。

また、ひきこもり当事者を養っている親が高齢化することで、身近な行政サービスとの接触を困難なものにしている。

意を決して、家族や当事者が行政や民間事業者に相談をするにしても、周囲との接触を避ける傾向にあることから、できるだけ地元から離れた場所で相談をすることになり、そして離れているがゆえに、支援者の頻繁な相談や継続的な相談が難しくなってしまう。

そのことが当事者も家族もひきこもりからの回復をおきらめてしまうことになる。

そういったひきこもり当事者やその家族が無理なく安心して相談し、継続的に十分な支援を求めることができるようにするためには、当事者・家族を含めた区民（地域住民）のひきこもりへの偏見のない十分な理解を促進する必要がある。

## ② 地域課題・社会的課題

昨年11月に内閣府が調査したところ、全国で生産年齢（15歳から64歳まで）層にあたる方のうち広義の引きこもり（趣味の用事のときだけ外出する、近所のコンビニなどには出かける、自室からは出るが家からは出ない又は自室からほとんど出ない者で、6か月以上ひきこもりの状態にある者）にあたる人は推計146万人いることが分かった。

また、内閣府の7年前の調査では生産年齢人口の1.57%であったが、今回の調査では2.02%であったので、かなりの増加傾向にあることが判明した。（資料として、NHK News より「「ひきこもり」推計146万人 主な理由“コロナ流行”内閣府調査」を添付）

それらを踏まえ、新宿区では江戸川区のような「ひきこもりの実態調査」がされていないので、それら数値を当てはめてみて、新宿区のひきこもり当事者、および家族の人数を推計してみた。

（なお、江戸川区の実態調査については添付資料：行政機関によるひきこもり支援シンポジウム参照）

(生産年齢人口は新宿区のホームページからデータを使用、資料として添付)

令和5年3月1日現在

	生産年齢人口 (新宿区のHP、新宿区の人口より)	ひきこもり当事者の推定潜在人数 (2022年の内閣府調査によると生産年齢人口の2.02%)
日本人	212,320人	計算上4,289人
外国人	35,901人	計算上73人 ただし、外国人の場合、ひきこもりが存在するか不明?

よって新宿区には約4,300人ほどのひきこもり当事者が存在すると推計される。

しかし、引きこもり問題に悩む人は当事者だけではない。

その状況を心配する父母、祖父母、兄弟姉妹、等の家族が存在し、また周りの友人たちも悩み苦しんでいることを忘れてはならない。

また、上記にはひきこもりの原因となる不登校の当事者および家族が含まれていない。

ただ、現状、学校が実態を把握できる不登校は別として、近所にひきこもり家族がいるのかどうかは全くわからないというのが区民の実感であるように思われる。

それは、地域住民に「引きこもりは悪い、甘えである。親の教育が悪い」といったような、ひきこもりに対する誤った理解があるがゆえに、ひきこもり問題に悩める家族が、周囲に悟られないように、SOSを出せないで自分たち家族だけで解決しようとしているからである。

本来ならば社会全体、地域全体で困っている家族に寄り添い、助けあっていかなければならないのであるが、周囲の理解不足から相談や支援につながれないのである。

また、同調査によると、40歳以上のひきこもりの52%が女性であることも判明している。

女性は家事手伝いという隠れ蓑に隠れてしまい、実情はひきこもり当事者であることも多いように思われる。

こういった隠れたひきこもり当事者、家族の実情の把握は、平日頃、住民との接触機会が多い、民生委員、児童委員、町会役員がしやすいと思われるし、直接の声掛けもしやすい立場であると思われる。

同時に、問題を解決する手段をある程度知らなければ、どう対応していいかわ

からず、実際の行動に移しにくいであろう。

それには、それら立場の地域住民が地元の経験豊かなひきこもり家族会の存在を知っていることは、地元住民の相互支援として積極的にひきこもり家族に声掛けしていくことができる支援体制の一助になるはずである。

#### <新宿区の地域課題>

当会は新宿区にありながら、利用者は殆ど紹介であり、周知活動をしてこなかったし、他区、他県のひきこもり家族会との連携ももたずに独自の活動を続けてきた。

会がNPOとなり、会の存続性を考えた結果、会の方針を転向し、他の家族会との連携、新宿区を重点においた周知活動をするべきとの結論に至り、ここ最近、それに沿った活動を頻繁にし始めている。

その結果、新宿区について、他区の家族会との交流で知り得た情報から、いくつか地域課題が分かったことがある。

1. 新宿区の引きこもり相談専用窓口がないため、家族が相談しにくい。  
(新宿区くらしのガイドでひきこもりを調べた場合、その相談窓口が多岐にわたっており不明確である。23区の中で一番相談窓口が多い。  
(資料：都内区市町村におけるひきこもりに関する相談窓口一覧を参照)

また、例えば、「年齢が30代から50代の病気ではなく、障害もなく、だが働けなく、部屋から一步も出られない、外部との接触ができない、という典型的なひきこもり状態に我が子になった場合」、はたしてその家族はどこへ相談に行けばよいのか？

区で記載されている全てのひきこもり相談と称する窓口をみても、その答えはわからないのが実情である。

#### <参考>専用相談窓口の他区の一本化例

(資料：行政機関によるひきこもり支援シンポジウムの一部抜粋資料を参照)

- ・ 豊島区ではひきこもり相談窓口を本庁舎4階に設け、周囲の目を気にしないで済むひきこもり相談専用の部屋があり、また、ひきこもり情報サイトも用意され、さらに相談者は必要な支援プログラムのオーダーメイドができるようになっている。

ひきこもり対策には区が相当な力を入れているのが感じられる。

- ・ 世田谷区ではひきこもり相談窓口リンクを開設しており、支援機関相互

	<p>の連携強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨田区は今年度から、ひきこもり専用相談窓口を設置することが決まっている。</li> <li>・ 文京区は生活福祉課にひきこもり支援センターをおいている。</li> <li>・ 中野区はひきこもり相談窓口をおいている</li> <li>・ 江戸川区は約 18 万世帯へひきこもり実態調査を予算と時間をかけて実施し、区が把握しているだけで当事者が 9096 人（令和 3 年度）と判明し、令和 4 年度 NPO 法人と連携して福祉部生活課にひきこもり施策系の体制を作っている。</li> <li>・ 武蔵野市はひきこもりサポート事業「それいゆ」を設置している。</li> </ul> <p>といったように他区では相談窓口を明確化している。）</p> <p>2. 新宿区内の引きこもり家族が他区に流れている          （新宿区に家族会があるということを知られていないということ、さらに、上記のとおり、行政に相談に行ってもどこに行っても良いか不明なことも影響していると思う。）</p> <p>3. 社会福祉協議会も、多忙な為だと思われるが、明確な専用の引きこもり相談窓口を設けていない。          （昨年度も、ひきこもりで相談にきたのは1件だったと聞いている）</p> <p>以上の社会課題・地域課題を解決していくためにも、繰り返しとなるが、まず住民との接触機会が多い、民生委員、児童委員、町会役員による「ひきこもり（不登校を含む）への地域の理解促進と、それらの方々による対応手段の一つとして家族会の存在を周知する」活動が大事である。</p> <p>それを第一義の目的とする今回の講演会は、区の引きこもり対策の第一歩（ファーストステップ）になるものと確信する。</p> <p>そののちに、次の段階としては広く一般区民を対象としたそれら活動を継続的に何度も何度も繰り返してしていくことが効果的だと思われる。</p>
<p>③ 活動内容          (イベントが複数ある場合)</p>	<p>I. イベント（会議）名：（ 令和 5 年度新宿区協働推進基金一般事業助成事業、第一回新宿区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会）</p> <p>ア イベント（会議）の開催予定等</p> <p>活動内容：ひきこもり研究第一人者の筑波大教授、斎藤環氏による講演会</p> <p>実施日：2023 年 12 月 9 日（土）</p> <p>実施回数：（ 1 ）回／月・年</p> <p>実施場所：オンライン ・ 会場（ 新宿区立四谷地域センター ）</p>

は、こちらのページを複写して作成してください

**イ 対象者及び参加予定人数**  
 対象者：新宿区民、他  
 参加予定人数： のべ（少なくとも100）名 直接参加100名、無料オンデマンド配信による参加 多数名の参加が期待される

**ウ 周知**  
 <媒体>  
 ポスター     チラシ     HP     その他（SNS）  
 <周知先>  
 区施設（特別出張所、地域センター等）     区直営掲示板  
 その他（ Twitter 等の SNS での告知 ）

**エ スタッフ等人数**（のべ人数を記載）  
 団体構成員（ 6 ）名                      講師等（ 1 ）名  
 アルバイト（ 4 ）名                      ボランティア（      ）名

**II. イベント（会議）名：（ ひきこもり個別無料相談会事業 ）**

**ア イベント（会議）の開催予定等**  
 活動内容：  
 講演会終了後、当会のピアカウンセラーが、①民生委員、児童委員、町会役員などの地域住民に対して、身近にひきこもり家族が存在していて支援しようとしている場合の相談、また、②ひきこもりの当事者、家族に対する個別相談を、講演会終了後、すぐ翌日に戸塚地域センターにて1組1時間程度2人の相談者の体制で無料にて行う。  
  
 それ以降の相談者については、本事業ではないが、当会の居場所（月2回実施）等にて1組1時間程度の無料相談対応をする。  
 （困っている家族を放置することはありません。）  
  
 実施日：2023年12月10日（日）  
 実施回数：（ 1 ）回／月・年  
 実施場所：オンライン ・ 会場（ 新宿区立戸塚地域センター ）

**イ 対象者及び参加予定人数**  
 対象者：新宿区のひきこもり当事者、家族、および支援しようとしている一般区民、他  
 参加予定人数： のべ（ 8 ）組まで

**ウ 周知**  
 <媒体>  
 ポスター     チラシ     HP     その他（ SNS ）  
 <周知先>  
 区施設（特別出張所、地域センター等）     区直営掲示板  
 その他（ Twitter 等の SNS での告知 ）

**エ スタッフ等人数**（のべ人数を記載）

	<p>団体構成員 ( 4 ) 名          講師等 (      ) 名          アルバイト (      ) 名          ボランティア (      ) 名</p>
<p>④ 安全対策等 (箇条書きで ご記入ください)</p>	<p><b>ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四谷地域センター、戸塚地域センターの利用規則に則って安全対策に十分な注意を図る。</li> <li>・避難経路の事前確認、およびスタッフへの周知</li> <li>・センター内に案内スタッフを配置する。</li> <li>・スタッフは全員スタッフの腕章をつけて、お客が会場で困らないようにフォローを受けやすいようにする。</li> <li>・個人情報の厳格、万全な保護体制の整備</li> <li>・来場者が来て良かったと思えるきめ細やかな心配りを心掛ける。</li> </ul> <p><b>イ 新型コロナウイルス感染症対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場入り口での検温を実施する。(検測者3人体制)</li> <li>・発熱があった場合は理解をしていただいたうえで参加費を返金し、会場への入場を適宜お断りするとともに、後日の無料オンデマンド配信に切り替えていただく。</li> <li>・手指のアルコール消毒を入り口にて行う。</li> <li>・会場内においてスタッフは全員マスク着用を義務化する。</li> <li>・来場者にはできるかぎりマスクの着用をお願いし、不携帯の方のために会場入り口にマスクを用意する。</li> <li>・今後の感染状況によっては、より厳しい対応を行う。</li> </ul>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p><b>ア 区民や地域社会への成果・効果</b></p> <p>斎藤環氏はひきこもりについて日本の第一人者であり、フィンランド発祥でひきこもり支援の最先端であるオープンダイアログを日本に紹介した方である。</p> <p>名前だけでも知っている区民は多いと思う。したがって、大勢の区民が参加されると予想され、ひきこもりへの理解度を高めることができると思う。</p> <p>また、「オープンダイアログとは何か」を知ることはさらに深く理解を高めることができると思う。</p> <p>さらに、後日、講演会の録画を無料オンデマンド配信することで、さらに多くの区民が視聴すると予想される。</p> <p>また、社会福祉協議会、区役所の関連部署などの協力を通じて講演会の実施を民生委員・児童委員・町会役員、等に知っていただき、区民との接触機会の多い各委員、役員がひきこもりへの理解を高めていただければ、さらに具体的で大きな効果が期待されると思う。</p>

そして、それらの人たちによる、ひきこもっている人たち（無自覚の人  
もいる）への優しい声掛けがなされれば、さらに安心・安全な地域社会の  
発展につながると思う。

区内で発生したひきこもり問題は、区内で解決することが地域住民の結  
束と相互支援の体制、安心安全な地域環境をつくりあげるものとなる。

イ 現状や課題に対する成果・効果

著名人による講演会を通して、ひきこもり、不登校への誤解をあらた  
め、それが誰にでも起こり得る身近な問題であることを知り、地元、行  
政、家族会が協力して取り組むべき課題であると理解していただけるもの  
と思う。

特に苦しんでいる区民に接することの機会の多い民生委員、児童委員、  
教育関係者、が講演会を通じて改めて強く理解することが、一人でも多く  
の若者、中高年を救うための手っ取り早い基盤となる。

また、新宿区に不登校を含めたひきこもり家族会が唯一存在することを  
ほとんどの区民が知らないと思われる。

困った家族は隣接区の家族会に参加されていることを当会と協力関係に  
ある他区の家族会から聞いている。

今回の講演会で家族会のリーフレットを合わせて配布することで区内に  
も家族会が存在するということの認知がなされると思われる。

今年度は、着実にそのあたりの成果・効果を成し遂げたい。

それらを引きこもり問題解決へのたたき台として今年度はスタートし、  
来年度、再来年度に徐々に広く一般市民のひきこもり理解度アップ、家族  
会の認知度アップ活動を継続的に行い、そして発達障害や8050問題など、  
より具体的、専門的な講演会を今後、実施していきたい。

⑥ 先駆性・専門性

団体としての先駆性：

東京都においてはひきこもり支援団体に対してオープンダイアログの考  
え方を取り入れることを推奨している。（ひきこもり等のサポートガイド  
ライン、R5年3月版参照）

当家族会では親の勉強会において早くから、家族に対する集団カウンセリ  
ングでは、その考え方の中心である多声性（ポリフォニー）の尊重、主観  
と主観の交換・共有を実施してきた。





<p>⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)</p>	<p>有の場合は、助成名称(団体)及び助成額 助成名(団体名): 助成額: 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</p>
--	---

収支予算書

費 目		予 算 額	内 訳
事業費	①使用料及び賃借料	16,700 円	四谷地域センター（多目的ホールによる講演会、講演会当日午後1時から5時15分の部で2枠9,800円、事前準備1枠4,900円：椅子の配置具合とプロジェクター、マイクの点検のため）、戸塚地域センター（ひきこもり無料個別相談会、会議室3、会議室4、午後1時から5時15分の部で2枠、各1000円）
	②消耗品及び印刷費	105,900 円	家族会のリーフレット印刷費（1500部）30,000円、講演会チラシA4サイズ片面（1500部）デザイン料込で60,000円、アンケート用紙コピー代600円、アンケート用使い捨てペンシル（100本）2,300円、スタッフ腕章@1,300×10枚=13,000円
	③委託費	15,220 円	会費集金Peatix利用（参加費1000円×4.9%+99円）×100名=14,800円、販売代金払い出し時の振込手数料210円×2回（先行予約分と一般予約分）
	④講師謝礼	100,000 円	齋藤環氏への講演会謝礼
	⑤その他謝礼	円	
	⑥交通費	円	
	⑦保険料	円	
	⑧その他諸経費	50,000 円	YouTubeによる無料配信動画撮影費(新宿NPOネットワーク協議会に撮影を依頼)
	⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	17,850 円	※上限額2万円以内 (20,000) 手ピカスプレー 手指消毒用 アルコールスプレー 420mL 500円×6本=3,000円、白元アース 快適ガード 快適ガード スタンダードマスク レギュラーサイズ 40枚入550円×3箱=1,650円、非接触体温計TANITA BT-544-BL 4,400円×3個=13,200円
	⑩人件費	88,200 円	※下記「事業費」の25%以内 (101,890) 講演会：法人会員分@1,400×4.5時間×6名×1回=37,800円、アルバイト@1,400×4.5時間×4名×1回=25,200円 個別相談会：法人会費@1,400円×4.5時間×4人=25,200円
事業費（①から⑩の合計）		393,870 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費	円	※事業費の5%以内 (19,693)	
⑫助成対象経費 （事業費+⑪）	393,870 円		
⑬助成対象外経費	円		
事業総額		393,870 円	

内 容		予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)
収 入 区 分	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	100,000 円	会場参加者100名×参加費1000円=100,000円
	① 寄附金	円	
	㊧ 補助金等収入	円	
	㊨ 協働推進基金助成金	268,000 円	「①～㊧、㊩～㊫の合計」の2/3と「㊨」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊩ 団体負担金	25,870 円	
	収入総額	393,870 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) ふぁーすと すてっぷ 特定非営利活動法人 First Step	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) いわさき はるひこ 岩崎 晴彦	
連絡者氏名	[Redacted]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	2001年6月 ひきこもりの家族を支援する家族会、始める一步の会(任意団体)として活動開始 2019年1月 団体名を不登校・ひきこもりの家族会 First Stepに改名 NPO法人設立 2021年 11月 活動歴 21年 10か月(2023年 3月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 11名 団体: 2団体	入会条件 不登校・引きこもりの当事者、および家族 さらに、その支援者、団体
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿区・市 その他 ( )	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / 無 (ホームページ) 有 (URL <a href="https://blog.goo.ne.jp/seagulls01">https://blog.goo.ne.jp/seagulls01</a> ) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	この法人は、不登校・ひきこもりの子をもつ親及びその子に対し、情報交換の場の設置、経験者からの助言を得ながらのグループ討議の実施、家庭相互訪問や野外活動等の実施、専門家からの指導を受けること、及び、子に対する居場所の提供、自立支援に関する事業を行い、安心して生活できる社会作りに寄与することを目的とする。	

<p>主 な 活 動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の支援団体で行われている「一人のカウンセラー対複数名の相談者と同時にカウンセリングをする形態」ではなく、今年3月に東京都ひきこもり等のサポートガイドラインで推奨されたような、「相談者（ひきこもり・不登校の家族対象）を複数名のカウンセラー、ピアサポーター、支援関係者が囲んで行う多声性（ポリフォニー）を大事にしたオープンダイアログ的なカウンセリング形態」による対面、オンラインによるハイブリッド型勉強会活動</li> <li>・ひきこもり・不登校の家族を対象とした家族会による相互家庭訪問活動</li> <li>・ひきこもり・不登校の当事者、および家族を対象とした相談活動</li> <li>・ひきこもり・不登校の当事者、および家族を対象とした直接訪問支援活動</li> <li>・ひきこもり・不登校の自立支援専門家の紹介</li> <li>・ひきこもり・不登校の当事者を対象とした居場所活動</li> </ul> <p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>野外活動</u> 千葉県館山市北条海岸に会がほぼ無償で借りている民家があり、ウィンドサーフィンやシーカヤックなどのスポーツ、釣り、ビーチコーミング、などの自然体験を通じて悩めるひきこもり・不登校の当事者および家族の心身の改善を促す活動</li> <li>・<u>社会に出る準備段階としての活動</u> また、上記場所にて焚火やBBQなどで、他人との繋がりやの訓練、対話することで心の開放につながるオープンダイアログ的遊び活動 マラソン大会のボランティアエイドを当会で出展し、ランナー、開催地の地元住民との交流活動</li> <li>・<u>一般の方と一緒にジョギングをしながら新宿区を中心とした観光巡り活動</u> (通称、旅ラン)の実施 *ランニングシューズ、ウェア等一式を揃えるところから、ストレッチ、長距離走のフォーム、怪我の防止の指導、軽いジョギングをしながら会話し、通行人の方と笑顔で明るく、楽しく、元気よく挨拶し、街の歴史を学び、四季折々の景色を楽しみ、都電に乗車、お店の軽食で休憩し談笑、都電最中等お土産の購入、記念撮影、銭湯、サウナに入浴、食事会で懇親を深め、新宿区の行政、歴史、文化、伝統、街並み、仲間の大切さ、運動、日中仲間と汗を流し語り合い、一生涯の思い出を作り、心身共に健康の重要性を学び、生き甲斐、活力、人間力、底力を身に付ける活動 *旅ランで体力、技術、自信をつけ、全国各地のマラソン、ウルトラマラソン大会に出場し、人脈を増やし、情報交換し、切磋琢磨する活動</li> <li>・<u>有志で新宿スポーツセンター等でフットサルをプレーし、大会での勝利を目指す活動</u></li> <li>・<u>家族会の方の協力による安心安全な仕事のできるアルバイト先の紹介提供活動</u> 家族会の方が、ひきこもり当事者の心情や特性を十分理解承知したアルバイト先を紹介または提供する活動</li> </ul>
<p>新宿区との連携実績</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>部署名</u> 新宿区 NPO 協働事業推進センター (2023年)</li> <li>・<u>連携事例</u> 2023年2月9日 オンラインによる ひきこもり・不登校講演会</li> <li>・<u>連携した内容の詳細</u> 家族会の紹介、および「ひきこもり・不登校の解決の入り口は家族会から」についての講演を行いました。講演者：理事長 岩崎  別添、チラシ参照</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>部署名</u> 新宿区保健所予防課 (2006年)</li> </ul>

・連携事例

当時の予防課が2006年8月29日と9月5日のPM6:00～8:00、新宿区役所第一分庁舎7階研修室(定員70名)にて、「思春期のひきこもり」と題して2回シリーズで開催しています。

第一回目は今回講師として招く予定の筑波大教授(当時は爽風会・佐々木病院診療部長)である斎藤環氏のひきこもり講演会(テーマ:社会的ひきこもりの理解)、第二回目が、当会がまだ任意団体の「始める一歩の会」であったときの初代代表が、テーマ「社会へ出るために始めること」～親の会の活動から学ぶ～を講演しました。

・連携した内容の詳細

上記講演会ののち、個別相談会を行いました。どちらの回も参加費は無料です。

別添、チラシ参照

③

・部署名

新宿区保健所予防課(2005年)

・連携事例

当時の予防課が2005年9月27日と10月4日のPM2:00～4:00、西新宿保健センター2階講堂にて、「社会的引きこもりへの対応と社会復帰に向けて」と題して2回シリーズで開催しています。

第一回目は今回講師として招く予定の筑波大教授(当時は爽風会・佐々木病院診療部長)である斎藤環氏のひきこもり講演会(テーマ:社会的ひきこもり～その現状と対応～)、第二回目が、当会がまだ任意団体の「始める一歩の会」であったときの初代代表が、テーマ「自立へ向けての親の会の活動について～自立プログラムと実践メニュー～」を講演しました。

・連携した内容の詳細

上記講演会ののち、個別相談会を行いました。どちらの回も参加費は無料です。講演会の後、何組かの家庭から相談を受けています。まだ当時は会員でなかった現会長の岩崎もその時会場にて相談して、翌日、会に入会しています。

斎藤環氏の講演では、講堂が満員であったと聞いています。

別添、チラシ参照

## 2001年より活動開始 NPO法人 First Step



ひきこもりの大規模調査を実施し、結果として地域を巻き込んだひきこもり対策を熱心に推し進めている江戸川区と私たちの新宿区との比較、そして、なぜ斎藤環氏によるひきこもりの解説と対策の講演会が必要なのか、をプレゼンテーションします。

### 江戸川区内「ひきこもり」約8000人 半数超が相談せず 区長「ショッキングな数字」 昨年度調査 40代が最多（東京新聞2022年6月9日より）

調査は、15歳以上で給与収入に課税されていない人や、介護など行政サービスを利用していない人を対象とし、昨年7月から今年2月にかけて郵送と訪問で実施。57.2%にあたる10万3196世帯から回答があった。

・行政などへの相談については当事者の62%と家族の45%が「相談したことはない」と回答し、多くの当事者が支援に結び付いていない実態が際立った。

・区が把握する不登校の子どもを合わせるとひきこもり当事者は9000人超に上る。国の調査に基づく推計人数の約1万人に近いが、今回の調査では42.8%が未回答。・・・実際はもっと多い！



新宿区では、どの程度の相談件数があるのか？少ないのでは？

なぜ、相談しないのか？ ひきこもりの人たちの存在がみえてこない理由は？



ひきこもりは砂浜の砂の中に潜り込んで給水管だけ出して口を固く閉じたハマグリのような見えない存在で掘り出さなければ見つからない。

## ひきこもりが相談しない、姿が見えない理由

- ・ひきこもりの人は自分から声をあげないし、家の中にいて多くは問題を起こすわけでもない。家の中だけが安全でいられる場所であり、ひきこもらないと生きていけない。
- ・本人がひきこもり状態にあることを発信しない、声が出せない。
- ・家族も世間体を気にして、自分たちだけで解決しようとする。
- ・「ひきこもり」とラベリングされるのを本人も家族も嫌う。
- ・「病気でない。障害でない」がゆえに診断名はなく、公的な支援制度を受けられない。
- ・パターン化したひきこもり対応（自立や就職を迫る、説き伏せられる、ひきこもっている状態は甘えであるという上から目線）への恐れ。
- ・ひきこもりは一人一人対応が違うが、相談窓口には、どういう対応をすべきなのか？ということについて、具体的な知識と、それを感じ取れるだけの経験や感性を持つ人（ピアサポーターのような人）が必要で、そうでなければ勇気をもって行政への相談は行きにくい。
- ・彼らが「何も求めない」のは、「あなたたちに何を言っても通じないから言わない」と決めこんでしまっているため。

## ひきこもり

江戸川区が大規模調査の後、行っているひきこもり対策  
⇒新宿区もやらなくてはならない対策である

- 江戸川区取摩子居場所 よりみち屋
- 江戸川区ひきこもり支援協議会
- ひきこもりの状態にある方・家族向け対話交流会
- ひきこもりオンライン居場所
- 江戸川区ひきこもり地域家族会エバーグリーン
- 令和3年度「江戸川区ひきこもり実態調査の結果報告書」について
- ひきこもりオンライン相談
- ひきこもり講演会～みんなで、地域でできること～
- ひきこもりの相談
- ひきこもり状態にある方の実態調査を実施しました

- 1 当事者の自立に向けた色々なサポート
- 2 相談しやすい体制づくり(町会、民生委員、医療関係者、当事者、家族、等々をまきこんで、ひきこもり対策をしている)
- 3 親同士が悩みを共有できる場所の提供
- 4 ひきこもりへの理解促進(今回の助成金の目的で、まずはここから始めていく)
- 5 ひきこもり窓口の明確化・・・NPOとの協働(生活援護第一課ひきこもり施策係設置)
- 6 実態調査の実施



## ひきこもりへの住民の理解促進のために

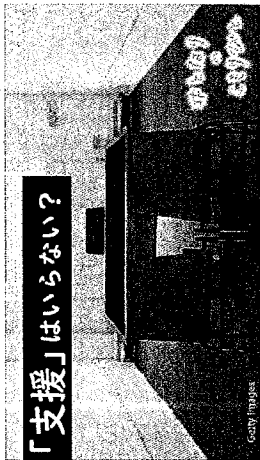
- ・理解として、なぜ斎藤環氏の講演会なのか？

- …日本におけるひきこもり研究の第一人者で、ひきこもりに関する著書も多い。  
ひきこもりに困った人が必ずと言って良いほど、最初に先生の本を読んでいる。  
その先生の話であれば区民を十分惹きつける力があると思われる。



- ・ひきこもり対策としてオープンダイアローグの説明が必要か？

- …斎藤先生がひきこもりの解決方法として有効であると広めているフィンランド発祥のカウンセリング方法で、東京都が強く推奨する手法であり、偶然にもFirst Stepが20年以上前から勉強会で行ってきた集団カウンセリング方法に大変近いものであった。よって、その可能性について先生から講演をしていただくことは、区民にとって、「新宿区には心強い家族会が存在する」ということを知っていただけるものになると思われる。



・ 「何も必要としていない、このままでいい」 32%の重み

## 「助けを求めることができない」

記事の掲載後、私たちの元には、ひきこもりの当事者の方たちから、自治体の支援に対する不信の声が多く寄せられました。「助けを求めることができない」心境が綴られ、中には「ひきこもったまま命を終えたい」という投稿もありました。

「頼っていいよ」という言葉はありがたいですが、どう頼っていいかわからないのです。そもそも言語化して表現することが難しい。なんとか表現してみても、上手く伝わらなかつたり、正しく理解されなかつたり、尊重されず受け流されたり、パワーバランスの差によって説き伏せられたり…。こういう些細なつまづきの積み重ねが社会との距離を広げていったような気がしています。決して社会との繋がりを拒絶しているわけではなく、むしろ関わって人間らしく生きたいのにな…。

(cocoaさん 40代 女性)

現在のひきこもりに対する支援は「ひきこもっている状態は良くないから、外に出る手伝いをしなさい」という上から目線のもので、支援者は「ひきこもっている状態を変えよう」とし、世間は「ひきこもっている状態はよくない」という目で見る。だから当事者は、自分の存在は社会から許されていないと強烈に感じ、恥ずかしく、惨めで、ひきこもり続けるより他にないのです。これで支援の手を取るわけがありません。(るーぶさん)

当事者には「働いて自活したところで人生には何の意味もない」という深い絶望があるのです。「何も求めない」というのは「あなたたちには言っても通じないから言わない」という意味でしょう。

(20年モノ 40代男性)

社会と関わりたくないからひきこもったのに、それをまた引っぱり出して社会と関わらせることがなぜ支援なんだろう。支援っていい言葉ですよ。それをこういう所に使うことに怖いとさえ思いました。

(めさん 40代 女性)

私の人と関わるためにあった心の大切な部分は死んで、そのあとはどんなに頑張っても空回りしかなくてもう疲れ果てた。植物が枯れるように穏やかに自然に終わりに向

後日、読んでいただきました。資料です。

## 「(支援は)必要ない」32% 江戸川区ひきこもり大規模調査の波紋

2022年6月15日 NHK

ひきこもりの実態を把握する調査結果を解説した前回記事、「東京・江戸川区 ひきこもり 顔の見える大規模調査」。支援は「何も必要ない」と答えた当事者が3割という回答について、さまざまな意見が寄せられ、当事者と支援者の間に横たわるギャップが見えてきました。調査の背景を取材しました。



報道局 社会番組部 ディレクター

森田 智子

INDEX

- ・ 「助けを求めることができない」
- ・ 後回しにされていた「ひきこもり」
- ・ 従来の「支援」が響かない
- ・ 「話を聞いてほしかった」男性との対話

かいたいです。  
(のんさん 女性)

「助けを必要としていない」とする当事者の声、それでもなんらか支援をしたいと考える行政。

実は、江戸川区が調査に踏み切った背景には、こうした人たちとの関わり方のジレンマがありました。

## 後回しにされていた“ひきこもり”

「こんなに少ないはずないだろう…」

東京・江戸川区が3年前に実施したひきこもりの調査。

「681名」と書かれていた、区内のひきこもりの人の数に、斉藤猛区長は大きな違和感を覚えました。

内閣府が行った推計調査では、ひきこもりの出現率は人口のおよそ1.5%。

単純に計算すると、江戸川区ではおよそ1万人のひきこもりの当事者が存在するはずでした。

この時の調査は、民生委員や地域包括支援センター、福祉事務所などが存在を把握していた数を足し上げたものでした。

区長の一言で、おととし、ひきこもりの専門部署「ひきこもり施策係」が新設されました。

特命係長に任命されたのは森澤昌代さん。

これまで、新人時代に生活保護のケースワーカーを担当した経験があったものの、戸籍や住民基本台帳の窓口業務などを長年担当していて、“ひきこもり”はまったく門外漢でした。

ひきこもり施策係 係長 森澤昌代さん



森澤昌代 係長

「ひきこもりってなんだろう？」全くの無理解で、一から勉強し直しました」

まずは当事者のことを知ろうと、福祉の支援を受けるひきこもりの人たちに積極的に会いに行きました。

そこで痛感したのは、「ひきこもりの人たちへの対応が後回しにされてきた」ということでした。



森澤昌代 係長

「ひきこもりの人は自分から声を上げないし、家の中にいて特に問題を起こすわけでもない。一方で、福祉職員は緊急対応を要する人に追われていて、手が回っていないかった。自分から要望を伝えてこないひきこもりの方はどうしても対応が後ろ回しになっていました。ひきこもりの人の“実態”なんて、全くつかみようのない状態でした」

## 従来の“支援”が響かない

ひきこもり施策係は、森澤さんを含めて3人。当事者・家族などの相談を受け付ける体制を作り、初年度につなげたケースは86ケース、対応はのべ700に上りました。

しかし、一人一人に声を聞く中で、自分たちがやってきたことへの「違和感」が強くなっていたといます。

弟と共に兄弟でひきこもっていた50代の男性。

区役所で、施策係が支援の内容を説明しましたが反応が返ってきませんでした。困ったことがあるかを聞いても「特にない」と回答。

「何かを変えたい」という気持ちを見つけてあげることができませんでした。

自ら何かを求めてこない人たちに対して、これまでの支援メニューを当てはめる関わり方では、まったく響かないのではないかと。



森澤昌代 係長

「前のめりすぎだと思うんです。支援者だけが盛り上がってしまっただけで、相手のなにかを求めてこない。私たちがこうした方がいいんじゃないかと思っただけで準備しても、全く求められていないという実感がありませんでした。どうしたらいいんだらう、と戸惑いました」

## “話を聞いてほしかった”男性との対話

しかし、この違和感が、その後の展開へとつながっていきます。

当事者とのかみ合わせがなごにことまどいながら、聞き取りを進めていった江戸川区のひきこもり施策担当の3人。

ある日、一人の40代のひきこもりの男性と出会います。

過去に一度、家を訪問し、「困ったことがあったら連絡してほしい」と名刺を置いてきた相手でした。

自ら区役所へやってきました。

じっくりと話を聞いていくと、男性は突然泣き出しました。



森澤昌代 係長

「家族も敵だし、誰も話を聞いてくれない。話を聞いてほしかった。と。家の中にいて自分を守っていたけど、自分の言っていることを否定しない、同じ立ち位置で誰かに話を聞いてほしかったんだなと思いました」

「ただ話を聞いてほしかった」と涙を流す男性との出会いは、大きな驚きでした。

男性の不安に耳を傾けて一緒に解決していく中で、少しずつ信頼関係が生まれていきました。

男性はその後、地域の支援施設につながり、今は助けを得ながら一人暮らしをする準備を進めているといいます。

SOSを出してくれた家族や当事者との対話を通じて、誰にも打ち明ける場所がない苦しみや、それを聞くことで生まれる力を実感したといいます。



森澤昌代 係長

「話すだけで“言えてよかった”と、帰るときの顔が全然違っんです。“私たちは何も解決していないじゃないのかな”って思うこともあるんですけど。話を聞くことでこんなに空気を感を変えられるって、魔法じゃないですけど、そういう力を実感しました」

助けを求めてくれる人が少しずつ増えていく一方で、区内のどこかにいて、自ら声を上げないままどこかにいる“ひきこもり”の人たちにアプローチするにはどうしたらいいのか。

自治体が行うアプローチの一つに、「アウトリーチ」と呼ばれる訪問支援があります。

しかし、このアウトリーチは、家族からの要請や、第三者からの情報提供があつたら、開始の是非が検討されます。

70万の区民の中の「顔の見えない」相手に対してアウトリーチを進めていくべきなのか。

本人たちは、何を望んでいるのか。

森澤さんは頭を悩ませていました。

そんな中でふってってきたのが、区長からの“鶴の一声”でした。



森澤昌代 係長

「わからないのであれば、全員に聞けばいいじゃないか。江戸川区全体のひきこもりの人やニーズを把握していないのに、“支援”とか、頭でっかちになってくるんじゃないよ、と」

こうして、前代未聞の人口 70 万都市における、ひきこもりの実数調査が始まりました。

## “何も必要としていない、このままでいい” 32%の重み

調査結果の中で、森澤さんが気になっているのが、「助けを必要としていない、このままでいい」とした人が、ひきこもりの当事者のうち 32%いたことです。

“助けを必要としていない”人に対して、アプローチすべきなのか。

どのような形なら受け入れられてもらえるのか。

今、手探りの中考え続けているといます。



森澤昌代 係長

「自分から欲しがらない、要求がない人に対して、“今の生活状態よりはあげていこう”というべきなのかどうかというのは悩んでいます。今お金に困っていてもかたしてたら別ですが、求めているものに對してうちが積極的にわざわざその人にこういいうのいいんじゃないのっていうのはどうなのか、とか」

少なくとも区の取り組みを知ってもらい、いつでも力になる準備ができておくことを伝えたい。

そして必要になったときに求めてもらうよう、細く長く「つながり続ける」ことが大事なことではないか、と考えています。

それは、冒頭に記した“何も求めてこなかった”という 50 代の兄弟との関わりの経験にありました。

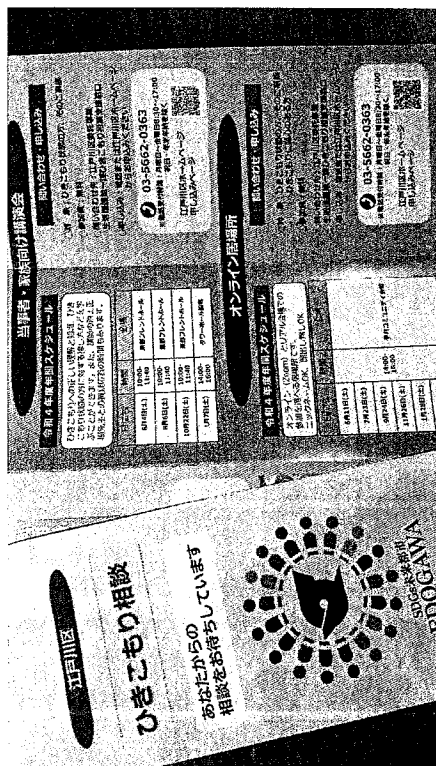
相談員が定期的に訪問を続けていたある日、「何か変わったことはありませんか」と尋ねると、兄はいつものように「何もなし」と回答。

しかしそれまで全く言葉を発さなかった弟が、「兄は目が悪くなっている」と教えてくれたといます。



森澤昌代 係長

「つながり続けなければ気づくことのできない SOS とか、本人が人生を変えたと思って思うタイミングがあるかもしれないと思うんです。それを逃してしまったり二度とそのタイミングは訪れないかもしれない。今は対面だけじゃなくいろいろつながる方法はあるし、やり方はそれぞれの方の好みもあると思います。一人一人に合ったやり方を一緒に考えていきたいと思えます」



江戸川区では選択肢として、オンラインの対話の場としての“居場所”や家族会、短時間でも就労できる仕組みなどを用意。地域の中での居場所作りにも動き出しています。

「何も必要ない」と回答した人に対しても、こうした取り組みを記載した江戸川区の支援パンフレットを郵送。何かに困ったときや、誰かとながりたいと思った際には、参考にして欲しいとしています。

事業計画書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場</p>
<p>事業名</p>	<p>子どもの文化体験格差解消プロジェクト</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p>ア 事業目的</p>
	<p>3年以上続いたアフターコロナの子どもたちの現状を知り、子どものいる場所へ文化体験の機会を届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場にプロのアーティストを派遣して、多様な表現の文化体験をしてもらうことで子ども自身が、他者理解、自己理解自己発見を行う機会とする。多彩な大人との出会いの機会とする。</li> <li>・学校現場へ届けることで、文化体験と一緒に体験する教員にも日常と違う子どもの一面を知ってもらう。(アーティスト派遣事業)</li> <li>・学童クラブ等へ多世代で多様な遊び方を体験してもらい、子どもたちに文化体験の機会を届ける。また、そこに携わる大人に遊びの広がりや遊びを通して子供の違った面を知ってもらう。</li> <li>(学童クラブ等へあそびの出前事業)</li> <li>・区内で日常的に困難を抱える子どもや家庭の支援に取り組む団体とともに、コロナ後の子どもたちや保護者の実情を共有し学習することで、体験格差の現状を明らかにする。(講演会)</li> <li>・新宿区内の体験格差の現状を明らかにするまとめ資料を作成し、子どもたちの現状を広く地域の人と共有し地域で子育て支援をしていく機運を高める。</li> <li>(文化体験里親寄付制度への準備事業)</li> </ul>
	<p>イ 事業概要</p>
<p>① アーティスト派遣事業</p> <p>区内小・中学校へプロのアーティストを派遣する。子ども文化地域コーディネーターが学校とアーティストの間に入り、学校のニーズを聞き取り、児童生徒の様子を聞き取ったうえで、環境設定を行い、プロのアーティストを派遣する。実施ジャンル：音楽・演劇・ダンス・バレエ・身体表現・雅楽・狂言・和太鼓・落語・清元など</p> <p>② あそびの出前事業</p> <p>放課後ひろばや学童クラブ等放課後の児童の集まる場所へ遊びのファシリテーターを派遣して、遊び文化体験の機会を増やす。また、携わる大人にも参加してもらい、日常の中であそびが広がるようにする。</p> <p>③講演会</p> <p>民生委員、子ども食堂、無料塾、障がい者支援、企業による子育て支援などで関わる人たちと現状認識と体験格差の現状を学ぶ。</p> <p>学識有識者を呼んでコロナ禍の子どもの今を学ぶ</p> <p>④ 文化体験里親寄付制度への準備事業</p> <p>新宿区内の体験格差の現状を明らかにするまとめ資料を作成し、現在の子ど</p>	

	<p>もたちの取り巻く課題について広く多くの区民に知らせ、子どもの文化体験里親制度（仮称）を立ち上げる準備する。</p> <p>また、ホームページでの寄付の呼びかけやクレジット決済、報告の掲載などできるように準備を進める。</p>
<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p>3年に及ぶコロナ禍の規制も緩和され、社会は活動を復活させてきている。しかし、この間、子どもたちにもたらした影響は大きい。学術的な検証はこれから明らかにされてくることを待つが、子どもを取り巻く環境が大きく変わったことは否めない。</p> <p>公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンの2022年12月15日発行の「子どもの体験格差実態調査」中間報告によると低所得家庭の子の3人に1人が学校外の体験が「何もない」との結果があり、世帯収入の多寡で3倍の差が生じている。この「体験の貧困」を生む要因（経済事情以外）に保護者の時間的余裕不足、保護者の認識欠如、また「学習」と「体験」の優先順位では体験機会の減少が学習機会と比較して大きく、先に削られる可能性が示唆された。今後、物価高騰がさらに多くの子どもたちの影響を与える可能性がある。さらに低所得家庭の保護者ほど自身の学童期の体験が少なく、体験により非認知能力の向上し、それが学歴や収入、社会的地位などに結びついている可能性が示唆された。全国的調査結果から、学童期までの子供には多様な人との関りと、体験の機会がその後の人生の豊かさに影響されることとともに、その世代にとって、保護者の選択の中でしかその機会を得ることが難しいことも認識できる。</p> <p>文部科学省による21世紀出生児縦断調査特別報告において子供の「孤独・孤立」に関する社会関係資本・学校適応に関する分析について、多様な相手と遊ぶことや、放課後等の子どもたちが異年齢を含む多様な相手と交流する事が重要である可能性が示唆され、学童期の体験活動とその後の非認知能力等に関する分析では学童期までに「自然体験」や「文化的体験」を経験することで「自尊感情」「精神的回復力」「我慢強さ」「精神的健康」のいずれに関してもプラスの効果が見られたとの分析が出されている。</p> <p>さて、新宿区では、平成28年度ひとり親世帯へのアンケート（回答数958件/1902件）を実施している。その世帯の収入は300万円以下が72.7%となり、将来の不安も経済的なことが大きい。また、区内では共稼ぎ世代の増加に伴い、学童クラブへのニーズが高まり、令和4年度は定員1825名のところ2160名の登録があり、広場プラスも令和3年から4年の一年間で330名の登録者数が増えている。全国では小学3年生の4人に一人が学童を利用している調査結果がある。</p> <p>学童期の子どもたちに自然体験や文化体験の機会がその後の非認知能力の向上等につながるとしつつも、各家庭で対応できるほど子育て世代には時間的、経済的余裕はみられない上に、放課後を過ごす学童の場所では、急激な児童の増加に対応する施設の確保、人員の確保そしてコロナ対応に追われる状況にある。区内の学童は民間北山伏児童館から「子どもたちに多様な遊びの提案をしてもらえないか」との相談を受け、春休みに西新宿児童館でおりがみを教えた会員からは「学童の先生はコロナ対応に追われ、子どもと時間を共有して楽しむことも難しい様子だった」と感想を寄せた。他の学童現場でも児童が迎えに来た保護者に雲</p>



	<p>梯が出来るようになったところを見せようとしたところ「もう遊具は使えない。けがしたら困るんだ。」と指導員から声がかけていた。本来、子どもが好きで指導員となった人も、管理することを求められて、子どもの気持ちに寄り添う余裕がなくなっている状況を目の当たりにした。</p> <p>このような事から保護者の選択なしにすべての子どもたちに文化体験の機会を届けるには学校現場や学童クラブ等が有効である。</p> <p>また、そこに関わる大人（先生や指導員）と一緒に体験することも重要ポイントとしてとらえている。このコロナ禍で教員や指導員も安全、安心が一番の課題となった。特にこのコロナ禍で新卒採用されている先生、指導員は教育実習の機会が短かったり、三密を避けるような指導現場での体験だったりと多くの人との交流を通して学ぶコミュニケーションや体験の機会を奪われた世代でもある。普段は指導する立場の先生（指導員）が、一緒に授業をうけることで、子どもへの声掛けのことばや言い方、タイミングなど、今後の指導に生かせるものがある。</p> <p>このような子育て環境になっていることを広く区民に知ってもらい、地域社会で子どもの育ちを応援する土壌を作り上げて行きたい。</p>
<p>③ 活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p>I. イベント（会議）名：(アーティスト派遣事業 )</p> <p>II. イベント（会議）の開催予定等</p> <p>活動内容：小学校にアーティストを派遣する。学習のカリキュラムにも則し、より体験を深めるために、プロのアーティストによる体験授業を実施する。子ども文化地域コーディネーターは、学校のニーズと状況にあったアーティストを派遣する。アーティストによる体験がより効果的に学校へ波及できるように環境を調整し、参加する児童の気持ちにも寄り添い、評価でなく体験を楽しむための授業になるように関わる。</p> <p>実施期間：R 5 年 11 月 ～ R 5 年 12 月          実施回数：( 2 ) 回/月・年          実施場所：オンライン ・ 会場 (学校の体育館等 )</p> <p>III. 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者：小学生          参加予定人数： のべ ( 100 ) 名</p> <p>IV. 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;  <input type="checkbox"/> ポスター <input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> HP <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( DM )</p> <p>&lt;周知先&gt;  <input type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板  <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 各校への DM 校長会での周知 )</p> <p>V. スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 2 ) 名 講師等 ( 6 ) 名          アルバイト ( ) 名 ボランティア ( 8 ) 名</p>

<p>II. イベント (会議) 名 : (あそびの出前事業 )</p>
<p>ア. イベント (会議) の開催予定等</p>
<p>活動内容 : 学童クラブや放課後ひろば等にあそびのファシリテーターを派遣し、子どもたちのあそびの幅を広げる。プログラム例 : げきあそび、まねっこあそび 集団遊び (わらべうたのおにごっこ、じゃんけんゲームなど)、お手玉・工作など。職員にも一緒に参加してもらい、子どもの日常にもあそびが継続し発展していくことを目指す。</p> <p>実施期間 : R 5 年 7 月 ~ R 6 年 2 月          実施回数 : ( 5 ) 回 / 月 ・ 年          実施場所 : オンライン ・ 会場 ( 学童 ・ 放課後ひろば )</p>
<p>イ. 対象者及び参加予定人数</p>
<p>対象者 :          参加予定人数 : のべ ( 150 ) 名</p>
<p>ウ. 周知</p>
<p>&lt;媒体&gt;  <input type="checkbox"/> ポスター    <input checked="" type="checkbox"/> チラシ    <input checked="" type="checkbox"/> HP    <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( DM )          &lt;周知先&gt;  <input type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等)    <input type="checkbox"/> 区直営掲示板  <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( DM )</p>
<p>エ. スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p>
<p>団体構成員 ( 5 ) 名    講師等 ( 5 ) 名          アルバイト ( 10 ) 名    ボランティア ( 10 ) 名</p>
<p>III. イベント (会議) 名 : ( 講演会「今、子どもたちは」 )</p>
<p>ア. イベント (会議) の開催予定等</p>
<p>活動内容 : 日常的に困難を抱える子どもや家庭の支援に取り組む団体とともに、コロナ後の子どもたちや保護者の実情を共有し学習することで、体験格差の現状を明らかにする。</p> <p>① パネルディスカッション 子どもを支える複数の団体から、各視点で見えている子ども現状          ② 講演会「コロナ禍を経て 子どもの現状」(仮題)          有識による講演会。講師候補 : 阿比留久美 (早稲田大学准教授)</p> <p>実施期間 : R 5 年 7 月 ~ R 5 年 9 月          実施回数 : ( 2 ) 回 / 月 ・ 年          実施場所 : オンライン ・ 会場 ( 地域センター )</p>
<p>イ. 対象者及び参加予定人数</p>
<p>対象者 : 大人          参加予定人数 : のべ ( 約80 ) 名</p>

ウ 周知	
<媒体> <input checked="" type="checkbox"/> ポスター <input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> その他 (                      ) <周知先> <input checked="" type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等) <input checked="" type="checkbox"/> 区直営掲示板 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (    DM                      )	
エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)	
団体構成員 ( 2 ) 名	講師等 ( 5 ) 名
アルバイト (      ) 名	ボランティア ( 4 ) 名
IV. イベント (会議) 名 : (      実行委員会                      )	
ア イベント (会議) の開催予定等	
活動内容 : 事業の企画運営を通して、事業全体の把握と目指すところを共有し実施していく。委員希望者を公募する。 文化体験里親寄付制度への準備を通して、より広い区民を巻き込み、地域で子どもを育てる意識を広めていく。また、ホームページでの寄付の呼びかけやクレジット決済、報告の掲載などできるように準備を進める。 年度末には成果と課題を明確にし、報告書を制作して今後につなげていく。	
実施期間 : R      5年    6月    ~ R    6年    3月 実施回数 : ( 9 ) 回 / 月 ・ (年) 実施場所 : オンライン ・ 会場 (      ハイブリットも検討                      )	
イ 対象者及び参加予定人数	
対象者 : 区民 参加予定人数 : のべ ( 90 ) 名	
ウ 周知	
<媒体> <input type="checkbox"/> ポスター <input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> その他 (      メール                      ) <周知先> <input checked="" type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (                      DM                      )	
エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)	
団体構成員 ( 27 ) 名	講師等 (      ) 名
アルバイト (      ) 名	ボランティア (      ) 名
④ 安全対策等	ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策

(簡条書きで  
ご記入ください)

- ・事前の打ち合わせを密に行い、参加者の安全には複数で対応する。
- ・救急用品を持参し、実施時は複数のスタッフで安全確認をする。
- ・当法人が加入している年間を通した保険を適用する。
- ・学校や学童の現場で実施している安全対策を順守する。

イ 新型コロナウイルス感染症対策

- ・文部科学省や教育委員会のコロナ対応に遵守して、事業実施を行う。
- ・講師・スタッフは事前の体調管理を行う。
- ・参加者、受け入れ施設等と体調管理をすり合わせ、体調不良の場合は参加を控えてもらう

⑤ 期待される効果

ア 区民や地域社会への成果・効果

- ・講演会を通して、多くの区民が、子どもの現状を共有することができこる。また、子どもにかかわる多様な団体のネットワークを通して、それぞれの取り組みや課題を理解し、協力の輪を広げることができる。
- ・スタッフ募集を区内の大学や専門学校や若者たちにも呼びかけることを通して、事業の理解と支援者を広げる。
- ・文化体験里親寄付制度への準備を通して、子どもを取り巻く現状を伝えながら、事業の支援者を増やし、地域の構成員としてできることを主体的にかかわることを提起する。

イ 現状や課題に対する成果・効果

- ・家庭環境から生じる「子どもの体験の格差」においては、学校に文化体験の場を提供することで、幅広く多様な子どもたちに体験の機会を提供することができる。子どもたちは文化体験を通して、新たな自分や友達との出会いや、表現やコミュニケーションの幅を広げることができる。
- ・学童や放課後ひろば等にあそびの出前を届けることで、継続された人間関係の中で体験を深めることができる。また、職員もかかわることで、子どもたちと一緒に、あそびを高めることを目指せる。
- ・ネットワークを通して、コロナ禍がもたらした現状を踏まえ、継続して課題に取り組む体制を作ることができる。

⑥ 先駆性・専門性

・当法人が会員の子ども劇場東京都協議会が受託している文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」のNPO法人提案型事業を2011年より新宿区内の小中学校へ実施している実績(2011年～2022年区内小中学校117校138回実施)から、多くの現場と多種のアーティストとのつながりがあり、コーディネート専門性は高い。

2022年度の文化芸術による子供育成推進事業担当実績

	学校名	実施日	ジャンル	講師名	授業	学年参加人数
1	戸山小学校	7/7	ダンス	西垣陽子	総合	6年生32名

2	富久小学校	9/1	身体表現	ストウミキコ	図工	3年生 52名
3	南池袋小学校	9/16	現代舞踊	三森 渚 磯村由紀子	音楽	1年生 90名
4	江戸川小学校	10/5	太鼓	金刺悠太	音楽	3年生 45名
5	西戸山小学校	10/18	ミュージカル	藤森裕美	総合	5年生 66名
6	大森小学校	10/31	音楽	ハル	音楽	5年生 80名
7	四谷第六小学校	11/8	太鼓	金刺悠太	音楽	5年生 65名
8	余丁町小学校	11/10	音楽	ハル	音楽	6年生 53名
9	落合第四小学校	11/11	身体表現	楠原竜也	総合	2年生 75名
10	落合第二小学校	12/6	音楽	茂山 茂	国語	6年生 59名
11	四谷小学校	12/12	身体表現	ストウミキコ	図工	6年生 60名
12	西新宿小学校	12/13	太鼓	露木一博	総合	5年生 48名
13	柏木小学校	12/21	太鼓	露木一博	総合	6年生 68名
14	落合第一小学校	2/9	身体表現	楠原竜也	体育	2年生 88名
15	西新宿中学校	2/15.16	現代舞踊	西垣陽子	体育	1年生 56名
16	戸山小学校	2/17	身体表現	楠原竜也	体育	2年生 58名

・子ども夢基金を活用し、児童館にあそびの出前事業（2019年）を実施した実績があり、さらに専門家との連携を図りスキルアップしたプログラムを提供できる。

2019年		子ども	大人
7月17日	四谷第六小学校校内学童・ひろば	51	6
9月18日	戸山小学校校内学童・ひろば1回目	51	6
10月16日	同上 2回目	52	7
12月4日	西新宿児童館学童 1回目	50	8
1月14日	戸山第二保育園	36	8
2月19日	富久児童館	18	6
3月4日	西新宿児童館学童2回目感染症拡大による自粛で中止		

・民生児童委員、スクールコーディネーター、区内地域協働学校委員、プレイパーク、学童クラブ連絡協議会委員、子ども食堂など区内で多様な活動をしている団体構成員を有し、子どもや学校の実情に合ったコーディネートとネットワークの構築が可能。

⑦ 今後の展望

・より多くの子どもたちに文化体験の場を届けることができるよう、文化体験里親寄付制度の確立を目指す。  
 ・子どもを取り巻く現状については、継続したネットワークを構築し、子どもを支える環境を作る。  
 ・子育て世代が安心して子育てができる環境を目指す。



収支予算書

		費 目	予 算 額	内 訳
支 出 区 分	事 業 費	①使用料及び賃借料	37,500 円	講演会会場費 戸塚地域センター6600円×2回=13,200円 実行委員会 戸塚地域センター会議室2700円×9回=24,300円
		②消耗品及び印刷費	60,000 円	チラシ4種 2円×15000=30000円 報告書印刷20000円 封筒・コピー用紙・プリンターインク10000円
		③委託費	30,000 円	チラシデザイン 5000円×4種=20,000円 報告書デザイン 10000円
		④講師謝礼	291,300 円	アーティスト派遣 35650円×2校=71300円 あそびの出前講師 30000円×5回=150000円 講演会50000円+ (5000円×4名) =70000円
		⑤その他謝礼	252,400 円	アーティスト派遣補助講師13040円×5名×2校+スタッフ3000円 ×4名×2校=154,400円 あそびの出前スタッフ5000円×2名×5回+3000円×2名×5回= 80,000円 講演会スタッフ3000円×3名×2回=18,000円
		⑥交通費	円	
		⑦保険料	円	
		⑧その他諸経費	60,800 円	メール便 180円×150通=27000円 DM 94円×200通=18800 運搬・配送5000円×3=15000 ※上限額2万円以内 (20,000)
		⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	円	
		⑩人件費	129,600 円	※下記「事業費」の25%以内 (244,000) 団体構成員 1200円×3時間×18回×2名=129600円
事業費 (①から⑩の合計)			861,600 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費			30,000 円	※事業費の5%以内 (43,080) DM 180円×120通 資料制作 8400円
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)			891,600 円	
⑬助成対象外経費			円	
事業総額			891,600 円	

		内 容	予 算 額	積算根拠 (内訳)
収 入 区 分		㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	30,000 円	講演会 500円×30名×2回
		㊧ 寄附金	90,000 円	3000円×30
		㊨ 補助金等収入	円	
		㊩ 協働推進基金助成金	500,000 円	「㊦～㊨、㊪～㊬の合計」の2/3と「㊭」の合計 ※千円未満切り捨て
		㊰ 団体負担金	271,600 円	
収入総額			891,600 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじん あそびとぶんかのえぬびーおーしんじゅくこどもげきじょう 特定非営利活動法人 あそびと文化の NPO 新宿子ども劇場	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) ふじおか さえ 藤岡 紗絵	
	連絡者氏名 [Redacted]	
設 立 (活 動) 開 始 年 月 (法 人 設 立 年 月)	法人の場合 法人設立 2005 年 6 月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 ( 年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人 : 188 名 団体 :	入会条件 誰でも入会できる。 会費を納入する。
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿 区・市 その他 ( )	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / 無	
	(ホームページ) 有 (URL <a href="https://kodomogekijo.net/wp/">https://kodomogekijo.net/wp/</a> ) / 無	



<p>団体の目的 (定款の目的)</p>	<p>(1) 子どもたちの文化的環境の向上に関する体験事業  ①演劇・音楽・芸能などの鑑賞・体験事業  ②子どもたちが仲間作りをしたり、自然を体験する事業  ③子どもと大人が一緒になってつくる遊びや体験学習に関する事業</p> <p>(2) 地域・サークル活動への育成・支援事業</p> <p>(3) 講座・講演会等の開催事業  ①子育て中の親と子どものための幼児講座開催事業  ②子どもの健全育成に関する講演会開催事業</p> <p>(4) 子どもの健全育成に関する普及啓発事業  ①機関紙、子どもの健全育成に関する啓発書の発行  ②ホームページの開設・運営</p> <p>(5) 子どもの健全育成を目的とする団体との情報交換及びネットワークの構築事業</p> <p>(6) その他目的を達成するために必要な事業</p>
<p>主な活動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 舞台鑑賞会 年間10本～15本</li> <li>2) キャンプ 2回</li> <li>3) ワークショップ：和太鼓・ゴスペル・ダンス・身体表現・陶芸・図工・影絵</li> <li>4) 文化発表の場：しんじゅくキッズミュージアム</li> <li>5) 乳幼児文化体験事業：はじめてのおしばい2回・わらべうた講座15回</li> <li>6) あそびの会 月に1回</li> <li>7) 文化庁事業・文化芸術による子ども育成総合事業 15校</li> <li>8) 学習会 性について・コロナ禍のこども</li> </ol> <p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌発行</li> <li>・ネットワーク構築事業として東京都や全国の団体との交流</li> </ul>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名 文化観光課 子ども支援課</li> <li>・連携事例 委託事業：新宿区乳幼児文化体験事業（2013年より） 連携事業：しんじゅくキッズミュージアム（2003年より）</li> <li>・連携した内容の詳細 乳幼児文化体験事業：はじめてのおしばい2回・わらべ歌講座15回 しんじゅくキッズミュージアム：区内で活動する団体（6～8団体）で舞台発表の場を作る</li> </ul>

# 子どもの文化体験格差解消 プロジェクト

「すべての子どもたちに豊かな文化を！」を目指して

新宿区役所本庁舎6階 第2委員会室  
2023年5月30日(火) 午後1時30分～  
(特非) あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場  
事務局長 松島 貴美子



## (特非) あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場の特徴

### ミッション

すべての子どもたちに豊かな文化を！

- ▶ 1975年 任意団体 新宿子ども劇場発足
- ▶ 2005年 NPO法人各取得
- ▶ 2022年の活動額 12,277,473円
- ▶ 現会員数 188名 大人114名の9割は新宿在住。
- ▶ 地域に密着した活動を展開。
- ▶ 会員の地域での活動...地域の実情を肌感覚で実感。
  - ・学校のPTA役員・スクールコーディネーター
  - ・民生委員・主任児童委員・町会役員・地区協委員
  - ・文化振興会議委員・新宿プレーパーク協議会・学童協議会
  - ・児童館自主運営委員 他

## 事業のねらい

文化体験格差を解消するために

### ★子どものいる場所へ

(学校・学童への派遣事業)

### ★多様な子どもたちとつながる

(講演会・文化里親制度の準備)

## 私たちが感じる

新型コロナウイルス感染症発症後の学校、地域の変化

◎学校現場で多世代で多様な人と交わったり、体験したりする機会の喪失

◎PTA活動の多くも中止になり保護者間の連携の喪失

◎地域行事（ラジオ体操も含め）がなくなり、子どもも親も多様な価値観、多彩な人との出会いの喪失

本当に格差はあるのか？  
子どもの体験格差の実態について

## 低所得家庭の子どもの3人に1人が 学校外の体験が「何もない」

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

Chance for Children

小学生の子どもがいる保護者2,097名へのアンケート調査 (2022/12/15)

## なぜ文化体験が必要なのか？ 学童期の体験機会が及ぼす影響

社会関係資本×適応力

子どもたちが多様な相手と交流できる活動の場があるほど人間関係にポジティブになれる可能性が高い

体験活動×非認知能力等

各種の体験活動を経験することの非認知能力等に関する効果が多く体験活動の経験が子供の自尊感情や我慢強さを伸ばす

文部科学省  
21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児) 特別報告の結果(2023/3/24)

## 事業内容・3つの柱+文化里親制度の準備

★アーティスト派遣事業

★あそびの出前事業

★講演事業

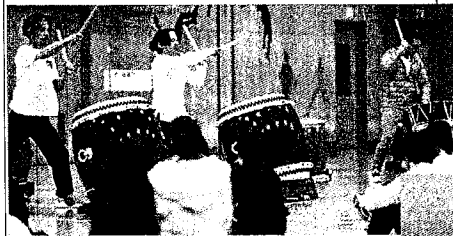
## アーティスト派遣事業

子ども文化地域コーディネーターが  
学校と芸術家をマッチング

### 実施ジャンル

音楽・演劇・ミュージカル・バレエ・身体表現・  
能日本舞踊・雅楽・狂言・和太鼓・落語・清元

- ▶ 私は今年受験で、今やりたいことをがまんして  
いて、ストレスなども溜まっていました。しかし、  
授業を受けて、心が救われたような気がします。  
(ゴスペル 小6)
- ▶ ぼくは将来「俳優」になりたいです。今日はそ  
のいい一歩になりました。ありがとうございます  
でした。学芸会実行員としてがんばります  
(ミュージカル 小5)
- ▶ 二人の組になる時、他のクラスの人と組むこと  
で他のクラスの人とも仲良くできるし、関りが  
もっと深くなるからよかったなと思いました。  
(身体表現 小2)



## あそびの出前事業 5回

集団あそび（鬼ごっこ・わらべうたあそび）・お手玉・じゃんけんあそび・工作紙芝居など



## 講演会 2回

- ▶ パネルディスカッション
  - ▶ 仮称「となりの子はどんな子」、
  - ▶ 区内で子どもの支援活動をしている団体の方を
  - ▶ 呼んで各視点で見えている子どもの現状を知る
- ▶ 有識者による講演会
  - ▶ 仮称「コロナ禍を経て 子どもの現状」

これからにつなげるために  
文化里親制度の準備事業

これからに向けて

★文化体験の機会の公共性  
(学校・学童への派遣事業)

★文化里親制度の構築

令和5年度一般事業助成 質問表

団体名: あそびと文化のNPO子ども劇場

番号	質問内容	回答内容
1	<p>事業計画書①事業目的・概要 文化体験里親寄附制度について、具体的な説明をお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)文化体験里親寄附制度は、区民の方より1口3000円の寄付を募り、文化体験の機会が少ない子どもとその保護者(責任的立場の人)を当団体が企画、運営する鑑賞会にご招待する。</li> <li>・対象の子どもは、区内で子ども支援をしている団体を通じてお知らせをして参加してもらおう。(今回の学習会などを通じてどのような形がいいのか相談)</li> <li>・今年度の事業報告を作成しながら、子どもの文化体験格差や文化の有効性を広く区民に広報していく理解者を増やす。</li> <li>・特別寄付金枠として、寄付額の内2500円が鑑賞代、500円が当団体の運営費とする。</li> <li>・年間100口の寄付を目指し、鑑賞作品により、適正な人数をご招待する。</li> <li>・HPより寄付が出来るシステムづくりを今年度構築。</li> <li>・寄付者と子どもをつなげる仕組みを今後検討。</li> <li>・寄付者、寄付額とご招待した子と親(責任ある大人)の人数や感想をHPを通じて報告する。</li> </ul>
2	<p>事業計画書①事業目的・概要 「子どもたちや保護者の実情を共有し学習する」とありますが、保護者は何を学ぶのかを教えてください。また、「協力の輪を広げる」とありますが、どのようなネットワークを作っていくのか教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当団体の会員の中で、コロナ禍で制約を受けてきた3年間で子どもたちの育ちに、影響があると感じている人がいる。他で活動している人たちは感じていることがあるのかを学ぶ。</li> <li>・保護者が学ぶのではなく保護者の実情をこちらが学び、体験格差の現状を明らかにする。</li> <li>・子どもたちを支援している団体は、特化した形(食、学習、障害など)で子どもを支援している。子どもの支援は包括的な支援が必要である。この先(仮称)文化体験里親寄附制度を構築し、それらの団体と当団体につながることでハブの役割が果たし、子ども(親も含め)支援のネットワークを広げて行く。</li> </ul>
3	<p>事業計画書②地域課題・社会的課題 「文部科学省による21世紀出生児縦断調査特別報告」の出典、年度というような具体的な該当箇所を明示してください。</p>	<p>文部科学省 報道発表 令和5年3月24日 21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)特別報告の結果について公表します I 子供の「孤独・孤立」に関する、社会関係資本・学校適応に関する分析 ポイント3, 4 II 学童期の体験活動とその後の非認知能力等に関する分析 ポイント1 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20230316-mxt_chousa01-000028304_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20230316-mxt_chousa01-000028304_01.pdf</a></p>
4	<p>事業計画書③活動内容 「プロのアーティスト」について詳しく教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の講師は別表の通りです。これらの講師は文化庁事業においてNPO法人子ども劇場東京都協議会と契約を結んだ講師です。本事業の申請が可決されましたら、個別に講師の方に文化庁事業と同じ条件で改めてお願いすることとなります。</li> </ul>
5	<p>事業計画書⑥先駆性・専門性 「子ども劇場東京都協議会が受諾している文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」のNPO法人提案型事業を2011年より新宿区内の小中学校へ実施している」とありますが、10年近く活動してきた事業をやめて今回の助成を受けるのでしょうか。既存事業との関係性を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業はNPO法人子ども劇場東京都協議会(21団体が所属)が主催として文化庁から委託を受けて、当団体は学校へ紹介し繋ぐという立場であった。10年間新宿区の公立学校中心に子ども文化地域コーディネーターとして関り、学校教育現場に本事業の有効性を感じているが、区内すべてにいきわたっていない。区として独自に学校にこの事業を推進してもらうための足がかりとして今回、この一般事業助成で提案した。</li> </ul>



## 事業計画書

団体名	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
事業名	四谷四丁目における親子防災減災推進事業
① 事業目的・概要	ア 事業目的
	<p>来るべき南海トラフ巨大地震や首都直下地震に備え、四谷四丁目地域において、市民活動を行う施設や団体がつながり、災害時の協力関係・体制を強化するきっかけを作ることを目的とする。また、この活動を通して、今後、新宿区の他の地域に防災減災を波及させていく足掛かりとする。</p>
② 地域課題・社会的課題	イ 事業概要
	<p>本事業では、当会の事務所がある四谷地域において、四谷四丁目の子ども食堂利用者をはじめとする新宿区在住・在勤(活動)・在学している親子を対象に、防災まち歩きと災害図上訓練(DIG)実施する。実施にあたっては、町会や消防署をはじめ当会と平時から関わりのあるNPOと可能な限り連携することを目指す。</p>
② 地域課題・社会的課題	<p>新宿区では、平成23年の東日本大震災において、新宿駅周辺で多数の帰宅困難者が発生し、避難誘導や一時滞在施設の確保、情報収集伝達等において多くの課題が明らかになった。その後も、鉄道等の運行停止により、大量の帰宅困難者が発生するのは以前と変わらぬ課題であり、帰宅困難者の安全確保と多くの民間施設の活用が求められている。対象となる四谷四丁目のハザードマップでは、地震が発生した際、土砂災害や液状化の危険性の危険性があり、避難所である四谷ひろばへの避難経路が分断される可能性や4m程度の幅の狭い道や高いブロック塀など子ども達にとって災害時注意すべき場所は多く存在する。</p> <p>新宿区地域防災計画によると、現在の被害想定では、屋内収容物による死傷者数が385人、要配慮者の死者が69人発生すると想定され、防災対策として区民一人ひとりの防災力向上や防災区民組織(町会・自治会等)の自主的な防災訓練などの取り組みを行うなど、自助・共助の推進が喫緊の課題である。また、自主防災組織が高齢化して、発災時に地域で被災者支援に対応できない可能性も心配されていて、地域を超えて活動するNPOとの協働は不可欠である。しかし、日ごろから、防災区民組織とNPOとの協働・連携が十分でないことが指摘されている。</p> <p>当会が、四谷四丁目にある東長寺で行う子ども食堂の利用者を対象に行った災害に関するアンケートによると、「首都直下地震をはじめとする大規模災害が起きた場合、心配すること」として40人に回答を頂いた中、31人から子どもの健康やストレスが心配であるという回答があった。つまり、子育て家庭のニーズに応じた避難所の運営や防災の取り組みにも努めていくことが求められている。</p>

<p>③ 活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	I. イベント (会議) 名: (子ども食堂で学ぶ防災)
	ア イベント (会議) の開催予定等
	<p>活動内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災まち歩き —1グループ5人程度で自分たちの住む地域を防災の視点で歩き、防災倉庫や避難所などの防災設備や危険個所を再確認する活動。</li> <li>・ 災害図上訓練 (DIG) —防災まち歩きで歩いたコースを地図に起こし、歩く中で見つけた防災設備や危険個所を可視化することで気づきを共有する活動。</li> </ul>
	<p>実施期間: R 5年 6月 ~ R 5年 12月</p> <p>実施回数: (1) 回/月・(年)</p> <p>実施場所: オンライン ・ (会場) (東長寺)</p>
	イ 対象者及び参加予定人数
	<p>対象者: 子ども食堂利用者とスタッフ、防災区民組織、その他周辺住民、NPO</p> <p>参加予定人数: のべ (30) 名</p>
	ウ 周知
	<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> ポスター    <input checked="" type="checkbox"/> チラシ    <input type="checkbox"/> HP    <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等)    <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他 (子ども食堂利用者、子ども支援団体)</p>
	エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)
	<p>団体構成員 (1) 名    講師等 (1) 名</p> <p>アルバイト (5) 名    ボランティア (2) 名</p>
II. イベント (会議) 名: (まち歩き振り返り会)	
ア イベント (会議) の開催予定等	
<p>活動内容: 防災まち歩きと災害図上訓練 (DIG) の活動報告とその際に出た意見や課題を共有する機会を作る。</p>	
<p>実施期間: R 5年 9月 ~ R 5年 3月</p> <p>実施回数: (2) 回/月・(年)</p> <p>実施場所: オンライン ・ (会場) (東長寺)</p>	
イ 対象者及び参加予定人数	
<p>対象者: 子ども食堂利用者</p> <p>参加予定人数: のべ (80) 名</p>	
ウ 周知	
<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> ポスター    <input type="checkbox"/> チラシ    <input type="checkbox"/> HP    <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SNS)</p>	

	<p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 区施設（特別出張所、地域センター等）      <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input type="checkbox"/> その他（子ども食堂利用者、子ども支援団体）</p> <p>エ スタッフ等人数（⑥へ人数を記載）</p> <p>団体構成員    (2) 名                      講師等                      (0) 名</p> <p>アルバイト    (0) 名                      ボランティア (10) 名</p>
<p>④ 安全対策等 (箇条書きで ご記入ください)</p>	<p>ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策</p> <p>防災まち歩き・災害図上訓練(DIG)実施にあたっては5人程度の6グループで実施することを想定。各グループに安全確認担当者を配置し、まち歩きの最中、車両をはじめとする危険を知らせ安全を確保しながら実施する。また、各グループスタッフも連絡先を共有することで緊急時に対応できる体制を整える。事故等の対策としてファーストエイドキットの用意とスタッフと参加者はボランティア保険に加入する。</p> <p>イ 新型コロナウイルス感染症対策</p> <p>本事業は、当会の感染症ガイドラインに則り行動する。</p> <p>1) 予防を徹底する(手洗い、うがい、アルコール消毒、飲食は共有しない等)</p> <p>2) 必要に応じてPCR検査を実施。陰性が確認後、対象地域へ訪問。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染者と接触した場合、10日間在宅勤務・有休消化を取得する。</p> <p>4) 職員は、体調管理表に基づく体調チェックを行う。</p>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p>ア 区民や地域社会への成果・効果</p> <p>四谷四丁目において災害時に脆弱性のある世帯などともつながりのある子ども食堂が防災の取り組みを行うということが地域住民の安心につながると考える。子ども食堂を実施している東長寺(四谷四丁目)は、東日本大震災では帰宅困難者を受け入れ、炊き出しを行った経験を持つ施設ということもあり、災害時の地域資源として、ハード面でも防災に活用できることが期待される。</p> <p>子ども食堂利用者とNPO、防災区民組織などの交流を通して、災害時などの緊急時に協力し合うことのできる関係性が構築され始めることを期待する。</p> <p>イ 現状や課題に対する成果・効果</p> <p>帰宅困難者受け入れ施設や一時滞在施設などが足りない中、東京都宗教連盟は都内約4,000ヶ所の施設活用などを記載した要望書を2017年に提出しているが具体的な防災訓練などは実施されていない。</p> <p>本事業で、先駆的モデルを作ることで地域資源としての宗教施設や子ども食堂の活動の中に防災の意識が芽生え始めることを期待する。</p>

⑥ 先駆性・専門性

子ども食堂は多世代で定期的集まって行うボランティア活動で子どもに関わる活動を行う団体とネットワークも持っている。また、今回企画する会場である東長寺は、東日本大震災で帰宅困難者を受け入れた経験があり、地域住民のよりどころや地域資源として認知されている。この2つの要素を兼ね備えた施設は地域にとって重要な役割を担う素地がある。首都直下地震が発生した際、多くの帰宅困難者に対応するため東京都が進める民間施設の活用の中でも、子ども食堂を行う施設の防災の取り組みはまだ少なく先駆性があると言える。

また、当会がこれまで活動を行ってきた被災地支援の事例や防災まち歩きをはじめとする防災減災活動のノウハウを地域に伝え、防災力を高める専門性のある活動である。

⑦ 今後の展望

東長寺では、策定している事業継続計画に明記される防災訓練を継続して実施するための繋がりができることで地域住民と自助・共助を共に考えていくための環境が整い始める。

また、当会をはじめとする新宿区やその周辺に事務所を置くNPOが地域に根差した活動を行う基盤を作るきっかけになる。

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度 (     )                      事業名 (                                      )
	助成年度 (     )                      事業名 (                                      )
	助成年度 (     )                      事業名 (                                      )
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	<p>有の場合は、助成名称(団体)及び助成額</p> <p>助成名(団体名):</p> <p>助成額:                                      円</p> <p><small>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</small></p>

収支予算書

費 目		予 算 額	内 訳
事業費 支 出 区 分	①使用料及び賃借料	円	
	②消耗品及び印刷費	93,241 円	プリントナー 4,480円×1本=4,480円 コピー用紙 3,990円×1箱=3,990円 チラシ印刷(A4 片面カラー) 50円×300枚=15,000円  【DIG】 ハイマッキー(油性マジック)8色セット857円×6班分=5,142円 模造紙5枚384円×2セット=768円 カラーラベル5色1,671円×6班分=10,026円 ブルーシート1,529円×6班分=9,174円 油粘土446円×6班分=2,676円 爪楊枝120円 宛名用シール(10枚)461円×2冊=922円 セロテープ小巻カッター付き197円×6班分=1,182円 カラー布テープ399円×6班分=2,394円 ハサミ390円×6班分=2,340円  【まち歩き】 まち歩き事業実施における熱中症対策用の飲料 150円×30人=4,500円 バインダー153円×10枚=1,530円 チェキ11,000円×2台=22,000円 チェキ専用フィルム2パック1,562円 腕章306円×6班分=1,836円 ワイヤレスマイク3,599円
	③委託費	円	
	④講師謝礼	30,000 円	講師謝礼(当日) 3万円×1人×1日 30,000円
	⑤その他謝礼	110,000 円	防災まち歩き下見打合せ 1万円×3人×2回 60,000円 当日ファシリテーター謝礼 1万円×5人×1回 50,000円
	⑥交通費	円	
	⑦保険料	1,120 円	ボランティア行事用保険Cプラン(宿泊を伴わないかつ参加者が事前に特定できない行事) 1日1人28円×40人=1,120円
	⑧その他諸経費	円	
	⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	20,000 円	※上限額2万円以内 (20,000) 抗原検査キット2,000円×10セット=20,000円
	⑩人件費	84,787 円	※下記「事業費」の25%以内 (84,787) (団体構成員分) 4,000円×1人×25日=100,000円

事業費 (①から⑩の合計)	339,148 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費	円	※事業費の5%以内 (16,957)
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)	339,148 円	
⑬助成対象外経費	15,213 円	⑩人件費超過分15,213円
<b>事業総額</b>	<b>354,361 円</b>	

内 容	予 算 額	積算根拠 (内訳)
⑦ 事業収入 (参加料、資料代等)	円	
⑧ 寄附金	円	
⑨ 補助金等収入	円	
⑩ 協働推進基金助成金	232,000 円	「①～⑧、⑪～⑬の合計」の2/3と「⑨」の合計 ※千円未満切り捨て
⑪ 団体負担金	122,361 円	
<b>収入総額</b>	<b>354,361 円</b>	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) こうえきしゃだんほうじんしゃんていこくさいぼらんていあかい 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) わかばやし きょうえい 若林 恭英	
連 絡 者 氏 名	[Redacted]	
設 立 (活 動) 開 始 年 月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 1981年 12月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 (年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人 : 226 団体 : 46	入会条件 社員会員又は賛助会員として入会しようとする者は、理事会において定める入会及び退会規程(以下「入会及び退会規程」)に定める方法で、申し込むものとする。 社員会員は、社員総会において定める入会及び退会規程に定める基準の下、理事会の承認により入会することができる。
主 な 活 動 地 域	東京都 区・市 その他(東南アジア)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) ① (年 4回発行) / 無 (ホームページ) ① (URL <a href="https://sva.or.jp/">https://sva.or.jp/</a> ) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	1979年のカンボジア難民の大量発生を契機に、1980年「曹洞宗東南アジア難民救済会議」を発足した。会議に参加し現地の難民キャンプを訪れた青年僧侶や主婦、学生ボランティアの有志が現地の過酷な状況を目の当たりにし、すでに国際機関や欧米のNGOが行っている住居や食事などの基本的ニーズを満たす活動以外に我々には何ができるのか、人々の内面の力を引き出すものは何かを考え、伝統文化支援と教育支援活動に主眼を置いた任意団体「曹洞宗ボランティア会(SVA)」を結成した。それ以来、困難な環境の中にいるアジアの子どもたちが、文字を覚え、知識を広げ、人の喜びや悲しみを理解し、自分たちの伝統文化に誇りを持ちながら自然や文化を愛する心を培ってほしいと願い、図書館運営を通じた民話絵本の読み聞かせ、読書推進活動などの教育支援を行っている。	

<p>主 な 活 動</p>	<p>新宿区民を対象とした活動 東長寺での防災減災活動。 具体的には事業継続計画の策定会議、子ども食堂利用者への防災アンケートの実施、備蓄品整備の相談等</p>
<p>(具体的に記入してください)</p>	<p>上記以外の活動 ・国内外での緊急人道支援活動 ・国内での防災減災事業 ・豊島区での在留外国人支援 ・海外での教育支援 東南アジア（カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ネパール、ミャンマー、タイ）を中心に活動</p>
<p>新宿区との連携実績</p>	<p>・部署名 区長室 危機管理部 地域振興部 地域コミュニティ課 地域振興部 特別出張所 福祉部 地域福祉課</p> <p>・連携事例 平成 28 年度 新宿区災害ボランティアセンター関係団体意見交流会</p> <p>・連携した内容の詳細 新宿区と参加団体の取り組み、近況の報告を行った。 主に新宿防災フェスタの開催や災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施について意見交換を行った。</p>



2023年5月30日

令和5年度協働推進基金助成一般事業助成二次評価(公開プレゼンテーション)

## 四谷四丁目における親子防災減災推進事業

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
国内緊急人道支援担当 中井 康博



### 団体紹介

#### 設立40年目を迎えました

創設以来、共に生き、共に学ぶことのできる平和な社会を目指し課題と向き合ってきました。



- 1980 ○ 前身の曹洞宗東南アジア難民救済会議 (JSRC) 設立
- 1981 ○ 曹洞宗ボランティア会 (SVA) 結成
- 1991 ○ カンボジア事務所開設
- 1992 ○ ラオス事務所開設
- 1995 ○ 阪神・淡路大震災を受け緊急救援を開始
- 1999 ○ 社団法人シャンティ国際ボランティア会
- 2000 ○ ミャンマー (ビルマ) 難民事業事務所開設
- 2003 ○ アフガニスタン事務所開設
- 2011 ○ 東日本大震災復興支援活動を開始
- 2014 ○ ミャンマー事務所開設
- 2016 ○ ネパール事務所開設

## 防災の活動

- 防災寺子屋
  - ex) 防災まち歩き
- 宗教施設を活用した防災減災推進事業
  - ex) BCP策定、防災ワークショップ



シャンティ国際ボランティア会  
Shanti Volunteer Assoc.

40<sup>th</sup>  
anniversary

## 東長寺子ども食堂

2016年  
・8月オープン

2023年現在  
・開催頻度：月2回  
・登録者数：206名

コロナ以降、お惣菜受け取りを利用した  
世帯は65世帯  
毎回120人分の食事を提供



シャンティ国際ボランティア会  
Shanti Volunteer Assoc.

40<sup>th</sup>  
anniversary

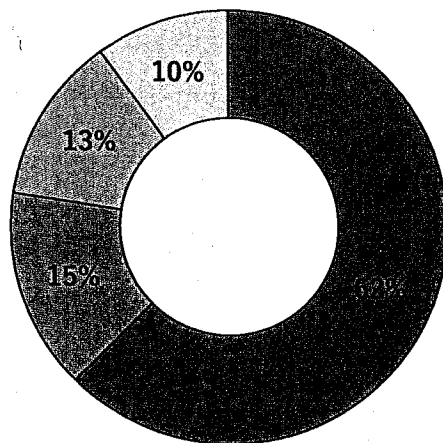
# 東長寺子ども食堂アンケート

- 実施日：2022年10月18日～31日
- 対象者：206名
- 回答数：40名

## 【質問事項】

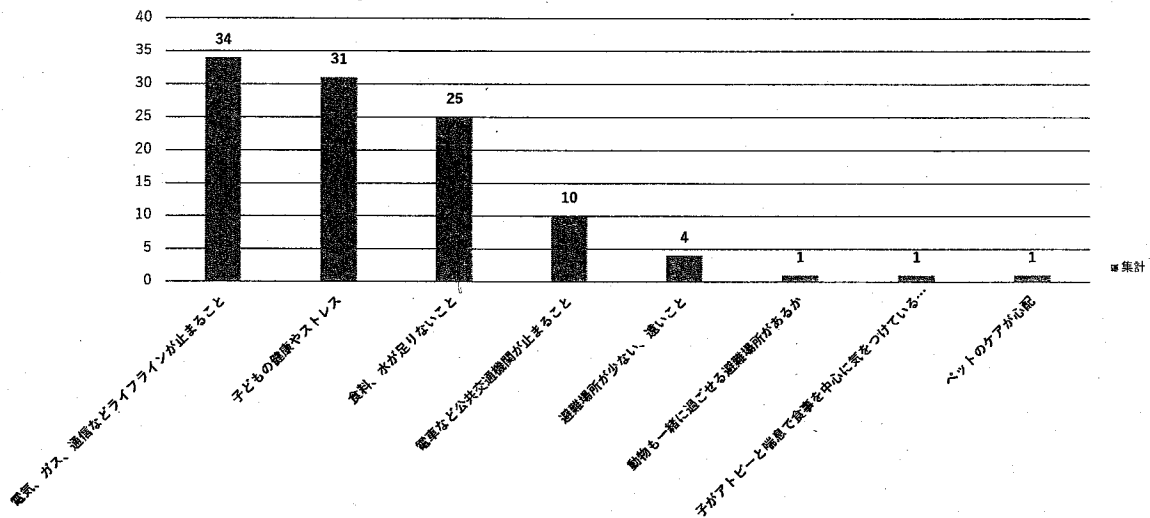
- Q1.新宿区の防災マップやハザードマップを見たことがありますか？
- Q2.大規模災害が発生した際、生活の中で何が一番心配ですか？
- Q3.大規模災害に備えて過程で取り組んでいることはありますか？
- Q4.お寺での防災イベントに興味はありますか？
- Q5.どんな防災イベントに参加してみたいですか？
- Q6.災害時お寺の活用方法として何に期待しますか？
- Q7.災害時お寺に期待することは何ですか？

## Q1.新宿区の防災マップやハザードマップを見たことがありますか？

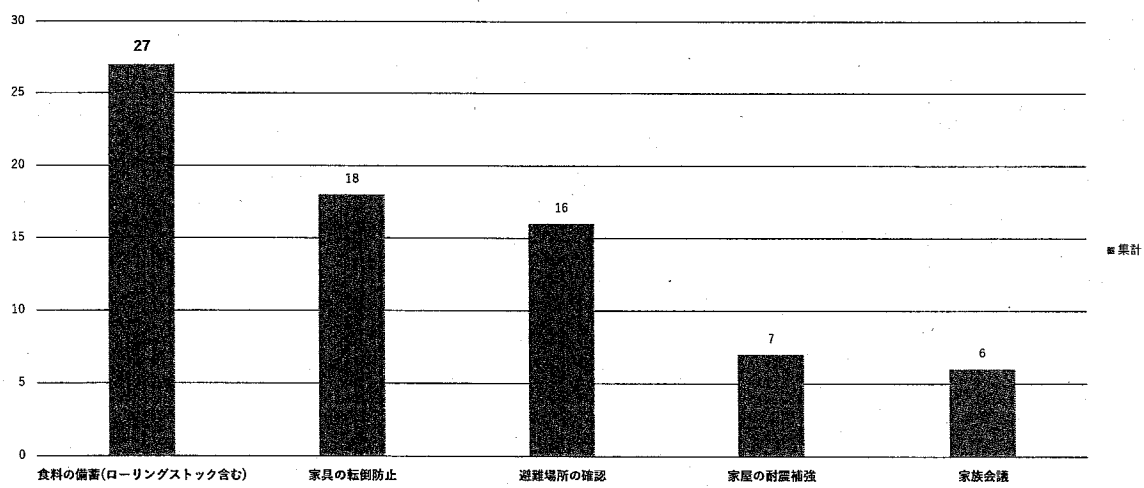


- 防災マップも(水害時の)ハザードマップも見たことがある
- 防災マップは見たことがあるが(水害時の)ハザードマップは見たことがない
- 防災マップは見たことがないが(水害時の)ハザードマップは見たことがある
- 防災マップも(水害時の)ハザードマップも見たことがない

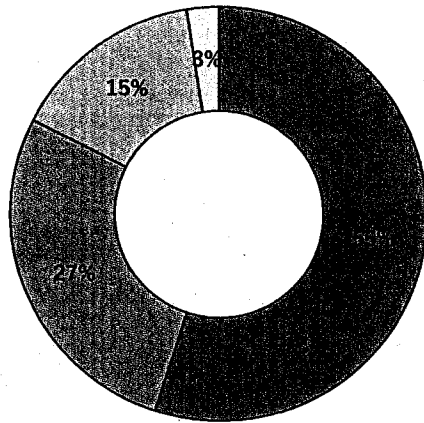
### Q2.大規模災害が発生した際、生活の中で何が一番心配ですか？



### Q3.大規模災害に備えて過程で取り組んでいることはありますか？

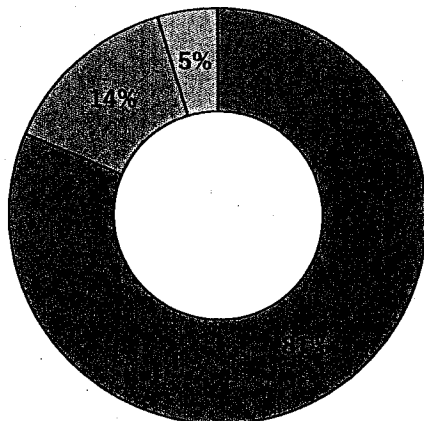


Q4.お寺での防災イベントに興味はありますか？



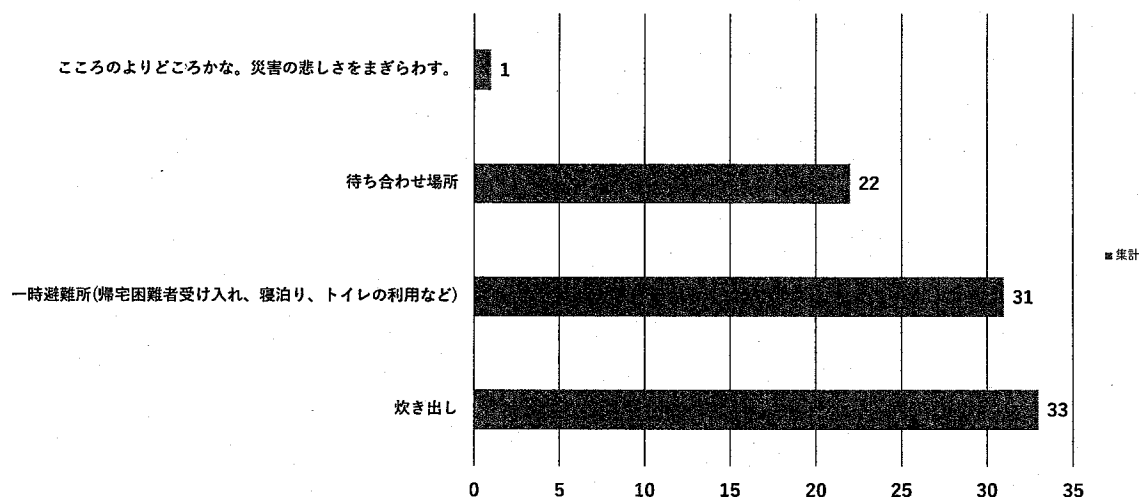
- 興味がある
- とても興味がある
- どちらともいえない
- あまり興味がない

Q5.どんな防災イベントに参加してみたいですか？



- 親子で参加できる防災イベント
- 子ども向け防災イベント
- 大人(親)対象にした防災イベント

### Q6.災害時お寺の活用方法として何に期待しますか？



### Q7.災害時お寺に期待することはなんですか？(自由記述。一部抜粋。)

・安心感を得られたら有難いです、ざっくりとしてますが。子連れで避難をするとあれこれ気を遣うかと思うので子連れでも大丈夫という面を大々的にアピールして頂けるだけで助かるかと思えます。

・このアンケートで、お寺でそのような期待ができることを知り、少し安心しました。すぐに思いつきませんが、是非、避難場所や災害グッズのご提供を利用したいと考えました。

・単身親家庭なので、万が一自分が帰宅に時間がかかる距離にいる時に、子どもが1人でも気軽に頼りにいける距離の町内の馴染みある場所で、顔馴染みがいるということは、大変心強いです。

・日頃からイベントや子ども食堂でお世話になっておりますが、災害との関連は考えていなかったもので、今回のアンケートで災害時にもお寺にご相談させてもらえるんだという安心感を感じました。最近は災害だけではなく子ども関連の事件も多いため、子どもが家に帰る前にお寺の近くで何か困ったことや緊急なことがあればお寺に来て頼ってもいいんだよということを伝えていけたらと思います。

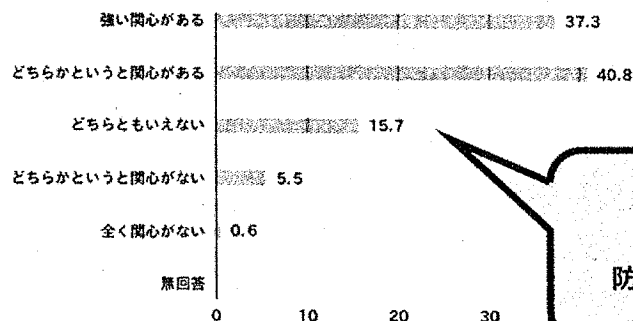
## 第1回全国子ども食堂実態調査集計結果

- 実施団体：認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター
- 対象：子ども食堂を運営する代表者(または代表者に準じる方)および回答時点で活動を休止している方または終了した方
- 回答数：47都道府県1327(2022年1月4日確定※重複回答等を除いた値)

第4回困りごとアンケートより 回答：2021年2月1日～2月10日

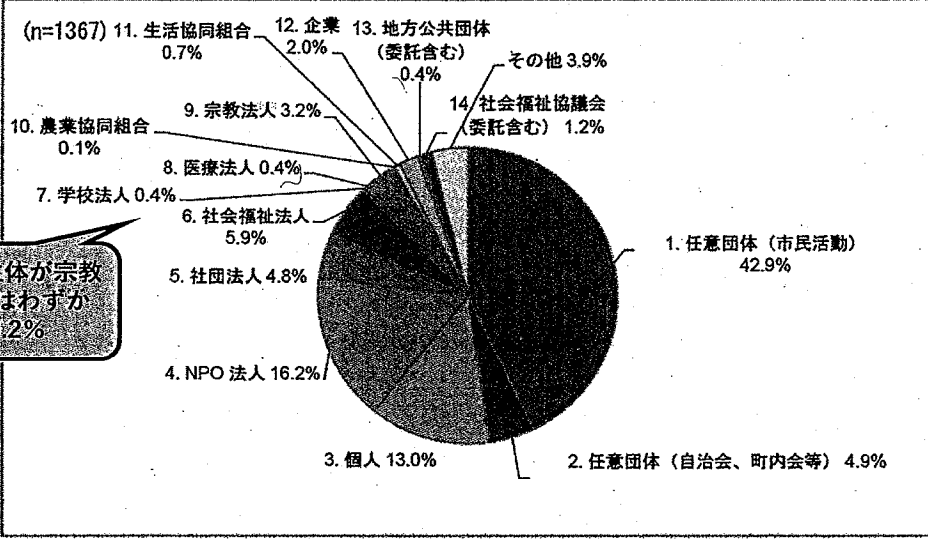
### 7 こども食堂の運営にあたり「防災」に関心があるか

回答数：343件 単位：%



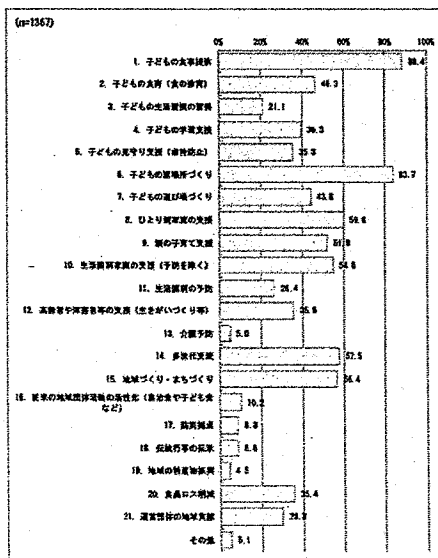
こども食堂の  
78.1%が  
防災に関心がある

【問2】運営主体についてお答えください。(ひとつに〇)



運営主体が宗教法人はわずか3.2%

【問3】あなたが運営することも希望するご家庭の主な目的についてお答えください。(複数すべて〇)

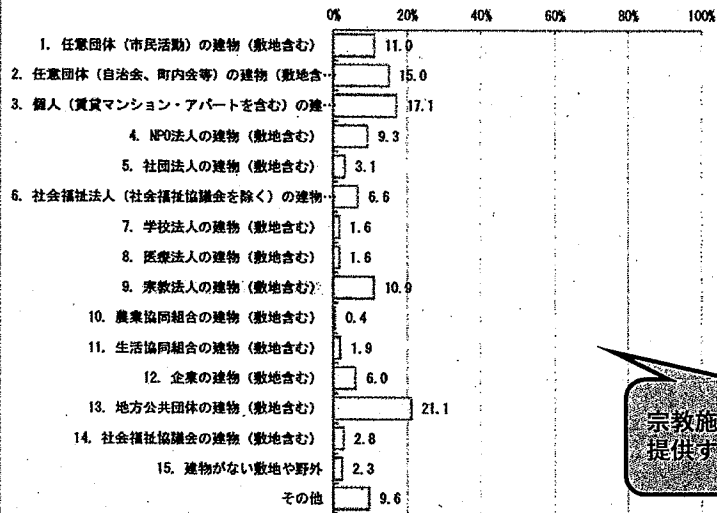


防災に関心はあっても活動目的になることは少ない?



【問 11】開催場所についてお答えください。(該当すべてに○)

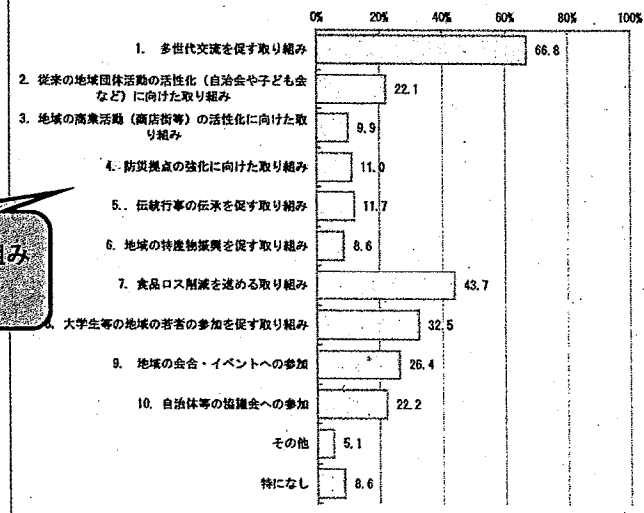
(n=1367)



宗教施設が場所だけ提供する場合もある

【問 14】実施している地域づくり活動についてお答えください。(該当全てに○)

(n=1367)



実際に防災の取り組みは盛んではない



事業計画書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク</p>
<p>事業名</p>	<p>レッツボウサイプロジェクト～ボウサイおそうじ大作戦！～</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p><b>ア 事業目的</b>                  本事業は、防災視点を取り入れた地域清掃をおこなうことで地域の安心安全の確保と、そこで知り合えた地域住民同士が自主的に活動をおこなっていくためのコミュニティの形成とそのネットワークの構築を目的とする。</p>
	<p><b>イ 事業概要</b>                  毎月1回日曜日、祝日に、防災視点の地域清掃を実施する。防災の視点を取り入れた地域清掃とは、地図を持った多くのボランティアが4～5人のグループに分かれ、地域の危険箇所の把握や災害時に役立つ地域の情報を入手、地図への落とし込みをおこない安心安全で美しい街づくりを目指すと同時に、その情報を地域住民と共有することで防災意識と知識の向上や町会、自治会、地域住民同士の顔の見えるつながりの創出が可能となり自主防災組織の強化を目指す。</p>
<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p>近年、ライフスタイルの多様化により町会、自治会の役割が変化するとともに、機能不全に陥っているケースが見られる。そのような地域団体の課題として、次世代の担い手不足、活動のマンネリ化、決まった顔ぶれへの運営負担等があげられる。</p> <p>本事業においては、当団体が杉並区で一年間実施した経験を活かし、連携しやすい立地にあるという点で上落合（1～3丁目）地区を選定した。</p> <p>その上落合（1～3丁目）の総人口における65歳以上の高齢者の割合は21.4%と全国平均の29.1%と比べると低い数値だが、都市ならではの人口構成、単身世帯の増加や外国人世帯の増加など、地域コミュニティの希薄化を生み出す要因も課題としてあげられる。</p> <p>同時に、この上落合地区は「新たな防火規制の指定地区」と「防災再開発促進地区の対象地区」となっており、木造住宅密集地域等のうち、特に不燃化を推進すべき区域や災害に強いまちづくりのエリアに指定されている。</p> <p>ひとたび災害が起きれば、地域の課題が浮き彫りになり、助かる命も失われることになる。特に平日の昼間に大地震が起きれば、地域に残された住民は、「高齢者、女性、小中学生」などいわゆる災害弱者といわれる人たちが多くを占めることになる。そのような観点からも、当団体のボランティアに登録している若者や、連携している大学のボランティアサークルから周知をおこなうとともに、該当地域の小学校、中学校に向けての周知（教育委員会等の協力を仰ぐ）や、町会等が主催するラジオ体操などでの周知活動を精力的におこなうことで、小中学生や若者が町会メンバーと一緒に防災意識と知識を高める活動につながると考える。</p>

<p>③ 活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p>I. イベント (会議) 名 : (ボウサイおそうじ大作戦!)</p>
	<p>ア イベント (会議) の開催予定等</p>
	<p>【活動内容】上落合地区で防災視点を取り入れた地域清掃活動を実施する。</p>
	<p>1) 区内、区外から多くの若者ボランティアを募集し防災関係人口の増加を目指す。</p>
	<p>2) 町会、自治会への周知をおこない、若者ボランティアと協働で事業を実施し顔の見えるつながりを創出する。</p>
	<p>3) 地域の危険個所を「内の目 (地域住民)」と「外の目 (地域外住民)」を使い把握し、その情報を地図に落とし込み町会をとおして地域住民と共有する。</p>
	<p>4) 木造住宅密集地域の解消に向けた啓発活動をおこなう。</p>
	<p>5) 防災意識の向上を、事前事後のようなかたちで防災科研が作成した防災意識尺度を使用して数値化する。</p>
	<p><a href="https://www.bosai.go.jp/katei/products/bousaiishikishakudo.html">https://www.bosai.go.jp/katei/products/bousaiishikishakudo.html</a></p>
	<p>6) 上記内容をとおして、自主防災組織の強化を図る。</p>
<p>【活動実施日】毎月1回 日曜日開催</p>	
<p>1) 2023年6月25日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>2) 2023年7月30日(日) 10:30-12:00</p>	
<p>3) 2023年8月11日(金祝) 10:30-12:00</p>	
<p>4) 2023年9月10日(日) 10:30-12:00</p>	
<p>5) 2023年10月15日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>6) 2023年11月23日(木祝) 13:30-15:00</p>	
<p>7) 2023年12月17日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>8) 2024年1月7日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>9) 2024年2月4日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>10) 2024年3月10日(日) 13:30-15:00</p>	
<p>【実施期間】R5年6月～R6年3月</p>	
<p>【実施回数】(10)回/月・年</p>	
<p>【実施場所】オンライン・会場/屋外 (上落合地区主に三丁目エリア)</p>	
<p>イ 対象者及び参加予定人数</p>	
<p>対象者：地域住民、子どもから大人までボランティアとして。地域外ボランティア。</p>	
<p>参加予定人数： のべ (300) 名</p>	
<p>ウ 周知</p>	
<p>&lt;媒体&gt;</p>	
<p><input type="checkbox"/> ポスター    <input checked="" type="checkbox"/> チラシ    <input checked="" type="checkbox"/> HP    <input checked="" type="checkbox"/> その他 (団体公式SNS)</p>	
<p>&lt;周知先&gt;</p>	
<p><input checked="" type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等)    <input checked="" type="checkbox"/> 区直営掲示板</p>	
<p><input checked="" type="checkbox"/> その他 (上落合町会・上落合中央町会の回覧板)</p>	

	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 2 ) 名</p> <p>アルバイト ( 3 ) 名                      ボランティア ( 300 ) 名</p>
<p>④ 安全対策等 (箇条書きで ご記入ください)</p>	<p>ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 荒天の際は中止又は延期する。</li> <li>・ 中止・延期の周知は団体ホームページと Twitter でおこなう。</li> <li>・ 当日、安全確保のため団体の準備したビブスを着用してもらう。</li> <li>・ 基本的には、各グループに団体スタッフかアルバイト (ボランティアリーダー) が帯同する。</li> <li>・ 当日、注意事項と事業目的を記載したプリントを配布し、安心安全な活動につなげる。</li> </ul> <p>イ 新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外で実施するため、マスクの着用は任意とする。</li> <li>・ 手指消毒の徹底、たくさんの参加者が見込まれるので、グループ分けをおこない少人数で活動する。</li> <li>・ 検温等は参加前に自宅でおこなっていただき、体調に問題なければ参加を許可する。</li> <li>・ 上記内容を事前の周知 (体調が悪い人は参加を見合わせてくださいなど) で徹底する。</li> </ul>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p>ア 区民や地域社会への成果・効果</p> <p>防災活動というと敷居が高いイメージがあるが、本事業のコンセプトであるレッツボウサイプロジェクトは気軽に、身近に、楽しく防災活動をおこなう事業となっている。参加のしやすさから防災関係人口を増やし、その参加者の中から防災コミュニティリーダーが育ち、自主防災組織の強化につながると考えられる。</p> <p>イ 現状や課題に対する成果・効果</p> <p>本事業に参加することで防災意識の向上と同時に、防災に係わらず地域コミュニティの現状の把握ができ、そこに内在する課題が自分事でもあるということが理解できるようになる。防災視点での地域清掃は、ただ地域の危険箇所や街の美化だけを目的とするわけではなく、最大の目的は災害時に活かされる人と人のつながりの創出にある。普段防災活動に参加したことのない若者が町会長をはじめとする地域団体のメンバーと一緒に活動する場を当団体が作り上げることが自主防災組織の形成と強化の仕組み作りに寄与すると考える。</p>

⑥ 先駆性・専門性	<p>防災士による地域に隠された危険個所の説明と、同じく街並みに埋もれがちな災害時のための行政発信の情報の見つけ方など、すぐに実践できるスキルを身に付けることができることと、団体の公式LINEアカウントを使って危険箇所の写真や位置情報を共有でき、最終的にその情報を集約し地図に落とし込んで共有することができる。</p>
⑦ 今後の展望	<p>他地域での経験を踏まえ、2年目は引き続き問題解決型の支援をおこない、3年目からは伴走型に切り替え、将来的には自主的にこなせるノウハウを共有する。最終的には伴奏型から自主的な活動に移行していくかたちとなるが、その際に当団体の准認定ファンレイザーが寄付等、資金の確保についてのサポートをおこなう。同時に他地域への水平展開は2年目から視野に入れ、社会的インパクトに繋がる情報の発信を行っていききたいと考えている。</p>

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度 (            )            事業名 (                            )
	助成年度 (            )            事業名 (                            )
	助成年度 (            )            事業名 (                            )
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	<p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> 有            <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
	有の場合は、助成名称 (団体) 及び助成額 助成名 (団体名) : 助成額 :                            円 <small>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</small>

## 団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんぼうさいこみゆにていねっとわーく 特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク		
所 在 地 (主たる事務所)	[REDACTED]		
代 表 者 氏 名	(ふりがな) ますむら かずき 増村 一樹		
	連絡者氏名	[REDACTED]	
	住所	[REDACTED]	
	電話	[REDACTED]	FAX
	e-mail	[REDACTED]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 2019年 9月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 ( 年 月末日現在)		
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 10人 団体: 0	入会条件 条件なし 入会金 正会員 (個人・団体) 3,000円 賛助会員 (個人・団体) 5,000円	
主 な 活 動 地 域	杉並区、台東区、目黒区 その他 ( )		
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) <input checked="" type="checkbox"/> (年 3 回発行) / 無 ----- (ホームページ) <input checked="" type="checkbox"/> (URL <a href="https://bosaicn.net/">https://bosaicn.net/</a> ) / 無		
団 体 の 目 的 (定款の目的)	この法人は、広く一般市民を対象として、防災意識の向上のための講演会や見学会、被災地を含む地域間の観光振興、町おこしや文化交流、災害がもたらす環境への影響を調査研究し、高齢者や外国人など情報弱者に対する情報発信や災害時の福祉の維持に関する事業を行い、防災を通じた地域コミュニティ間の交流を促進させることで、大規模な災害に対応できるネットワークづくりに寄与することを目的とする。		

<p>主 な 活 動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動 実績なし</p> <hr/> <p>上記以外の活動</p> <p>通年 防災視点の地域清掃活動「ボウサイおそうじ大作戦！」(杉並区、台東区)</p> <p>通年 非常食をアレンジした食事を提供する子ども食堂(杉並区、荒川区)</p> <p>令和4年度杉並区NPO活動資金助成「ボウサイおそうじ大作戦！」年12回</p> <p>令和4年度杉並区男女平等推進委託講座「女性のための防災講座」年2回</p> <p>令和4年度杉並区地域包括委託講座「介護×防災」年1回</p> <p>令和4年度杉並区協議会主催防災フォーラム「地域防災講座」年1回</p> <p>令和4年度杉並区、目黒区「防災ICT支援事業」年40回</p> <p>令和4年度台東区社会福祉協議会委託講座「情報と防災」年1回</p> <p>令和5年度台東区協働事業「防災コミュニティ構築事業」</p> <p>令和5年度杉並区男女平等推進委託講座「男女参画のための防災講座」年2回</p>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部署名</li> <li>・ 連携事例</li> <li>・ 連携した内容の詳細</li> </ul>



令和5年度協働推進基金助成金  
一般事業助成

レッツボウサイプロジェクト  
ボウサイおそうじ大作戦！

特定非営利活動法人  
防災コミュニティネットワーク

特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク

VISION - 目指す社会のすがた-

災害時に力を発揮する強いコミュニティ

MISSION - 私たちの使命-

防災活動をとおしたコミュニティの形成と  
そのネットワークの構築

課題～活動の背景～

地域コミュニティの希薄化

担い手不足

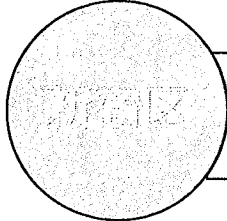
単身世帯増

既存コミュニティの機能不全

令和3年度からスタート  
「レッツボウサイプロジェクト」

レッツボウサイプロジェクトとは  
気軽に、身近に、楽しく、  
さまざまな防災体験をとおして  
防災関係人口を増やすプロジェクト  
です。

## 協働の必要性と協働することで得られる効果



既存コミュニティとの  
橋渡しの役割と区内における  
最新の防災事情の共有



区外、区内のボランティア等と  
地域住民とのつながりを創出する  
ための仕組み作り



## ボウサイおそうじ大作戦！



目的：安心安全な地域づくり。  
防災関係人口の増大。  
内容：毎月1回日曜開催。(全10回)  
防災目線での地域清掃。  
多数のボランティア参加者。  
地域住民の共感を得られる  
ような社会的インパクトの  
創出。  
町会、防災団との連携。

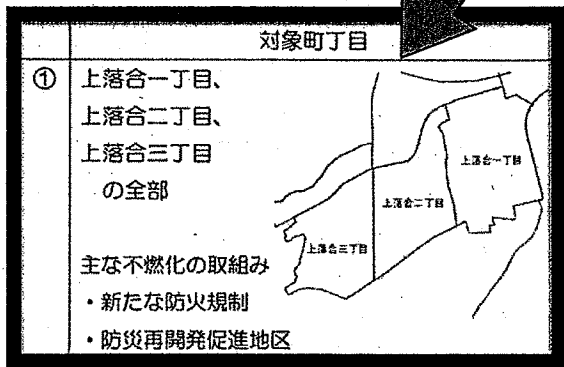
### ポイント

地域が動出していると住民が感じられる取り組みを目指す。

## 対象地域について

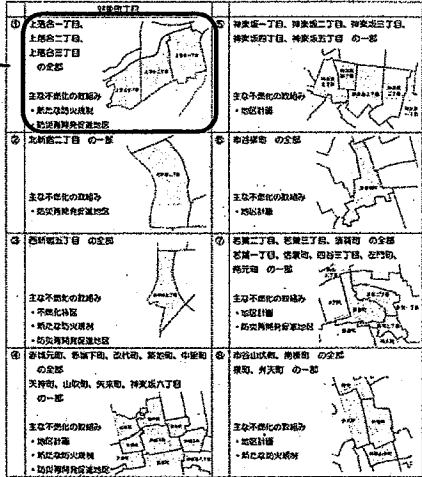
木造住宅密集地域等のうち、特に不燃化を推進すべき区域や災害に強いまちづくりを推進している区域になっている、「上落合地域」を対象とし事業をおこなう。

上落合一丁目、二丁目、三丁目



木造住宅密集地域等のうち、特に不燃化を推進すべき区域や災害に強いまちづくりを推進している区域(※)を対象とし、木造住宅を早期に建築規制にする不燃化推進工事業の事業を実施します。

防火対象区域は下段(※)の通りです。詳細は、各所の案内板をご覧ください。



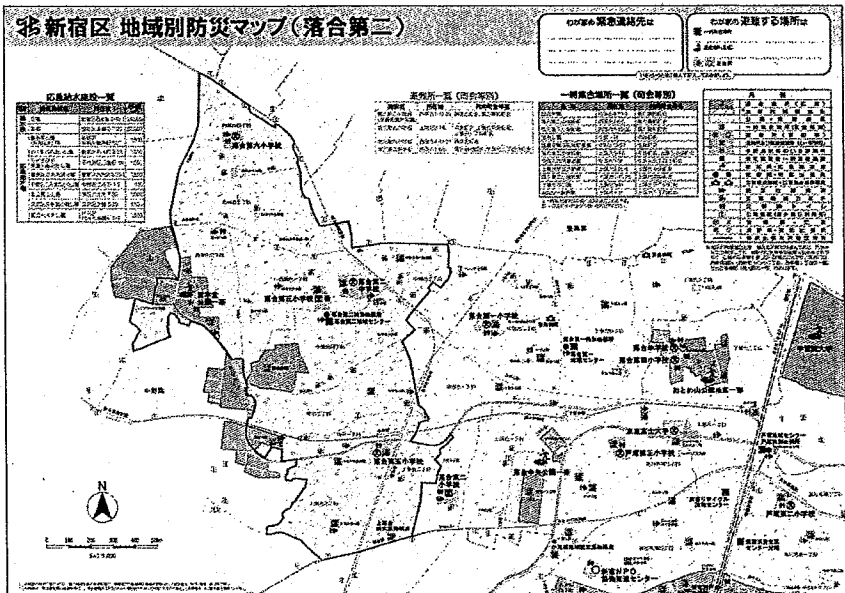
※防火対象区域を推進するべき区域や災害に強いまちづくりを推進している区域とは「防火対策の地区別実施計画が定められている区域」、「新たな防火規制の指定を受けた区域」、「不燃化対策の指定を受けた区域」、「防災再開発促進地区の区域」を指します。

## 実施概要① 地域防災清掃活動

①1グループ5～6人  
平均3～5グループ

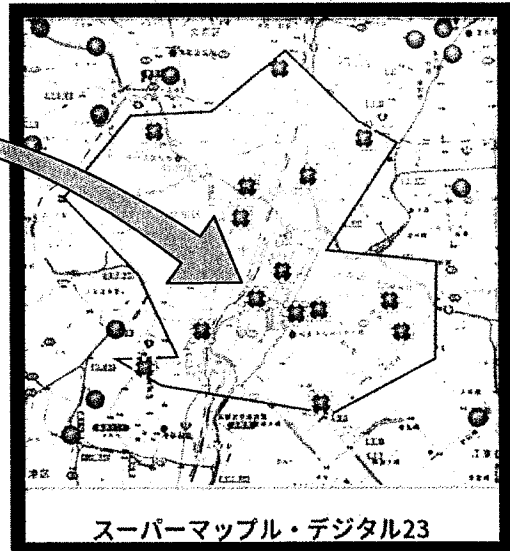
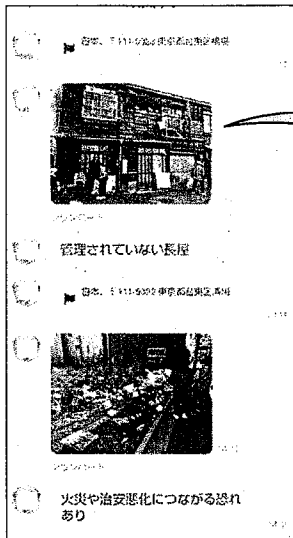
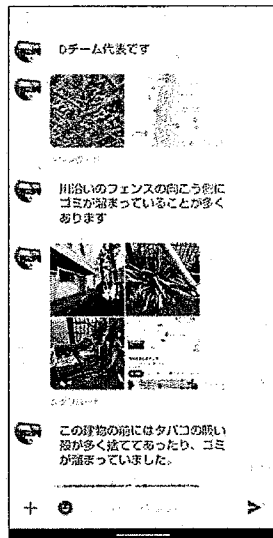
②新宿区地域別防災マップを活用し防災清掃活動をおこなう。

③危険箇所等を団体の公式LINEアカウントに写真と位置情報を投稿し共有する。



## 実施概要② ポウサイおそうじマップの作製

危険箇所やゴミが多い場所などLINEを使って情報を集約させ、デジタルマップに落とし込む。



## 町会との連携

【上落合西町会ブログから～防災まつり～】  
参加者、スタッフ合わせて150名を超える参加者がゲームやクイズを楽しみながら防災について学びました。  
安心、安全な町会づくりにご理解ご協力をありがとうございました。

- ・ブログにはたくさんの子どもが参加している写真が掲載されていた。
- ・町会が地域の中で機能している好事例と感じた。同時にその中での課題等の有無が気になった。
- ・上落合西町会の取り組みを、他の地域においても水平展開できる仕組みを整えるのが重要だと感じた。

防災地域円卓会議を開催し情報共有と課題解決を目指したい。

## 防災まつり

地域の子どもたちと一緒に  
“防災について楽しく学びましょう”  
2月26日(日) 10:00～12:00  
落合第五小学校・体育館 (受付9:30～)

※コロナウイルス感染防止により中止になることがあります

1.受付 (検温と健康確認) 参加費無料	2.防災クイズ (防災に関するクイズ)
3.ゲーム (防災に関するゲーム)	4.防災大抽選 (防災に関する大抽選)

お願い1:マスク着用  
感染対策に協力を!  
受付で健康確認をします

お願い2:室内靴持参  
会場は体育館です  
外履き入れの袋も持参

お願い3:エコバッグ  
参加賞と景品を入れる  
袋を持ってきてください

『縁がえる町会』～笑顔、元気、活気あふれる西町会～  
上落合西町会 防災部  
町会の情報はブログ(QRコード)でもご覧いただけます

西上落合町会

# 地域住民の共感を得るための活動報告

www.npo170.org

NPO法人防災ユニティネットワーク Vol.5  
 かつどうレポート  
 84.5.30発行

NPO 杉並区NPO活動資金助成事業  
 水のサイボウズ大作戦！ 2022.6.26開催

活動場所：西荻地域今川4丁目公園  
 ▶参加者(参加人数)：21名  
 ▶内容：水のサイボウズを体験し、水資源の大切さや、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。また、水のサイボウズを体験し、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。



Twitter  
 @npo170

次回活動日は  
 7月17日(日)  
 11:30~13:00です

www.npo170.org

NPO法人防災ユニティネットワーク Vol.6  
 かつどうレポート  
 84.7.26発行

NPO 杉並区NPO活動資金助成事業  
 水のサイボウズ大作戦！ 2022.7.17開催

活動場所：西荻地域今川4丁目公園  
 ▶参加者(参加人数)：50名  
 ▶内容：水のサイボウズを体験し、水資源の大切さや、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。また、水のサイボウズを体験し、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。



Twitter  
 @npo170

次回活動日は  
 8月28日(日)  
 11:30~13:00です

www.npo170.org

NPO法人防災ユニティネットワーク Vol.11  
 かつどうレポート  
 84.11.18発行

NPO 杉並区NPO活動資金助成事業  
 水のサイボウズ大作戦！ 2022.10.30開催

活動場所：1荻地域・環境文化公園  
 ▶参加者(参加人数)：9名  
 ▶内容：水のサイボウズを体験し、水資源の大切さや、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。また、水のサイボウズを体験し、水資源の大切さを伝えるための活動を行いました。



Twitter  
 @npo170

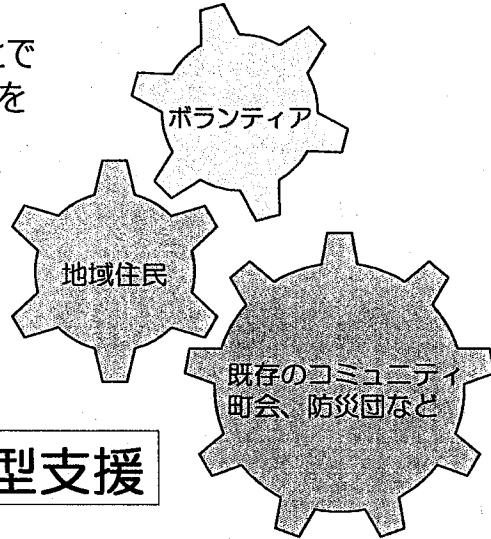
次回活動日は  
 11月20日(日)  
 11:30~13:00です

## 都市防災に必要な、もう一つのあるべき姿

# 弱い紐帯の強さ

## 翌年度以降の継続的な団体運営に向けて

問題解決型から伴走型へ変化することで  
その過程で地域からの寄付や補助などを  
利用し予算の圧縮を実現する  
最終的には、地域コミュニティが  
独自に展開していく姿が望ましい



**地域が主体となる伴走型支援**

## 今後の展望と展開

【レッツボウサイプロジェクトへの参加】

↓ 事業の効果分析

- 事業の内容改善
- 参加者の防災意識・防災知識の向上

↓ PDCAサイクル

- 地域で活躍する防災リーダーの育成
- 活躍の場の提供
- 防災コミュニティの構築

①防災意識尺度シートを活用し、参加者の防災意識変化を分析

防災意識尺度	ver20180115D	まったく あてはまらない	あてはまる 程度
以下の文章はあなた自身の考えにどのくらい当てはまりますか？ 右の選択肢から最も近いものを選んで数字に○をつけてください			
1 災害発生時に人々がどのような行動を取るか具体的なイメージがある	1	2	
2 自分の役割に思い入れはあまりない	1	2	
3 災害発生時に必要な物資の具体的なイメージがある	1	2	
4 他になんかやるべきことがある	1	2	

出典：防災科学技術研究所

②レッツボウサイプロジェクトの内容について独自のアンケートを作成する

- 地域住民にとって効果的なプロジェクトの継続
  - 他の地域への水平展開
  - 弱い紐帯の強さを実践する
- “レッツボウサイプロジェクト”への参加が  
防災コミュニティの実現につながる





事業計画書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会</p>
<p>事業名</p>	<p>「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p><b>ア 事業目的</b>                  新宿区は在住外国人及び在勤・通学する在住外国人が他区と比較しても多い。日本人も海外ルーツの住民も共に新宿区民であるという意識の醸成が今後更に必要となってくる。本事業の目的は主に日本人の区民を対象とした連続講座を通じて、在住外国人と日本社会の状況や自分が住む地域コミュニティの中の外国人の状況について理解を深めること、及び在住外国人と共に暮らすことを我が事として捉えるような意識の変容や、在住外国人と主体的に関わるといった実践につなげていくことである。</p>
	<p><b>イ 事業概要</b>                  本事業の講座では、在住外国人の状況や多文化共生の概要から草の根の活動までを4回の講座で取り上げ、本テーマへの理解と当事者意識が芽生えるような内容となるように工夫する。各回のテーマは以下を計画している。                  第1回：日本の在住外国人、多文化共生の概要                  第2回：新宿区の多文化共生活動の状況                  第3回：新宿で外国人と関わる取り組み事例から学ぶ                  第4回：新宿で暮らす外国人とのお話会                  また、本助成事業外の活動となるが、当会は新宿区内で在住外国人と日本人が出会いつながるコミュニティスペース運営を計画している。受講後に受講者が実際に在住外国人とつながる場に参加できるようにファシリテーションしていく。</p>

<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p><b>在住外国人と新宿</b></p> <p>日本国内の在住外国人は約 296 万人（「在留外国人統計」法務省 2022 年 6 月）と増加傾向にある。この背景には技能実習、留学生、労働者として多様な在留資格を持った外国人が増加したことによる。</p> <p>新宿区は居住者だけでも直近の統計数字において外国人の人口比率が約 11%と高い（2023 年 4 月 1 日現在 全人口 346,313 人に対して 39,829 人〔住民基本台帳人口 外国人住民国籍別男女別人口〕新宿区）。加えて、日本語学校、専門学校等の留学生を受け入れる教育機関が多く存在することや、多国籍のんびとが集う大久保エリアを有するなど、在住外国人が集中する要素を複数備えた地域である。</p> <p><b>地域社会と在住外国人</b></p> <p>新宿区多文化共生まちづくり会議では新宿区内の在住外国人の流動性の高さを指摘している（2020 年度、在住外国人転入者 11,702 人、転出者 15,567 人、「新宿区多文化共生まちづくり会議 審議結果報告書」新宿区 2022 年 8 月）。他方で、在住外国人で特に過去 10-20 年以内に来日した比較的新しい世代は単身の労働者または留学生として来日後、在日年数が長期化する傾向にあり、それに伴い家族が帯同するケースが増加している。新宿区はこの傾向が顕著で区内の小中学校に外国ルーツの子どもが増加するなど、家族として中長期的に新宿区内で生活圏を形成する在住外国人が増加している。新宿区は在住外国人の流動性の高さがありつつも、定着する動きがあり、これらのんびとを地域社会の構成員として共生するコミュニティづくりが必要ではあるが、以下に示す課題から、深刻なケースでは地域内での孤立や近隣トラブル等身近な課題に発展している状況もある。</p> <p>①日本人と在住外国人のつながる場・機会の不足</p> <p>当会が 2022 年度に開催した区民を対象とした在住外国人との交流会参加者アンケートにおいても、「外国人と関わりがない」「外国人と関わりたくとも、きっかけがない」と回答した人が参加者の約 7 割にのぼった。在住外国人との共生に比較的兴趣関心が高い層であっても入り口の少なさを感じていると言える。情報のインプットと実践の場の提供が連続してあることが課題解決の一助と考える。</p> <p>②情報へのアクセスが不十分であること</p> <p>在住外国人は言語や文化等の違いから行政から発出される生活情報や地域社会の情報にアクセスまたは理解する際に困難を抱えているケースが散見される。この課題は東京都の国際化を議論する「国際化市民フォーラム inTOKYO2021」においても議題テーマとして取り上げられている。これには、情報の翻訳という言語的な解決のみならず、在住外国人個別の背景への理解を踏まえつつ、顔の見える関係の中で対話的コミュニケーション（例：ゆっくりと、何度も、いろいろな言い回しで）も並行して用いることが効果的という例もあり、そのようなコミュニケーションを取れる地域のキーパーソンの育成や、関係性の構築が求められている。</p>
	<p>I. イベント（会議）名</p> <p>：「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 第1回私のとなりの外国人～日本の在住外国人について知ろう</p> <p>ア イベント（会議）の開催予定等</p>

<p>③ 活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p>活動内容：在住外国人関連の取り組みをしている専門家を招き、日本のこれまでの外国人受入れの変遷を振り返り、現在の状況やトレンド等、また、専門家の方が具体的に取り組んでいる事例を通じて理解を深める講座を開催する。</p> <p>講師例 ※現在交渉中： 新居みどり氏/NPO 法人 CINGA (NPO 法人 国際活動市民中心) 吉富志津代氏/武庫川女子大学教授、NPO 法人多言語センターFACIL 理事長</p> <p>実施期間：R5年7月 実施回数：( 1 ) 回/月・ 実施場所：会場 (早稲田奉仕園リパティホール)</p>
	<p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者：地域課題に関心がある人、多文化共生に興味のある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたいという区民 (在住・在勤・在学)</p> <p>参加予定人数： のべ ( 20 ) 名</p>
	<p>ウ 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;  <input checked="" type="checkbox"/>ポスター    <input checked="" type="checkbox"/>チラシ    <input checked="" type="checkbox"/>HP    <input checked="" type="checkbox"/>その他 (SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;  <input checked="" type="checkbox"/>区施設 (特別出張所、地域センター等)    <input checked="" type="checkbox"/>区直営掲示板  <input checked="" type="checkbox"/>その他 (自治会、社会福祉協議会、地域住民の集まるような地域の会議)</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 1 ) 名          アルバイト ( ) 名                      ボランティア ( ) 名</p>
	<p>II. イベント (会議) 名</p> <p>：「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 第2回多様な人びとが行きかう町新宿～新宿の在住外国人について知ろう</p>
	<p>ア イベント (会議) の開催予定等</p> <p>活動内容：新宿区の多文化共生の状況、居住・在勤する外国人の状況について学びを深める学びを深める内容の講座を開催する。講師には新宿区にて多文化共生に関われている方、取材されている専門家の方を迎えてお話しいただく。</p> <p>講師例※現在交渉中： 新宿多文化共生プラザ関係者の方、 室橋裕和氏/新大久保在住。多文化共生について取材するライター。</p> <p>実施期間：R5年9月 実施回数：( 1 ) 回/月・ 実施場所：会場 (早稲田奉仕園リパティホール)</p>
	<p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者：地域課題に関心がある人、多文化共生に興味のある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたいという区民 (在住・在勤・在学)</p> <p>参加予定人数： のべ ( 20 ) 名</p>
	<p>ウ 周知</p>

	<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ポスター    <input checked="" type="checkbox"/>チラシ    <input checked="" type="checkbox"/>HP    <input checked="" type="checkbox"/>その他(SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>区施設(特別出張所、地域センター等)    <input checked="" type="checkbox"/>区直営掲示板</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他(自治会、社会福祉協議会、地域住民の集まるような地域の会議)</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 1 ) 名</p> <p>アルバイト (     ) 名                      ボランティア (     ) 名</p>
<p>③ 活動内容</p> <p>(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p>Ⅲ. イベント(会議)名</p> <p>:「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 第3回地域に住む外国人と一緒にできることを考える</p>
	<p>ア イベント(会議)の開催予定等</p> <p>活動内容:講師には実際に新宿区内で多様な人びとを巻き込みながら地域活動をする人々をゲストスピーカーに招き、活動を学ぶ。その上で講座参加者自身が行いやすいような活動をワークショップ形式で考える場を作る。</p> <p>講師例※現在交渉中:</p> <p>サッカークラブチームクリアソン新宿関係者の方 (国際カップの活動についてお話しいただくことを想定)</p> <p>キムチドリアンカルダモン新大久保関係者の方 (子ども食堂の活動についてお話しいただくことを想定)</p> <p>実施期間:R5年11月</p> <p>実施回数:( 1 )回/月・</p> <p>実施場所:会場(早稲田奉仕園リバティホール)</p>
	<p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者:地域課題に関心がある人、多文化共生に興味のある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたいという区民(在住・在勤・在学)</p> <p>参加予定人数: のべ( 20 )名</p>
	<p>ウ 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ポスター    <input checked="" type="checkbox"/>チラシ    <input checked="" type="checkbox"/>HP    <input checked="" type="checkbox"/>その他(SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>区施設(特別出張所、地域センター等)    <input checked="" type="checkbox"/>区直営掲示板</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他(自治会、社会福祉協議会、地域住民の集まるような地域の会議)</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 2 ) 名</p> <p>アルバイト (     ) 名                      ボランティア (     ) 名</p>
	<p>Ⅳ. イベント(会議)名</p> <p>:「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 外国ルーツの方と交流し、多文化共生について考える</p>
	<p>ア イベント(会議)の開催予定等</p>
	<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ポスター    <input checked="" type="checkbox"/>チラシ    <input checked="" type="checkbox"/>HP    <input checked="" type="checkbox"/>その他(SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>区施設(特別出張所、地域センター等)    <input checked="" type="checkbox"/>区直営掲示板</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他(自治会、社会福祉協議会、地域住民の集まるような地域の会議)</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 2 ) 名</p> <p>アルバイト (     ) 名                      ボランティア (     ) 名</p>
	<p>Ⅳ. イベント(会議)名</p> <p>:「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座 外国ルーツの方と交流し、多文化共生について考える</p>
<p>ア イベント(会議)の開催予定等</p>	

	<p>活動内容：新宿区に居住、在勤、在学している外国ルーツの方と実施に交流しながら、多文化共生の学びを深めるワークショップを開催する。シャプラニールの活動でかかわりをもった在住外国人の人や日本語学校の学生をスピーカーに迎えて、母国の文化紹介、日本で生活状況についてお話しいただく。交流の中では食紹介として、スピーカーの出身国の料理を軽食として提供する。また、スピーカーの方との交流の時間、これから多文化共生のために何ができるか考える時間も設ける。</p> <p>実施期間：R6年2月</p> <p>実施回数：( 1 ) 回/月・</p> <p>実施場所：会場（キムチドリアンカルダモン新大久保 ※新大久保駅近くのコワーキングスペース）</p>
イ 対象者及び参加予定人数	
<p>対象者：地域課題に関心がある人、多文化共生に興味のある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたいという区民（在住・在勤・在学）</p> <p>参加予定人数： のべ ( 20 ) 名</p>	
ウ 周知	
<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ポスター    <input checked="" type="checkbox"/>チラシ    <input checked="" type="checkbox"/>HP    <input checked="" type="checkbox"/>その他(SNS)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>区施設（特別出張所、地域センター等）    <input checked="" type="checkbox"/>区直営掲示板</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他（自治会、社会福祉協議会、地域住民の集まるような地域の会議）</p>	
エ スタッフ等人数（のべ人数を記載）	
<p>団体構成員 ( 4 ) 名                      講師等 ( 3 ) 名</p> <p>アルバイト (     ) 名                      ボランティア (     ) 名</p>	

災害時にすぐに避難できるようイベント会場では避難経路を確認し、スタッフも誘導できるよう事前に打ち合わせを行う。また、イベント開始時に避難経路を参加者に説明する。

④ 安全対策等  
(箇条書きで  
ご記入ください)

イ 新型コロナウイルス感染症対策

- ・事業内での新型コロナウイルス感染リスクを避けるため、マスク着用、消毒の実施、定期的な換気等の感染対策を徹底して事業を実施する。万が一、事業内にて感染者が確認された場合には、当会内の「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に沿って対応する。
- ・政府の新型コロナウイルス感染拡大措置（緊急事態宣言、蔓延防止措置）の影響により、イベントの開催が制限される場合には、オンラインに切り替える等の代替方法にて実施する。

⑤ 期待される効果

ア 区民や地域社会への成果・効果

事業を通して講座受講者が、地域課題、多文化共生、地域に住む外国人の状況について理解を深め、実際に動き出せるような具体的な行動をイメージできるようになる。これにより、地域内で外国人と広く地域住民をつなげる役割を担う人材育成の一助となる。また、新宿区内の多文化共生活動や当会が2023年度活動を計画している多文化共生コミュニティスペース運営のボランティアへの参加にもつなげる。

イ 現状や課題に対する成果・効果

これまで外国人と関わりたくとも関われないという人々が、外国人と関わりを持てるようになる。そうすることで、困りごとや課題を抱えながらも、相談先が限られている在住外国人が、同じ地域に住む住民の助けにより、必要な情報やサービスにアクセスできるようになり、抱えている課題が深刻化する前に解決される。さらには、外国人と地域住民との間での交流が生まれ、両者間の地域のトラブルも軽減される。

⑥ 先駆性・専門性

当会はこれまで50年間、国際協力NGOとして、バングラデシュ、ネパールにて、貧困等により課題を抱える当事者だけでなくその周辺の人びとを巻き込みながら、マルチステークホルダーのアプローチで課題解決に取り組んできた。本事業においてもその経験を活かし、区民と共に在住外国人との共生したコミュニティづくりに取り組むことができると考えている。また、2021年より新宿区にて日本に住む外国人を支援する活動に取り組み、地域の町内会や社会福祉協議会、新宿区に在住・在勤・在学する外国人と関わりを持つことができた。活動の中で聞かれた声や気づきを本事業に取り入れることで、より効果的な課題解決に取り組むことができると考えている。

7 今後の展望

当会は新宿区内にコミュニティスペースを運営していく予定である。本事業での意識変容などがあつた受講者や同様の興味関心を持つ区民が気軽に在住外国人と関わった情報提供できるようなハブを目指して運営する。

--	--

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度 (          )          事業名 (                          )
	助成年度 (          )          事業名 (                          )
	助成年度 (          )          事業名 (                          )
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	□ 有          ☒ 無
	<p>有の場合は、助成名称(団体)及び助成額</p> <p>助成名(団体名):</p> <p>助成額:                                  円</p> <p>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</p>

収支予算書

費目		予算額	内訳
事業費	①使用料及び賃借料	235,200 円	早稲田奉仕園リパティホール利用料8600円×4時間×3回=103200、 キムチドリアンカルダモン利用料33000円×4時間=132000
	②消耗品及び印刷費	47,250 円	チラシ印刷費6000円×4回=24000、 第4回イベント参加者提供軽食費(予備含) 600円×25名分=15000円、 第4回イベント参加者提供お茶200円×10本=2000円、 コピー用紙(A4,500枚) 450円×10セット=4500円 養生テープ300円×4個=1200円、 油性ペン110円×5本=550円
	③委託費	円	
	④講師謝礼	150,000 円	第1回～第3回講師謝礼30000円×4名=120000円 第4回講師謝礼10000円×3名=30000円
	⑤その他謝礼	円	
	⑥交通費	68,000 円	講師交通費① 31000円×1名分=31000円 講師交通費②5000円×1名分=5000円 ※講師候補の内東京都以外の遠方に住む方の交通費を計上、 打合せ交通費1000円×4×8回分=32000円
	⑦保険料	7,000 円	郵便代350円×5か所×4回=7000円
	⑧その他諸経費	円	
	⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	4,800 円	※上限額2万円以内 (20,000) 手指消毒代600円×8本=4800円
	⑩人件費	170,750 円	※下記「事業費」の25%以内 (170,750) 団体職員①分月額2022円×7時間×20日=283080円 団体職員②分月額2977円×7時間×12日=250068円 533148円の内362398円は助成対象外経費として計上
事業費(①から⑩の合計)		683,000 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費		0 円	※事業費の5%以内 (34,150)
⑫助成対象経費(事業費+⑪)		683,000 円	
⑬助成対象外経費		362,398 円	人件費362398円(助成対象外分)
事業総額		1,045,398 円	

内容		予算額	積算根拠(内訳)
収入区分	㉗ 事業収入(参加料、資料代等)	40,000 円	参加費500円×20名×4回=40000円
	① 寄附金	円	
	㉘ 補助金等収入	円	
	㉙ 協働推進基金助成金	456,000 円	「①～⑥、⑩～⑫の合計」の2/3と「㉘」の合計 ※千円未満切り捨て
	㉚ 団体負担金	549,398 円	
	収入総額		1,045,398 円



団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじん シャプラニール=市民によるかがいきょうりよくのかい 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) さかぐち かずたか 坂口 和隆	
	連絡者氏名 [Redacted]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 1972年 9月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 ( 年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人、団体：1,308名	入会条件 年会費の納入
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿区 その他 (バングラデシュ、 ネパール)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) <input checked="" type="checkbox"/> (年 4 回発行) / 無 ----- (ホームページ) <input checked="" type="checkbox"/> (URL <a href="https://www.shaplaneer.org/">https://www.shaplaneer.org/</a> ) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	市民の自発的参加と責任に基づき、南北問題に象徴される現代社会の様々な問題の解決のために必要な海外協力等の諸活動を行い、すべての人が持つ豊かな可能性が開花する社会の実現をめざす。	

<p>主 な 活 動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在住外国人を対象としたフードパントリー、生活相談対応等の生活支援を行っている。生活困窮状態の在住外国人に食料支援を行うとともに、支援を必要としながらも情報にアクセスができない、または相談相手がいない在住外国人に適切な情報の提供や相談先を紹介することができた。</li> <li>・日本人とのかかわりがないという在住外国人がつながりをもてるよう、また、同じ地域に住む住民が在住外国人について理解を深め交流するきっかけをつくれるよう、両者の相互理解への気づきを促すこと目的とした交流会を開催している。</li> </ul> <p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田・高田馬場エリアの地域通貨「アトム通貨」の活動に参加している。当会で販売しているクラフトリンクの購入時にアトム通貨を使用できるだけでなく、当会でボランティアをした方にアトム通貨をお渡ししている。</li> </ul>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名</li> <li>・連携事例</li> <li>・連携した内容の詳細</li> </ul>

令和5年度協働推進基金助成金一般事業助成2次評価

「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座

2023年5月30日

特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会

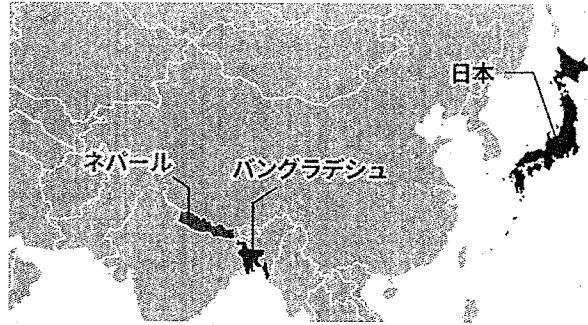
© SHAPLANEER All Rights Reserved

## 1. 申請団体概要

© SHAPLANEER All Rights Reserved

## 特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会

- 創立               : 1972年  
                    : バングラデシュ独立直後に貧民層に対する支援から始動したNGO
- 事務所所在地: 東京都新宿区西早稲田
- 活動地域       : バングラデシュ、ネパール、日本



© SHAPLANEER All Rights Reserved

## 取り組んでいる支援活動について

今を支え

子どもの  
明日を  
守る活動

子ども



災害に強い  
地域を  
つくる活動

防災



社会からの  
孤立を  
防ぐ活動

在住外国人



市民同士の  
つながりを  
促す活動

フェアトレード、  
不要品寄付



© SHAPLANEER All Rights Reserved

4

## これまで実施してきた申請事業関連活動



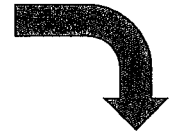
オンラインイベントでの生活情報発信



食材配布・生活相談会の実施



在住外国人と地域住民との交流会の実施



地域の町内会や  
社会福祉協議会、  
新宿区に在住・在  
勤・在学する外国  
人との関係構築

© SHAPLANEER All Rights Reserved

5

## シャプラニールの目指すもの

すべての人が持つ豊かな可能性が開花する社会へ

当事者と同じ目線に立ち、  
問題を取り巻く全ての人々へ働きかける

共感とともに  
解決を探る



取り残された人々



周囲の人々

対話を重ね  
意識を変える

法・制度を  
機能させる



地域・社会全体

・権利を取り戻し  
・本来持っていた  
豊かな可能性が開花



© SHAPLANEER All Rights Reserved

## 2. 事業の背景

© SHAPLANEER All Rights Reserved

### 在住外国人と新宿

---

- 日本の在住外国人約296万人と増加傾向  
技能実習、留学生、労働者の在留資格者が増加
- 新宿区居住者の外国人人口比率 約11%と高い  
⇔東京都区部外国人比率4.9%
- 新宿区は在住外国人が集中する要素を複数備えた地域  
留学生を受け入れる日本語学校、専門学校が多い  
多国籍の人々が集う大久保エリアを有する

© SHAPLANEER All Rights Reserved

8

## 地域社会と在住外国人

- 新宿区の在住外国人は流動性が高い  
2020年度、在住外国人転入者11,702人、転出者15,567人
- 他方、在住外国人が定着する動きもある  
単身の労働者/留学生が長期滞在し家族帯同が増加

例) 新宿区内の小中学校に外国ルーツの子どもが増加  
中長期的に新宿区内で生活する在住外国人家族が増加

外国人も

地域社会の構成員として共生するコミュニティづくりが必要

© SHAPLANEER All Rights Reserved

9

## 地域社会と在住外国人

しかし・・・

- 課題1 日本人と在住外国人のつながる場・機会の不足
- 課題2 在住外国人の情報へのアクセスが不十分



在住外国人の地域内での孤立や  
近隣トラブル等身近な課題に発展している

【課題解決策として】

在住外国人に関する情報と関わる実践の場の提供

在住外国人とコミュニケーションをとれるキーパーソンの育成

© SHAPLANEER All Rights Reserved

10

### 3. 申請事業概要

© SHAPLANEER All Rights Reserved

11

#### 申請事業概要

---

**事業名：** 「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座

**事業目的：** 在住外国人と日本社会の状況や自分が住む地域コミュニティの中の外国人の状況について理解を深める。在住外国人と共に暮らすことを我が事として捉えるような意識の変容や、在住外国人と主体的に関わるといった実践につなげる。

**対象者：** 地域課題に関心がある人、多文化共生に興味のある人  
同じ地域に住む外国人の状況について知りたいという区民

**事業費：** 約104万円（内本助成金申請額：約45万円）

© SHAPLANEER All Rights Reserved

12



## 活動内容

- 在住外国人の状況や多文化共生の概要から実際に実践されている草の根の活動までをとりあげる連続講座を開催。  
各講座のテーマは以下の通り。

第1回：日本の在住外国人、多文化共生の概要

第2回：新宿区の多文化共生活動の状況

第3回：新宿で外国人と関わる取り組み事例から学ぶ

第4回：新宿で暮らす外国人とのお話会

- 講師・スピーカー  
在住外国人関連の取り組みをしている専門家、区内で多文化共生に関わっている方、地域活動に取り組んでいる方、在住外国人の方。

© SHAPLANEER All Rights Reserved

13

## 期待される成果・効果

- 地域課題、多文化共生、地域に住む外国人について理解を深め、具体的な行動をイメージできるようになる。

⇒地域内で外国人と地域住民をつなげる役割を担う人材育成。  
多文化共生コミュニティスペースでのボランティア実施。

- 外国人と関わりたくとも関われないという人々が、外国人と関わりを持てるようになる。

⇒困りごとを抱える在住外国人の課題解決。  
外国人と地域住民との地域のトラブルが軽減。

© SHAPLANEER All Rights Reserved

14

## 4. 1次評価質問回答

© SHAPLANEER All Rights Reserved

15

### 質問回答

【質問】「2022年度に開催した区民を対象とした在住外国人との交流会」の参加実績について教えてください。また、交流会参加者のアンケートを引用していますが、アンケートの回答数及び参加者の属性等についても教えてください。



#### 【回答】

- 2022年度に実施した在住外国人との交流会は2回開催し、合計19名の参加者が交流会に参加しました。
- その内、アンケートの回答者数は合計18名となり、参加者の属性としては以下の通りです。  
区内在勤者5名、区内在住者8名、区外在住者3名、区外学生2名

© SHAPLANEER All Rights Reserved

16

事業計画書

<p>団体名</p>	<p>チーム・フランポネ</p>
<p>事業名</p>	<p>新宿国際交流漫才大会 S-1 グランプリ</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p>ア 事業目的</p>
	<p>新宿区で日本語を学ぶ外国人留学生との新宿区民が「お笑い」を通じた交流を促進させ、外国人に対する差別意識の軽減を目的としている。芸人の視点で「お笑い」x「新しい多文化共生」を提案する。そして吉本興業の東京本社が新宿区にあり新宿での課題解決を実践する。</p>
	<p>イ 事業概要</p>
<p>新宿区にある日本語学校7校にて「漫才で覚える日本語」という授業を実施する。最終的に参加者が2分の漫才を完成させ、3月に留学生による「新宿国際交流漫才大会 S-1 グランプリ」を開催する。同時に日本人と外国人がコンビを組んだ国際交流漫才も披露する。</p> <p>新宿区にある日本語学校 及び 日本語学校に連絡を取り参加者を募る。既に7校から参加表明があり、残りの3校は助成金の交付が確定次第、チラシを作成の上、公募する。同時に新宿区が実施している日本語教室にも必ず声を掛ける。</p>	

<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p><b>【33,611人】</b> この数字って何だと思いませんか？これは2022年2月1日に公表された新宿区に住む外国時の数です。新宿区の人口の11.1%が外国人であり人口の10%以上を外国人が占めています。</p> <p><b>【学校では？】</b> 小中学校では両親が外国人のため日本語ができない子供があふれ、心ない人から差別的な誹謗中傷が行われている。</p> <p><b>【外国人問題を「お笑い」で解決】</b> 吉本興業東京本部は新宿区にあり地域課題と社会課題の解決に取り組んでいる。新宿に本社を置く吉本興業に所属する芸人が新宿区で外国人による漫才大会を開催させ「お笑いx多文化共生」を実践する。</p> <p><b>【新宿区での実施実績】</b> 2019年から新宿区にある日本語学校にて「漫才で覚える日本語」が採用される。 実施実績：新宿日本語学校、ユニタス日本語学校、東進ランゲージスクール、カイ日本語学校、ユニタス日本語学校、ヒューマンアカデミーなど。</p> <p>生徒からのコメント：「面白くて楽しい」、「日本の漫才が分かった」、「簡単に漫才ができる」等のコメントあり</p> <p>先生からのコメント：「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の能力を使って漫才を作成するので日本語教育として効果がある。</p> <p>★ 添付：過去に発表された「漫才で覚える日本語」に対する学術論文を参照</p>
	<p><b>I. イベント（会議）名：（新宿国際交流漫才大会 S-1 グランプリ）</b></p> <p><b>ア イベント（会議）の開催予定等</b></p> <p>活動内容：8月から2月までに新宿区にある日本語学校もしくは日本語教室 計10校にて2回の漫才作成講座を20回実施する（10校x2回）</p> <p>実施期間：R5年8月～R6年2月          実施回数：(20)回/月・年          実施場所：オンライン・<b>会場</b>（新宿区にある日本語学校、日本語教室）</p> <p><b>イ 対象者及び参加予定人数</b></p> <p>対象者：新宿在学の留学生と一部日本人          参加予定人数：のべ(300)名</p> <p><b>ウ 周知</b></p>

<p>③ 活動内容</p> <p>(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> ポスター <input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> HP <input checked="" type="checkbox"/> その他(メールで連絡)</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 区施設(特別出張所、地域センター等) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input type="checkbox"/> その他( )</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p>
	<p>団体構成員 (5) 名 講師等 ( ) 名</p> <p>アルバイト ( ) 名 ボランティア ( ) 名</p>
	<p>II. イベント(会議)名: (新宿国際交流漫才大会 S-1 グランプリ)</p>
	<p>ア イベント(会議)の開催予定等</p> <p>活動内容: 外国人留学生による漫才大会</p> <p>実施期間: R6年2月24日 午後12時から16時までを予定</p> <p>実施回数: (1)回/月・<input checked="" type="checkbox"/>年</p> <p>実施場所: オンライン・会場(新世界語学院 大会議室)</p>
	<p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者: 外国人留学生</p> <p>参加予定人数: のべ(100)名</p>
	<p>ウ 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ポスター <input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> その他( )</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 区施設(特別出張所、地域センター等) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input type="checkbox"/> その他( )</p>
	<p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p>
	<p>団体構成員 (5) 名 講師等 ( ) 名</p> <p>アルバイト ( ) 名 ボランティア (5) 名</p>
	<p>④ 安全対策等</p> <p>(箇条書きで ご記入ください)</p>
	<p>イ 新型コロナウイルス感染症対策</p>

	<p>2023年5月8日以降に実施するので特別な感染症対策の必要はないが万が一、再びコロナが拡大した場合はコロナ禍で実施していた受付での検温と消毒を行う。万が一、37.5度以上の熱がある場合は事情を説明の上、欠席してもらう。</p>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p><b>ア 区民や地域社会への成果・効果</b></p>
	<p>「外国人＝面白い」というブランディングを行い、日本初の「お笑い x 多文化共生」を成功させ、このモデルケースを残りの22区にも普及させる。新宿区に在学・在勤の留学生による「お笑いフェス」なので一般の区民の方にも2月に開催される漫才大会を告知する。外国人が多い新宿区で外国人による「お笑いフェス」が季節的なイベント（年に1回）に昇華させ、新宿区の文化イベントになると新宿区における外国人の理解が得られる。</p>
	<p><b>イ 現状や課題に対する成果・効果</b></p>
<p>「外国人＝怖い」というイメージから「外国人＝面白い」に変える。日本人と外国人の間で「笑い」が生まれると心理的な壁がなくなり相互理解と国際交流を促進させる。</p>	
<p>⑥ 先駆性・専門性</p>	<p><b>【お笑いを通じた社会課題の解決】</b>          新宿に本社を置く吉本興業所属芸人による社会貢献活動であり、お笑いの専門である芸人が社会課題解決に挑む。過去に新宿区において国際交流漫才イベントの実施実績はなく、今回が新宿区では初の開催となる！</p> <p><b>【専門性】</b>          吉本興業所属芸人は「わ笑いの専門家」であり、その専門性を今回のイベントに落とし込んでいる。</p> <p><b>【先行事例】</b>          2021年 7月 山口県周南市にて日本人と外国人留学生がコンビを組んだ国際交流漫才イベントを実施</p> <p>2022年 10月 立命館大学 アジアウィークにて日本人と外国人留学生がコンビを組んだ「国際交流漫才」を実施</p> <p>2022年 10月 横浜市にて横浜市大と共同開催という形で横浜とSDGsをテーマにした「横浜SDGsグランプリ」を実施</p>

	<p>2022年 12月兵庫県姫路市にて地元の小中学生を対象にした「はりま漫才グランプリ」を実施</p> <p>2023年 12月 東京都豊島区にて豊島区に住む外国人、障害者、小中学生が参加する「豊島区D-1グランプリ」を実施することが確定、D-1のDはDiversity、このイベントに関して豊島区から助成金の交付が確定済み。</p>
⑦ 今後の展望	<p>新宿区で「新宿区国際交流漫才大会S-1グランプリ」を成功させ、今後は他の22区 及び 東京都全土 → 関東 → 全国 → 全世界で展開する。この活動により日本の漢字で書く「漫才」から世界のアルファベットで書く「MANZAI」に生まれ変わる。</p>

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度 ( ) 事業名 ( )
	助成年度 ( ) 事業名 ( )
	助成年度 ( ) 事業名 ( )
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<p>有の場合は、助成名称(団体)及び助成額</p> <p>助成名(団体名):</p> <p>助成額: 円</p> <p>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</p>

収支予算書

		費 目	予 算 額	内 訳
支 出 区 分	事 業 費	①使用料及び賃借料	100,000 円	新世界語学院の多目的ホール1日 (含む音響、照明)
		②消耗品及び印刷費	50,000 円	チラシデザイン料込、A4両面カラーチラシ印刷 1000枚
		③委託費	円	
		④講師謝礼	600,000 円	90分1回(3万円 芸人3名参加)の「漫才作成講座」を20回、20回×3万円
		⑤その他謝礼	50,000 円	漫才大会時のMC 及び 審査委員としての稼働費用 (芸人3名稼働)
		⑥交通費	円	
		⑦保険料	円	
		⑧その他諸経費	円	
		⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	円	※上限額2万円以内 (20,000)
		⑩人件費	円	※下記「事業費」の25%以内 (266,666)
事業費 (①から⑩の合計)		800,000 円		
⑪ファンドレイジングに関する経費		円	※事業費の5%以内 (40,000)	
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)		800,000 円		
⑬助成対象外経費		円		
事業総額		800,000 円		

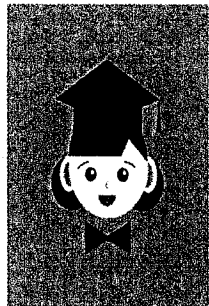
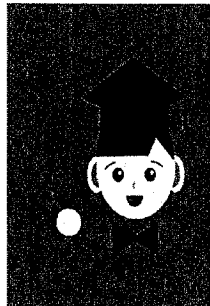
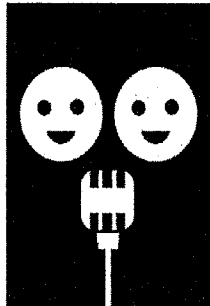
		内 容	予 算 額	積算根拠(内訳)
収 入 区 分		㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	0 円	
		① 寄附金	0 円	
		㊧ 補助金等収入	0 円	
		㊨ 協働推進基金助成金	500,000 円	「①～③、⑩～⑫の合計」の2/3と「㊧」の合計 ※千円未満切り捨て
		㊩ 団体負担金	300,000 円	
		収入総額	800,000 円	



団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) チーム・フランポネ	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) まぬーしまおか マヌー島岡	
	連絡者氏名 [Redacted] [Redacted] [Redacted] [Redacted]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 年 月 その他の場合 2022年10月活動開始 活動歴 年6か月(2023年4月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人:5名 団体:	入会条件 「お笑いを通じた社会課題の解決」に賛同している。
主 な 活 動 地 域	東京都 区・市 その他 ( )	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / 無	
	(ホームページ) 有 (URL <a href="https://profile.yoshimoto.co.jp/talent/detail?id=9220">https://profile.yoshimoto.co.jp/talent/detail?id=9220</a> ) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	添付参照	

<p>主 な 活 動</p> <p>(具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <p>既に新宿区にある KAI 日本語学校、ISI、ユニタス外語学院などで「漫才で覚える日本語」を実施しており新宿区にある桜美林大学では日本人学生を対象にした「漫才で覚える英語」を実施している。</p> <hr/> <p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年 07月 山口県周南市にて「国際交流漫才大会」実施</li> <li>・2022年 10月 神奈川県横浜市にて「横浜 SDGs 漫才大会」実施</li> <li>・2022年 12月 兵庫県姫路市「はりま漫才グランプリ」実施</li> </ul> <p>その他</p> <p>2022年 11月 丸和ソーシャルビジネス賞受賞</p> <p>2023年 02月 関西 SDGs ユースアクションにて「準グランプリ」受賞</p>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携事例 特になし</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携した内容の詳細 特になし</li> </ul>



僕らは「笑い」で世界を変える

吉本興業所属芸人の挑戦

新宿国際交流漫才大会

S-1グランプリ 企画書

## ■ # フランポネ



- ・ 吉本興業所属の国際夫婦漫才コンビであり日本で唯一フランス語で漫才ができるコンビ、日本の「笑い」を世界へ！
- ・ マヌーは元・商社マンであり、ベルギーの大学院卒、5ヶ国語（英・仏・西・伊・蘭）が堪能、「お笑いの力」で世界を変えます！
- ・ シラちゃん（ジュネーブ出身） 母国語はフランス語！

吉本興業東京本部（新宿区）所属

## ■ 藤田ゆみ（吉本興業所属）



- ・ NSC東京24期生 吉本興業所属のピン芸人
- ・ 2007年3月 日本デザイン福祉専門学校グラフィックデザイン専攻 卒業
- ・ 芸人と兼業でフリーのデザイナーとして活動。大学・大手人材派遣会社・伝統芸能（落語・音楽）のチラシやポスターを制作
- ・ 2020年よりスペイン語の勉強を開始。2021年、日本在住のメキシコ人留学生とスペイン語漫才でM-1グランプリ予選大会に出場
- ・ 2021年より全国の専門学校で「漫才講座」の外部講師を務める
- ・ 2022年 大学の文化祭のトークショーや漫才大会、国際交流イベント等の司会を務める。司会業も行っている
- ・ 豊島区国際SDGsアートカルチャー特命大使に就任  
豊島区の地域創生事業に携わる

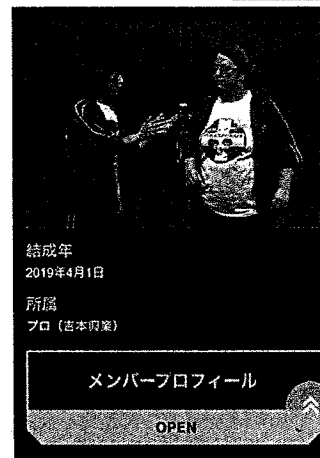
## 主な活動内容

- ・ 「漫才で覚える日本語」  
➔ 日本に住む外国人向けのプログラム
- ・ 「漫才で覚える英語、仏語、西語」  
➔ 日本人の小中高生向けのプログラム
- ・ 「障害者との漫才交流」  
➔ 障害者向けのプログラム
- ・ 「漫才で覚えるSDGs」  
➔ 小・中・高・大学生向けのプログラム



フランボネ  
(フランボネ)

出場履歴・結果



結成年  
2019年4月1日

所属  
プロ (吉本興業)

メンバープロフィール

OPEN

## 新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリとは？

こんなことをやります！

- ・新宿区民プロデュースによる「国際漫才フェス」
- ・新宿区にある日本語学校 / 日本語教室に通う外国人留学生による日本語漫才の披露
- ・新宿区在学、在勤の日本人と外国人留学生がコンビを組んだ国際交流漫才の披露

★人口の10%が外国人という新宿区で日本人と外国人を「お笑い」で繋げる「超国際派お笑いイベント！」

★外国人差別を軽減、吉本興業は新宿に本社を構えており新宿区にて「お笑い×多文化共生」を提案します。

## なぜ新宿？ そして課題！

【33,611人、これ知ってますか？】

2022年 新宿区に住んでいる外国人の数であり、人口の10%以上が外国人です。

【日常生活では？】

新宿区にある小中学校に行くと両親が外国人のため日本語ができない子供たちがたくさんいます。そんな子供たちは日本語教室に通っています。

【外人？害人？】

外国人の増加に伴い新宿区では治安の悪化が指摘され、一部の人が外国人を歓迎しない声が上がっています。一方、新大久保は新しいコリアタウンとして生まれ変わりました。新宿区に住む外国人と「お笑いコンテンツ」を作り、新しい新宿区のブランディングを提案します！

★そして吉本興業の本社は新宿区にあります！

## 実施方法

### 【漫才作成講座】

日本語学校にて2回「漫才作成講座」を実施する！

1回目：即興漫才作成講座 90分

2回目：詳しい漫才作成講座 90分

### 【実績】

2019年から日本語学校にて「漫才で覚える日本語」という授業を実施しており2回の「漫才作成講座」を実施することで参加者全員が2分の漫才を作成することができる。

同時に新宿区にある大学、高校、中学、小学校にも連絡を取り日本人と外国人がコンビを組んだ「国際交流漫才」も実施する。



## スケジュール

06-07月 関係者各位と打ち合わせを行いスケジュールを確定

08月 チラシを作成、参加者の公募

09月 漫才作成講座の実施 4-5回

10月 漫才作成講座の実施 4-5回

11月 漫才作成講座の実施 4-5回

12月 漫才作成講座の実施 4-5回

01月 漫才作成講座の実施 4-5回

02月 新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ (2月下旬)

➔ 2023年4月より関係者各位と既に打ち合わせを行っている！

## 参加表明校

2023年4月現在、以下の学校が参加を表明

- ・ 早稲田EDU日本語学校、MCAミツミネ日本語学校、早稲田京福日本語学校、KAI日本語スクール、ISI、ユニタス日本語学校、新世界語学院、新宿日本語学校など 約300名程度の留学生が参加！
- ・ 新宿区（特に高田馬場と新大久保）にある日本語学校で定期的に「漫才で覚える日本語」を実施しており10校以上は確実に参加！
- ★ 助成金の交付が決まり次第、チラシを作成、新宿区にあるすべての日本語学校と日本語教室に声を掛け新宿区全域で公募を実施します。
- ★ 同時に新宿区にある大学、高校、中学、小学校にも連絡を取り日本人と外国人がコンビを組む「国際交流漫才」も実施！

## コロナ禍での日本語学校

2020年3月より「令和の鎖国」が始まる！

日本語学校は外国人留学生の授業料で運営されており2020年3月から2022年10月まで入学者の数が0という学校もあり、現在も日本語学校の経営状態は厳しい。

よって現在の日本語学校には特別な講師料を支払う余裕がなく、漫才作成講座の講師料は本助成金を使い、この企画により疲弊した日本語学校に笑顔に！



## メリット

新宿に住むすべての人々が参加する漫才大会「S-1グランプリ」

### 【低予算！】

吉本興業所属芸人による漫才作成講座を実施する場合、低予算

### 【すぐにできます！】

漫才の場合、特別な道具や場所は必要ないので低予算の上、簡単にどこでもいつでもできます！

### 【おもしろい！】

漫才を作るので面白い！面白いと注目を集める。注目が集まれば人が集まり、人が集まるとお金も集まる。お金が集まるとビジネスとなり漫才大会で得た利潤を必要な人に還元できる。

## 経済効果

将来的には新宿に住むすべての人々が参加する

新宿に住む高齢者、外国人、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人が参加する漫才大会を実施する。

この漫才大会を地元のメディアに取り上げてもらい優勝者には新宿区長賞として10万円程度の賞金を検討する。

普通の漫才ではなく新宿の名産品や観光地をテーマにした漫才を作成することで「町おこし」となる。新宿で「お笑いx町おこし」を成功させ日本全国に波及させる。

➔ 第1回を成功させ将来は新宿にあるルミネTheよしもとで実施！





## 質問に対する回答

① 「心ない人から差別的な誹謗中傷が行われている。」とありますが、その根拠は何でしょうか。

➔ 2012年頃、新宿区立大久保小学校に在学していたN.Iさん（仮名）からの話ですがベトナムにルーツを持つ方に対して「ベトコン」と言う、韓国系にルーツを持つ子どもに対して罵詈雑言があったとのこと。他にも新宿区の小中学校で同様の事例あり。

② 豊島区では対象が「外国人、障害者、小中学生」となっていますが、新宿区では障害者や小中学生等の子どもは含まれないのでしょうか。

➔ 豊島区の場合、準備期間が1年半であり総額の予算が65万円であり、豊島区区役所を通じて豊島区社会福祉協議会を紹介して頂いたのが可能となりました。準備期間を考えると今から新宿で同様のイベントを実施する場合、現実的に難しいと思いますが区役所が紹介して頂けるのであれば実施します。



## 「漫才で覚える日本語」とは

---



「漫才」を作りながら日本語を勉強するアクティブラーニングです  
現在はZOOM版も実施

## 開発経緯

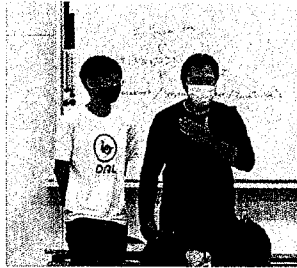
---



スイス人のシラちゃんは2012年、結婚を機に来日。日本語学校に通うが  
「文法」中心の授業に限界を感じる  
その後、NSCに入学。NSCでは台本なしの「喋る訓練」を経験  
その実体験を日本語教育に導入！

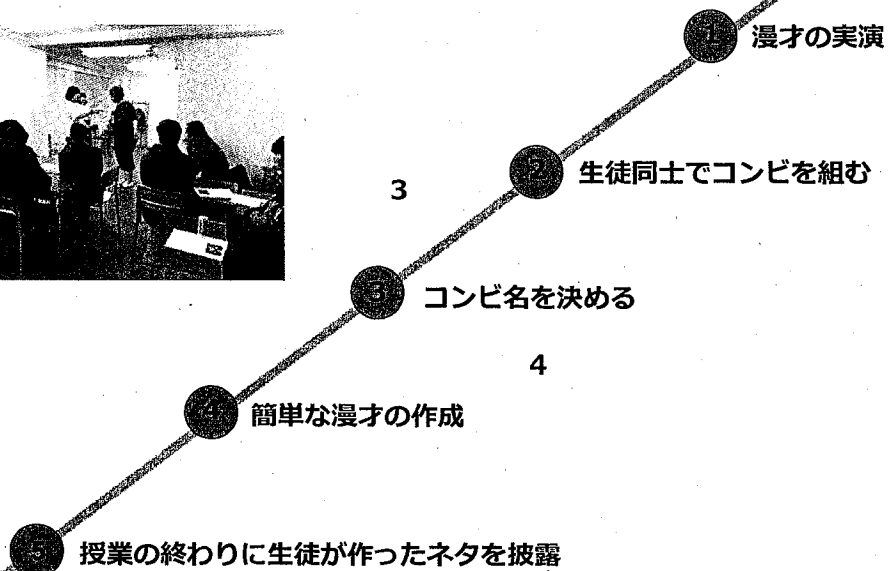
注：NSCとは吉本興業が運営する芸人養成所

## 背景



日本に住んでいる外国人の数は282万人（2021年）と言われている。今後はさらに増えると考えられる。一部の地方自治体では人口の10%以上が外国人という地域も出てきた。しかし日本に住む外国人は日本語ができない人もいる。親が外国人のため小学校や中学校に行っても日本語ができない子供達がいる。外国人の日本語教育は社会問題！

## どんな授業ですか？



## 漫才とは？

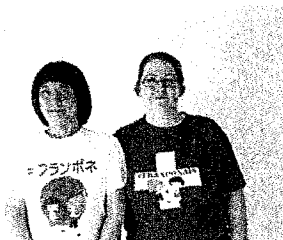


ボケ：「トボケル」から由来、面白いことを言う人

ツッコミ：説明したりストーリーを展開したりする人

- ・基本的にコンビ（2人組）でやるが現在は「四千頭身」さんや「3時のヒロイン」さんのようにトリオ漫才も人気
- ・伝統的に関西では「しゃべくり漫才」、関東では現在「キャラクター漫才」全盛期（例 EXITさん・ペコパさん）。関東と関西では芸風が異なる！

## コンビを組みコンビ名を決める



バンド名と同じようなもの、ネーミングには決まりはないが…

覚えやすい名前、インパクトのある名前、変な名前、面白い名前の方が良い！

例えば：

- ・好きな食べ物 と 嫌いな食べ物を組み合わせる スシアンコ
- ・おじいちゃん と おばあちゃん の名前を組み合わせる ヨネとタロウ
- ・面白い響きの言葉 アヘアヘ、ペロペロ、カリカリ、ウンポコなど
- ・パロディ風の名前 ENTRANCE、ザ・コックローチズなど
- ・危ない名前 やくみつゆ、モルヒネドラゴン、しゃぶしゃぶ中毒など

## コンビを組んだらあいさつ

2人1組でコンビを組んだらコンビ名を決める

コンビ名が決まったら「飛び出し（挨拶）」ができる

ボケ・ツッコミ：「どうも～」

ボケ：「xxx人のxxxです」

ツッコミ：「xxx人のxxxxです」

ボケ：「コンビ名は？」

ボケ・ツッコミ「xxxxです」  
「宜しくお願いします」



## ネタを作る準備

過去に間違えた日本語を使う

例：

- ・ 囚人と主人を言い間違える
- ・ 「はな」を「あな」と言う
- ・ 「掃く」と「吐く」を聞き間違える
- ・ メキシコ人 を メキツコ人と書く

→こんなネタができます：

<https://www.youtube.com/watch?v=ShFwY58rxNk>



フランボネ  
(フランボネ)

出場情報・結果



## ネタを作る

---

ツッコミ：「ねえ～、お昼カレー食べに行かない？」

ボケ：「私ベジタリアンだから安いカレーにする」

ツッコミ：「それ 安いカレーじゃなくて野菜カレーでしょ」



解説：「ねえ～ お昼カレー食べに行かない？」が「フリ」となり「野菜」を「安い」と言い間違る箇所が「ボケ」

それに対して「それ 安いカレーじゃなくて野菜カレーでしょ」という説明ツッコミの形を取っている

「フリ」が起点となるため雑な「フリ」だと伝わりにくい。「フリ」は重要な導入箇所と考える！

事業計画書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人えがおさんさん</p>
<p>事業名</p>	<p>秋まつり（会場リアル参加午前、午後とオンライン別日予定）</p>
<p>① 事業目的・概要</p>	<p><b>ア 事業目的</b></p> <p>難病、医療的ケアなど、重い障がいのある子どもを育てるご家族には、発作など疾患や症状の理由や医療的ケア、また医療機器など必要な物品の多さとマンパワーの課題から外出へのハードルが高く、孤立しがちな背景がある。</p> <p>知的障がい、発達障がいを持つ子どももじっと座っていることが難しく、親御さん自身が安心して楽しめるイベント参加することは難しい。</p> <p>特にコロナ感染拡大以降その傾向は強まった。子どもの体調管理や日常の身体介護も安心して実施しながら参加できるイベント開催を目的とした。</p> <p>参加者の体調面を鑑み暑さ寒さの影響を受けにくい時期に開催を計画した。</p> <p>昨年度は、新宿区子ども家庭部子ども家庭課企画係より、新宿区子ども未来基金を頂き、会場の希望で人数制限を設定しつつ慎重にリアル開催を実施したところ、思った以上の参加数があり必要性を強く感じた。開催後参加者へのアンケートで3年ぶりの参加を喜ばれる声や初めて参加し他のご家族との交流を喜ばれる声が聞けたことより、今年はグレードを上げての開催を試みたい。</p>
	<p><b>イ 事業概要</b></p> <p>会場をお借りし、難病や障がい、また医療的ケアのある本人とご家族に法人の有志ボランティア事業で開催する秋まつりへ参加してもらう。</p> <p><b>【事業内容】</b></p> <p>室内（ホール）内でのお祭りの開催。</p> <p>外部依頼出演者、学生ボランティアによるショーなど出し物。</p> <p>縁日（ゲーム体験など）の開催。</p> <p>作業療法士によるスイッチなどおもちゃ等機器の体験ブース。</p> <p><b>【実施の手法】</b></p> <p>車いす、障がいのある子ども達の使いやすい会場を使用。</p> <p>専門の医療福祉職のスタッフ参加により安全の確保。</p> <p>学生ボランティアの参加（子ども達ご家族には好評です。）</p> <p>計画的な会議の設置により感染、安全対策を話し合いイベントを実施</p> <p>外部の映像技術者、音響担当者、出演者に参加を依頼。</p> <p>医療福祉職有志には企画から関わってもらい、ご家族ご本人の参加方法を検討してもらう。また学生ボランティアにも会場企画から関わってもらい、出し物、縁日を担当してもらう。</p>

<p>② 地域課題・社会的課題</p>	<p>障がいのある子どもたちは同じ地域で暮らしながら、日頃からそれぞれが離れた特別支援級や支援学校、また訪問級、また通所へ通われ、地域の人をはじめ、親同士が顔を合わす事も少ない。</p> <p>障がいのある子また人は、それぞれの障がい特性や疾患により、多動や不眠、発作、麻痺、呼吸困難などさまざまな症状があり、そのためにご家族はご家族だけでは抱えきれない養育、療育、介護（子育て）などケア上で、そして将来への不安など多くのストレスを抱えている。</p> <p>発作や呼吸困難、心臓の疾患などがある場合、ご本人の体調管理のハードルも高く安易に外出することはままならない。</p> <p>障がいのある子(者)のごきょうだいがいる家族は、当事者である子(者)のケアのためにそのきょうだいの地域参加に行かれない、時には親自身の通院さえままならない状況がある。</p> <p>知的障がい、発達障がい、また難病や重度心身障害や医療的ケアのある児者のご家族は夜も休めない状況にあることも多い。区内にはまだ医療福祉、教育等のサービスを十分に受けられていないご家族もいる。</p> <p>対応は多様で、個別性や専門性が求められるため、他者に依頼したくても難しい状況も多く、例え行先があっても（通園や通学、就労ができて）、親が付き添い、離れられないこともある。</p>
<p>③ 活動内容  <small>(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</small></p>	<p>I. イベント（会議）名：(秋まつり二部制)</p> <p>ア イベント（会議）の開催予定等</p> <p>活動内容：障がいのある児者とご家族、地域参加のお祭りを開催</p> <p>実施期間：R 5年 10月</p> <p>実施回数：( 2 ) 回/年（リアル・オンライン）</p> <p>実施場所：オンライン1回・会場AM・PMの2回（区内の学校等）</p> <p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者：障がいのある児者とご家族、地域</p> <p>参加予定人数： のべ(200)名</p> <p>ウ 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> ポスター <input type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> HP <input checked="" type="checkbox"/> その他(SNS )</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 区施設(あいあい・新宿養護学校) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input type="checkbox"/> その他( )</p> <p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( 7 ) 名 講師等 ( 2～3 ) 名</p> <p>アルバイト ( ) 名 ボランティア ( ) 名</p>



	<p>II. イベント (会議) 名 : ( )</p> <p>ア イベント (会議) の開催予定等</p> <p>活動内容 :</p> <p>実施期間 : R 年 月 ~ R 年 月</p> <p>実施回数 : ( ) 回 / 月・年</p> <p>実施場所 : オンライン ・ 会場 ( )</p> <p>イ 対象者及び参加予定人数</p> <p>対象者 :</p> <p>参加予定人数 : のべ ( ) 名</p> <p>ウ 周知</p> <p>&lt;媒体&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> ポスター <input type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <p>&lt;周知先&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 区施設 (特別出張所、地域センター等) <input type="checkbox"/> 区直営掲示板</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <p>エ スタッフ等人数 (のべ人数を記載)</p> <p>団体構成員 ( ) 名 講師等 ( ) 名</p> <p>アルバイト ( ) 名 ボランティア ( ) 名</p>
<p>④ 安全対策等 (箇条書きで ご記入ください)</p>	<p>ア 事業実施にあたっての具体的な安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉の専門職に参加依頼。学生ボランティアに参加依頼。</li> <li>・イベントの趣旨を説明、当日に向けて各イベントスタッフとの打ち合わせ、リスク管理会議を実施。</li> <li>・会場、出演者とすり合わせ。</li> <li>・前日より会場をお借りして準備。開催のイメージシミュレーションを図る。</li> </ul> <p>イ 新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要備品 (消耗品・感染症対応物品などの購入)</li> <li>・児者(じしゃ)の様子を理解、対応が取れる医療福祉の専門職を配置</li> <li>・会場の窓を全開し換気を実施。各所に衛生、消毒のグッズを設置。会場設営への工夫もする。</li> <li>・参加者に対して、対応可能な最低限のスタッフ人数を確保。柔軟な対応に備える。</li> </ul>
<p>⑤ 期待される効果</p>	<p>ア 区民や地域社会への成果・効果</p>

	<p>新宿区にはさまざまな人達が生活している。その中に、障がいのある子どもや大人も生活している。活動を通し、区民の方々にも、地元で生活するそのような子ども達（人達）やご家族のことも知って頂く。</p> <p>活動を通し、当該者家族同士のつながりをつくる。また、区内の潜在的な当該者、家族を拾いたい。</p> <p>支援に関心のあり人の活動参加の機会にもしていきたい。</p>
	<p>イ 現状や課題に対する成果・効果</p>
<p>⑥ 先駆性・専門性</p>	<p>家族だけでは抱えきれない養育、療育、介護（子育て）のストレスをイベントを通して発散して頂く。家族介護を負担しているご家族が喜ばれると当該者、ごきょうだいにも安心感や笑顔が見られる。この機会にご家族、親同士の交流により孤立対策を図る。親、家族同士の交流を重視しつつ、看護・リハビリ、介護、保育士、指導員等専門家とのつながりを通じ、子育て、家族介護の困りごとを相談。解決への糸口となる。</p> <p>学生ボランティアとの関わりはご家族にとって大きな希望、楽しみになってきた。普段関わる機会の少ない学生との交流も期待する。</p>
<p>⑦ 今後の展望</p>	<p>当法人（えがおさんさん）は1995年ころより任意団体として活動を開始し新宿区を中心に、多くの難病やまた人工呼吸器など医療的ケアのある障がいのある児者とごきょうだい、ご家族の支援をしてきた。社会の中で認知されにくく孤立しがちな立場にある中で、当該者、ご家族はコロナ感染症拡大により、更に閉鎖的な状況に追い込まれざるを得なかった。当該者、ご家族のつながりや交流を復活させたい。</p>
<p>⑧ 過去にこの助成を受けた実績</p>	<p>助成年度（令和 年）      事業名（      ）</p> <hr/> <p>助成年度（令和 年）      事業名（      ）</p> <hr/> <p>助成年度（令和 年）      事業名（      ）</p>
<p>⑨ この事業に対する他の助成の有無（申請中のものを含む）</p>	<p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> 有      <input checked="" type="checkbox"/> 無</p> <hr/> <p>有の場合は、助成名称（団体）及び助成額</p> <p>助成名（団体名）：</p> <p>助成額：    円</p> <p><small>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</small></p>

収支予算書

		費目	予算額	内 訳
支 出 区 分	事 業 費	① 使用料及び賃借料	50,000 円	会場貸借費 ※区内の学校が借りられない場合
		② 消耗品費及び印刷費	20,000 円	文具:テープ、ペン 3,000 円 おむつ交換用の防水シート 10,000 円 ゲーム景品工作材料費 7,000 円
		③ 委託費	350,000 円	撮影:250,000 円 オンライン:100,000 円
		④ 講師謝礼	50,000 円	演者:5名/午前・午後2回分 1人10,000円×5名=50,000円
		⑤ その他謝礼	30,000 円	ボランティア30名×1,000円(交通費含む)=30,000円
		⑥ 交通費	円	
		⑦ 保険料	5,263 円	イベント保険 33円×150人=4,950円 振込手数料 313円
		⑧ その他諸経費	26,280 円	荷物運搬費 15,000円 チラシ等郵送費 94円×120人分=11,280円
		⑨ 新型コロナウイルス感染症対策経費	20,000 円	手指消毒:500円×50人=25,000円 手指消毒 1,000円×4個=4,000円 除菌ウェットティッシュ 1,000円×10個=10,000円 マスク(100枚) 2,000円 上限額20,000円の為、21,000円は助成対象外経費へ
		⑩ 人件費	57,000 円	団体構成員7名×3,000円=21,000円 人件費 13名×2,000円=26,000円 音響ボランティア2名 5,000円×2=10,000円
事業費 (①から⑩の合計)			608,543 円	
⑪ フレンドレイジングに関する経費			円	
⑫ 助成対象経費 (事業費+⑪)			円	
⑬ 助成対象外経費			21,000 円	⑨ コロナ対策経費上限超過分 21,000 円
事業総額			629,543 円	
収 入 区 分	内 容		予算額	積算根拠 (内訳)
	㊦ 事業収入 (参加費、資料代等)		円	
	㊧ 寄附金等		円	
	㊨ 補助金収入		円	
	㊩ 協働推進基金助成金		412,000 円	
	㊪ 団体負担金		217,543 円	
収入総額			629,543 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) トクテイヒエイリカツドウハウジンエガオサンサン 特定非営利活動法人えがおさんさん	
所 在 地 (主たる事務所)	[Redacted]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) 田中 歩	
	連絡者氏名 [Redacted] [Redacted] [Redacted]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 2007年 1月 その他の場合 1994年 2月活動開始 活動歴 29年 か月 ( 年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	職員: 62名 会員, 賛助会員: 14名・49名 ボランティア: 80名	入会条件 法人の活動を理解し賛同する人
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿区区・市 その他 ( 23区内)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) <input checked="" type="radio"/> (年 2回発行) / 無 ----- (ホームページ) <input checked="" type="radio"/> (URL) <a href="https://egaosunsun.com/">https://egaosunsun.com/</a> / 無	

<p>団体の目的 (定款の目的)</p>	<p>特定非営利活動法人えがおさんさんは、重い病気や障害のある子どもも家に帰って家族と暮らせるように、制度の有無にかかわらず、子どもと家族の生活に寄り添う支援を行い続けて、約25年になる。当初は人工呼吸器をつけた子供の在宅生活を支援するボランティアグループとして出発し、2007年1月に現在の法人格を取得。現在に至るまで医療的ケアのある子ども、知的発達障害の子ども、また子どもを育てるそれぞれの家族のニーズを大切にしながら、訪問看護、居宅介護、移動支援、放課後等デイサービス事業、医療的ケアの必要な重症児のための児童発達支援、放課後等デイサービス事業を実施。さらに制度に該当しないニーズに対しては、オーダーメイドの支援を行ってきた。また、当初からのボランティア精神を大切にえがおファンクラブ活動を職員有志で立上げ、学生ボランティアも含み障がい児者の居宅以外の居場所を楽しむことができるお祭り等のイベントを定期的に開催。一方法人として2020年度に中長期計画5か年計画を策定。</p> <p>“障がい児者と家族のえがおを増やすことによって誰もがえがおで暮らせる社会を実現する”を法人のミッション(使命)と定め、ビジョンとして定めた①“障がい児者と家族が、自宅で安心して生活できる社会②障がい児者が自分の人生を自分らしく選択できる社会③障がい児者と家族を応援する人が増えることで、誰もが笑顔で暮らせる社会”の実現のため法人一丸となって事業活動に取り組んでいる。</p>
<p>主な活動 (具体的に記入してください)</p>	<p>新宿区民を対象とした活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新宿区内での障害児や難病・重度障害児(医療ケア含む)への訪問看護、介護、放課後等デイサービス事業及び、公的外の在宅支援・レスパイト支援(学習、遊びのサポート、外出支援など)</li> <li>◆ごきょうだい支援・イベント企画運営</li> <li>◆区内外の障害児の親の会交流会支援</li> </ul> <p>家族交流会支援事業・人工呼吸器をつけた子の親の会(会員の子)へのボランティア派遣等サポート支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆区内で障害児や難病で医療ケアの必要な子どものモデルデイサービス事業の実施</li> <li>◆活動通信発行</li> </ul>
	<p>上記以外の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆専門家によるボランティア研修開催</li> <li>◆区内外の障害児の親の会交流会支援</li> </ul> <p>家族交流会支援事業・全国人工呼吸器をつけた子の親の会(会員の子)へのボランティア派遣等サポート支援</p>
<p>新宿区との連携実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名</li> <li>・連携事例</li> <li>・連携した内容の詳細</li> </ul>



特定非営利活動法人

# えがおさんさん

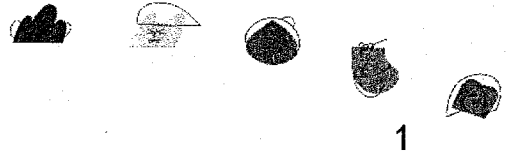
こどものえがおで、社会をえがおに。

難病、障がい、医療的ケアなどのある  
子どもたち、ご家族参加の

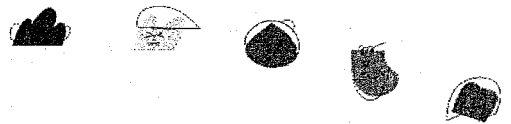
## 「秋まつり」の開催

特定非営利活動法人えがおさんさん  
えがおファンクラブ事業部

2023/5/23



## 特定非営利活動法人えがおさんさん



1996年より、新宿区を中心に障がいのある子どもと  
ご家族に寄り添い、訪問看護・介護・児童デイと、  
ボランティア事業を通して生活支援をしています。



こどものえがおで、  
社会をえがおに。

特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

2

# 障がいのある子どもとご家族の生活

日頃の関わりより見えること

- 難病、医療的ケアなど、重い障がいのある子どもを育てるご家族は、慢性的な睡眠不足や疲労を抱えています。病院とご家庭の両輪は欠かせず、他のご家族の予定や、親御さんご本人の通院も難しい状況が見られます。
- 知的、発達障がいのある子のご家族は、元気でエネルギー量が高い、またこだわりが強く、スムーズに生活が進まないなど、その対応にストレスや疲労が蓄積される傾向が見られます。



特定非営利活動法人

**えがおさんさん**

こどものえがおで、社会をえがおに。

3

# 障がいのある子どもとご家族の生活

日頃の関わりより見えること

- 難病、医療的ケアなど、重い障がいのある子どもを育てるご家族には、発作など疾患や症状の理由や医療的ケア、また医療機器など必要な物品の多さとマンパワーの課題から外出へのハードルが高く、孤立しがちな背景があります。
- 知的障がい、発達障がいを持つ子ども達はじっと座っていることが難しかったり、嬉しかったり楽しかったりしても大きな声や動きで表現するため親御さんが安心して楽しめる場に限りがあります。



特定非営利活動法人

**えがおさんさん**

こどものえがおで、社会をえがおに。

4

## 申請事業の紹介

- ◆ご本人、ごきょうだい、ご家族みんなが参加でき、みんなで楽しめる秋まつりを計画。



## 申請事業の紹介

- ・ホール(会場)内でのお祭りの開催。
- ・外部依頼出演者、学生ボランティアによるショーなど出し物。
- ・縁日(ゲーム体験など)の開催。
- ・作業療法士によるスイッチなどおもちゃ等機器の体験ブース。
- ・医療福祉専門職スタッフの参加。



# 期待される効果

- ご家族、親同士の交流により孤立対策を図る。親、家族同士の交流を重視しつつ、看護・リハビリ、介護、保育士、指導員等専門家とのつながりを通じ、子育て、家族介護の困りごとを相談。課題解決への糸口となる。
- 地域に公開開催し、区内の潜在的な当事者、家族を拾い、利用できる支援へつなげていく。



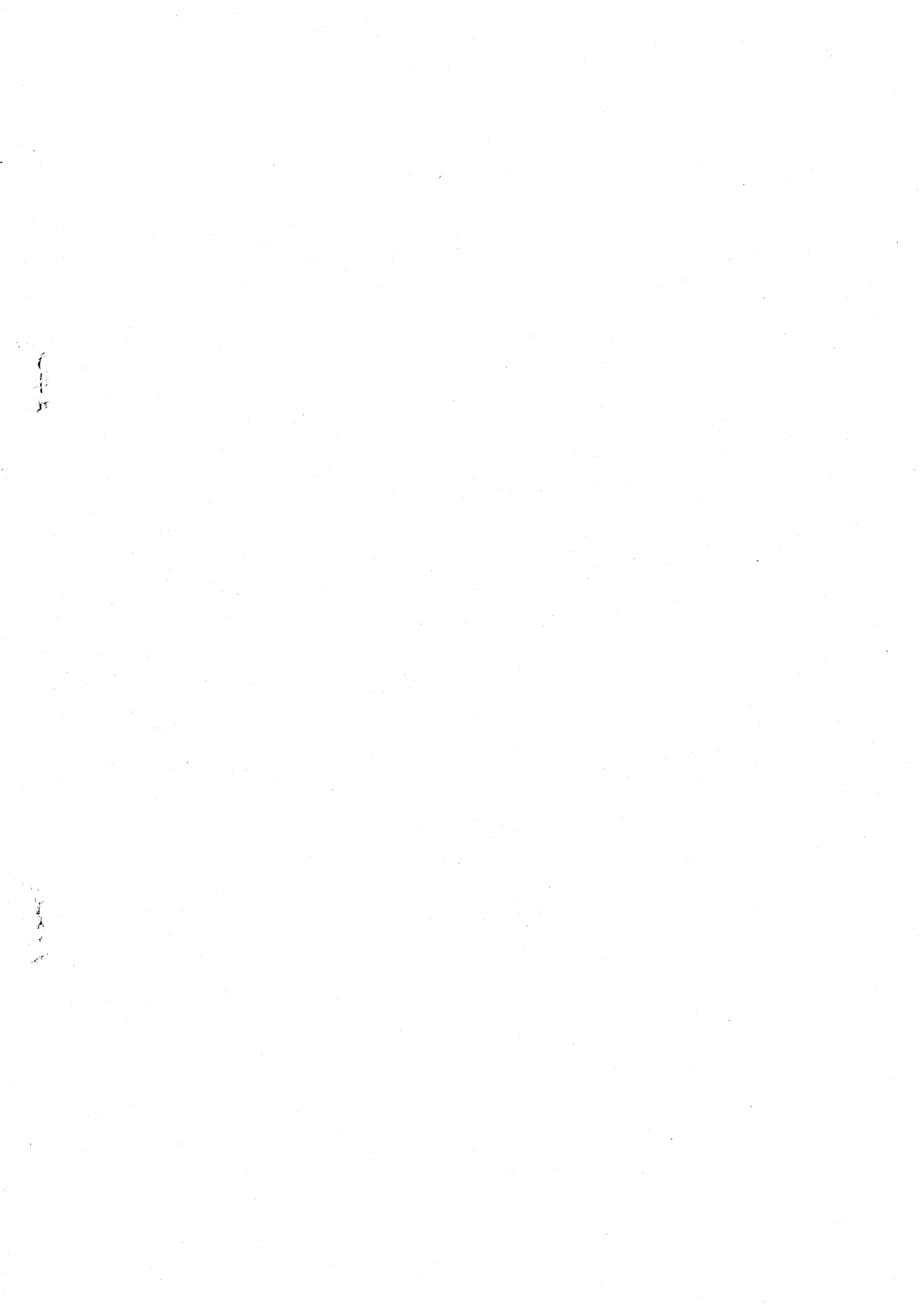
特定非営利活動法人

**えがおさんさん** 7

こどものえがおで、社会をえがおに。

1000

1000



## ～新宿区協働推進基金～

区民の方・事業者の皆さんからのご寄附を基金として積み立て、NPO等の非営利の団体が行う区民のための社会貢献活動に助成を行っています。(本助成もこの基金から助成を行っています)。

新宿区では、活動を支援するためにご寄附の受付を行っています。基金へのご寄附は税制上の優遇措置(寄附金控除)が受けられます。詳しくは、管轄の税務署・お住いの区市町村の税務担当課にお問い合わせください。

ご寄附をいただける方は地域コミュニティ課管理係(5273)3872までお問い合わせください。寄附金を直接、地域コミュニティ課管理係またはお近くの特別出張所窓口にお持ちいただくこともできます。

社会貢献活動のご興味があってもなかなか時間がとれず、参加ができない方等にも基金を通して社会貢献ができる制度です。是非お気軽にお問い合わせください。

NPO等の先駆性や専門性を活かした事業に助成し、区民の皆さまが暮らしやすいまちづくりを目指します!



新宿区地域振興部地域コミュニティ課  
管理係

TEL:03-5273-3872 FAX:03-3209-7455

URL:<https://www.city.shinjuku.lg.jp/>